平成22年度 研修報告書　第37号

生涯スポーツの振興をめざして vol.Ⅱ

～ 仙南型総合スポーツクラブへのアプローチ ～

【大河原地区社会教育主事研究協議会】

発刊にあたって

大河原教育事務所管内で社会教育が始まって６０年が経ちました。我々，大河原地区社会教育主事研究協議会では，これまで，社会教育に携わる多くの先輩方が築いてきた６０年という歴史を受けとめながら，社会教育に関する学びや感動体験を援助推進する中で，課題となっている事柄について現状と課題をさぐり，その解決策を見いだしていくという研修活動を行っています。

毎年,各市町等から１名ずつ研修委員を選出し,毎月１回のペースで研修委員会を開催しています。研修委員は，多忙な通常業務をこなしながら，月１回開催される研修委員会のために，研修の進捗状況に応じて，各市町等の現状と課題の把握やその解決策等を検討し，その状況を研修委員会に持ち寄り報告し合うとともに，研修委員みんなでよりよい解決策を見出していくことに努めています。研修テーマに沿って研修委員が自ら考えること，そして，その考えを研修委員会で議論し合うこと，このすべてが研修となります。これらの研修を通して研修委員の資質の向上につながり，さらには，各市町等の社会教育の充実振興につながっていきます。

その１年間の研修の成果である報告書を，今年度も発刊する運びとなりました。この報告書も昭和４８年度以来毎年発刊しており，今回で３７号となります。

今年度の研修テーマは,「総合型地域スポーツクラブ」で，昨年度に引き続き２年間にわたるテーマです。今年度は，昨年度実施した小・中学生と一般対象の「スポーツに関するアンケート調査」の詳細分析をメインとして，先進地視察研修，総合型地域スポーツクラブについての講話及び座談会を実施し,最終的に総合型地域スポーツクラブ「仙南プランのススメ」として提言することができました。この研修報告書を読んでいただくと分かると思いますが，「総合型地域スポーツクラブ」設立のためのヒントが随所に現れています。

最後に，この研修報告書が一人でも多くの社会体育関係者に読まれ，そして活用されることで,「総合型地域スポーツクラブについて考えてみっぺ」「おれたちの町でもやってみっぺ」と，各市町にふさわしい総合型地域スポーツクラブの在り方について，みんなで考えていただくきっかけとなれば幸いです。また，１年間ご指導いただきました大河原教育事務所の皆様をはじめ，この研修にご協力いただきました皆様に感謝申し上げますと共に，本年度研修に取り組まれた各市町の研修委員の皆さんのご努力に対し，心から敬意を表し発刊のことばといたします。

平成２３年３月

大河原地区社会教育主事研究協議会
会　長　柴田町社会教育主事　大川原　真一

発　刊　を　祝　し　て

宮城県大河原教育事務所長　倉　田　栄　喜

昨年７月２０日，国は新たに「スポーツ立国戦略」を発表いたしました。この中で，平成１２年９月に発表したスポーツ振興基本計画において，「成人週１回以上のスポーツ実施率が５０％になることをめざす」という目標が，「成人の週１回以上のスポーツ実施率が３人に２人（６５％程度），成人の週３回以上のスポーツ実施率が３人に１人（３０％程度）となることを目指す」という高い目標に引き上げられました。この背景には，「すべての人々にスポーツを！スポーツの楽しみ・感動を分かち，支え合う社会へ」という，新たなスポーツ文化の確立をめざした国のねらいがあります。

さて，宮城県では，平成２３年１月の段階で２９の総合型スポーツクラブが設立されたほか，複数の団体が設立準備委員会を立ち上げています。県内各地で進んでいる住民のスポーツへの主体的な取組を，少しでもこの大河原管内にも広めていただきたいところです。

先に触れた国のスポーツ戦略の中で，「新しい公共」という言葉が使われています。地域スポーツ活動の推進により，「新しい公共」の形成が促され，地域住民のスポーツへの興味・関心を高めるための社会全体での支えが，ひいては地域づくりにつながっている事例がたくさん報告されています。当管内でも，ぜひスポーツを通した地域づくりにつなげる活動が展開されていくことを願っています。

また，昨年度からの研究が今後，各市町の社会体育行政に生かされ，管内の各地に総合型地域スポーツクラブが立ち上がる一助になるものと確信しております。ぜひ研究の成果を関係団体の皆様にもお知らせいただきたいと思います。

最後になりましたが，大河原地区社会教育主事研究協議会の皆様が，昭和４８年以来社会教育・生涯学習をテーマに絶えざる研修を積み重ね，着実に成果をあげ「研修報告書（第３７号）」として発刊されましたことは大変素晴らしく，会員の皆様の真摯な研究姿勢とご努力に敬意を申し上げます。なお，本書を刊行されるにあたり，多くのご努力を払われました研修委員の皆様と貴研究協議会並びに，会員の皆様を支えていただいている関係各教育委員会の皆様に対し，心より感謝を申し上げますとともに，一層のご発展を祈念しお祝いのことばといたします。

目　　次

発刊にあたって　……　大河原地区社会教育主事研究協議会　会長　大川原　真一

発刊を祝して　……　宮城県大河原教育事務所　所長　倉田　栄喜

◇　はじめに　……　1

◇　研修テーマと経過　……　3

◇　スポーツの現状に関するアンケート調査の詳細分析　……　5

◇　先進地研修視察報告　……　33

◇　講話及び座談会（総合型地域スポーツクラブについて）　……　45

◇　提言　仙南型総合スポーツクラブ『仙南プランのススメ』　……　57

◇　資料編（昨年度のダイジェスト・アンケート調査データ）　……　63

◇　まとめと課題　……　73

◇　おわりに　……　74

はじめに

仙南の生涯スポーツの振興方策を“総合型地域スポーツクラブ”という視点で２年間にわたり探り続けた研修の成果を「生涯スポーツの振興をめざして volⅡ～仙南型総合スポーツクラブへのアプローチ～」として，ここに報告できる時がきました。

前回の報告書は社会体育関係者の方々に目を通していただきました。そのことに我々の研修が少なからず管内のスポーツ振興へ寄与できたものと考え，平成２２年度研修委員はさらなる使命と意欲を持って研修に取り組もうとしてきました。

しかしながら今年度，研修委員の多くが入れ替わったこともあり，年度当初は研修報告書第３６号の勉強から始めることになりました。そのこともあり，前年までの研修内容について研修委員全員の足並みを揃えたところからが，本当の意味での研修２年目が始まったのです。今年度の研修委員はベテランから中堅，若手までバランス良く構成されており，それぞれの持ち味を存分に発揮し，意見やアイデアを出し合い，補い合いながら，チームとしての絆を深め素晴らしい研修を積み重ねることができました。

この報告書は研修委員が２年間の研修で得た“三つの宝”から構成されています。一つ目は仙南アンケートの「分析結果」，二つ目は先進地視察や座談会で得た「知識」，そして三つ目に生涯スポーツ振興に懸ける研修委員の「熱い思い」です。これら三つの宝を研修委員で何度も磨きあげながら，本報告書に凝縮いたしました。

報告は「提言」という形で一応の結論を示してはおりますが，これはあくまでも仙南におけるスポーツ振興の“土台”としての提言です。この土台の上にどのように柱を組み上げていくかに，本当の意味での仙南のスポーツ振興の方向性が懸ってくるものだと考えます。

平成２２年度は文部科学省の「スポーツ立国戦略」はじめ，日本代表サッカーの活躍，市民ランナーの活躍，相撲問題等々…スポーツ界においても大きな変動がありました。そのような中で我々の研修が行われたことに大きな意義と運命を感じております。

前置きが長くなりました。それでは２年次研修の成果をご覧ください。
本報告書が微力ながら仙南のスポーツイノベーションの芽生えを促すことを祈念して・・・。

平成２３年３月

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会
研修副委員長　　大河原町派遣社会教育主事　平　林　　健

研修テーマと経過

研修テーマと経過について

1　研修テーマ

生涯スポーツの振興をめざして vol.Ⅱ　～仙南型総合スポーツクラブへのアプローチ～

2　研修テーマ設定の理由

（1）研修の目的

①大河原教育事務所管内における生涯スポーツの振興をめざして，総合型地域スポーツクラブの必要性・重要性・可能性について探る。

②大河原教育事務所管内の各市町におけるスポーツに関する住民アンケート調査を詳細に分析し，住民のスポーツに対するニーズやスポーツクラブの姿について探る。

③大河原教育事務所管内における総合型地域スポーツクラブ「仙南型総合スポーツクラブ」の在り方について提言する。

（2）研修テーマ設定の理由

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会では，昨年度に引き続いて「生涯スポーツの振興をめざして」を研修テーマとした。現在，総合型地域スポーツクラブの必要性が叫ばれる中，管内では角田市の「スポーツコミュニケーション・かくだ」以外に総合型地域スポーツクラブの設立をみていない。このような状況の下，総合型地域スポーツクラブ（仙南型総合スポーツクラブ）の設立に向けて，研究を進めて行かなければならないと考えた。

「総合型」の定義について考えてみると，３つの多様性があげられ，１つは種目の多様性であり，１つは世代や年齢の多様性，そして，もう１つは技術レベルの多様性である。また，総合型地域スポーツクラブは，単にスポーツ活動の場としてではなく，地域住民の交流の場であり，子供たちのつどいの場であります。

日常的に活動の拠点となる施設（クラブハウス）を中心に，会員である地域住民や子供たちのニーズに応じた活動が，質の高い指導者のもとに行えるスポーツクラブが一つの姿である。

しかし，総合型地域スポーツクラブを立ち上げる中で，大事なことは，体育協会やスポーツ少年団等の団体との連携である。また，地域の社会体育，生涯スポーツ活動の状況や施設の現状等をよく把握し，住民の方々や子供たちがスポーツに対してどのようなニーズを持っているのかを調査し，それぞれの地域にあった総合型地域スポーツクラブの姿を地域の中で話し合いをしながら作り上げて行くことだと考える。

また，総合型地域スポーツクラブを中心として，地域の社会体育，生涯スポーツの振興を図る上でも，地域住民や子供たちがやりたいときに，いろんな種目を，気軽に楽しめるスポーツ環境の整備が必要とされている。さらに，家庭，学校，地域が連携・協働して，子供たちと共に地域住民が積極的に運動やスポーツに親しむ習慣を培うことも必要であると思われる。

これらを踏まえて，研修委員会としては，スポーツに関する住民アンケート調査の詳細分析，先進地視察研修，講話と座談会をとおして，大河原教育事務所管内における総合型地域スポーツクラブ「仙南型総合スポーツクラブ」の在り方について提言をし，今後の社会体育行政の発展に生かせればと考え，平成２１年度・２２年度の２年目の研修を進めることとした。

（３）研修日程と経過

月　日　（曜日）	会　　議　　名	会　場	内　　容
４月２３日（金）	第１回主管課長・社会教育主事合同会議 社会教育主事研究協議会総会	大河原合同庁舎	２１年度事業，会計決算報告 ２２年度事業，予算，役員改選等
５月１１日（火）	第１回研修委員会 第１回社会教育主事研究協議会	大河原町役場 大　会　議　室	研修内容及び年間計画等の検討，研修テーマの検討と決定， 話題提供
６月　４日（金）	第２回研修委員会 第１回社会教育主事会議	大河原合同庁舎	研修の進め方と方向性，アンケート調査詳細分析の検討，研修視察地の検討
７月１４日（水）	第３回研修委員会 第２回社会教育主事研究協議会	七　ヶ　宿　町 水と歴史の館	アンケート調査詳細分析の方法の決定，研修視察地の選定， 話題提供
９月　７日（火）	第４回研修委員会 第１回社会教育主事等研修会	大河原合同庁舎	アンケート調査詳細分析の内容の検討，講話及び座談会の検討，研修視察の実施計画と役割分担
９月２８日（火）	社会教育主事研究協議会 先進地研修視察	七ヶ浜町 中央公民館 多賀城市 総合体育館	研修テーマの先進地調査 「七ヶ浜町アクアゆめクラブ」 「多賀城市民スポーツクラブ」
１０月　７日（木）	第５回研修委員会 第３回社会教育主事研究協議会	川崎町公民館	研修視察の反省，アンケート調査詳細分析の内容の議論，研修報告書の内容検討 話題提供
１１月１６日（火）	第６回研修委員会	大河原合同庁舎	アンケート調査詳細分析・考察・まとめの検討，研修報告書の内容検討，講話及び座談会の実施
１１月２６日（金）	第２回主管課長・社会教育主事合同会議	大河原合同庁舎	平成２２年度事業・平成２３年度事業の連絡と確認
１２月　７日（火）	第７回研修委員会	大河原合同庁舎	アンケート調査詳細分析・考察・まとめの議論，研修報告書の内容と役割分担，講話及び座談会の反省
１月１８日（火）	臨時第１回研修委員会	大河原合同庁舎	アンケート調査詳細分析の取りまとめ，研修報告書の原稿作成，講話及び座談会の取りまとめ
１月２８日（金）	第８回研修委員会 第４回社会教育主事研究協議会	角　田　市 市民センター	アンケート調査詳細分析の取りまとめ，仙南型スポーツクラブの提言の検討，研修報告書の原稿作成 話題提供
２月１０日（木）	第９回研修委員会	大河原合同庁舎	仙南型スポーツクラブの提言の検討，研修報告書のタイトルの検討，研修報告書の原稿作成，校正等
３月　４日（金）	第１０回研修委員会 第５回社会教育主事研究協議会	柴　田　町 しばたの郷土館	報告書の校正，研究のまとめと反省等 話題提供

スポーツの現状に関する
アンケート調査の詳細分析

スポーツの現状に関するアンケート調査の詳細分析

※　比率はすべて百分率（%）で表し，小数点以下第１位を四捨五入して算出している。従って，合計が100%を上下する場合もある。ただし，小数点以下第１位の四捨五入の結果，「０%」となる部分については，小数点以下２位を四捨五入し，小数点以下第１位までの表示としている。
※　基数となるべき実数は，“N＝○○○”として掲載し，各比率はNを100%として算出している。
※　質問の終わりに【複数回答】とある問いは，１人の回答者が２つ以上の回答を出してもよい問いであり，従って，各回答の合計比率は100%を超える場合がある。

【　一般の部　】

≪　回答者の属性について　≫

- 性別については，「女性」が56%，「男性」が42%となり，女性が男性に比べて若干多い。〔図１〕
- 年齢構成については，「40歳代」が40%と最も多く，次いで「30歳代」が28%となった。これについては，アンケートの配布方法が影響したためと考えられる。〔図２〕
- 職業については，「会社員」が35%と最も多かった。個人的な収入があまりないのではないかと思われる層としては，「主婦」が14%，「無職」が８%，「学生」が６%という結果だった。〔図３〕

図１　性別

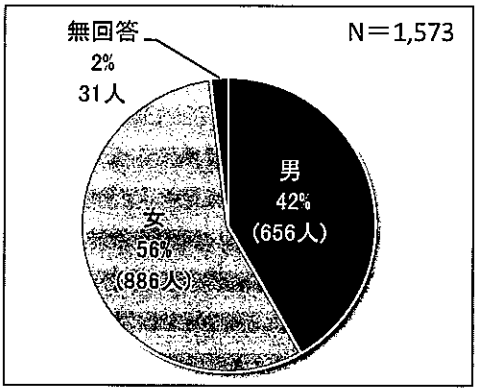


図２　年齢構成

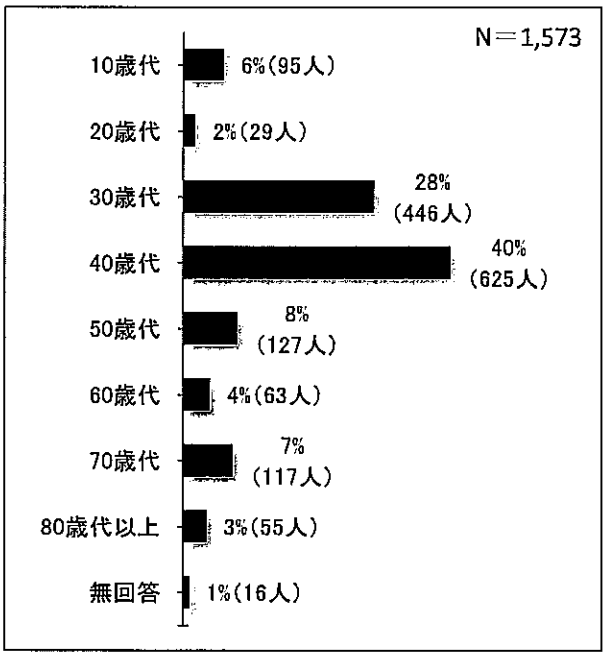
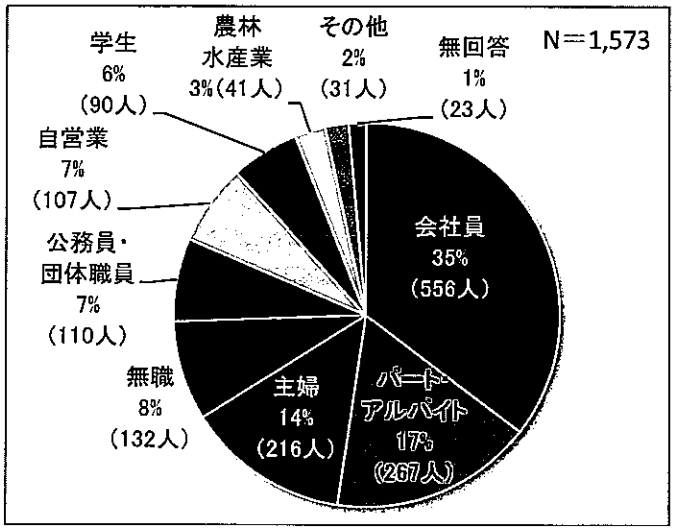


図３　職業



≪分析１≫　運動やスポーツを行う頻度について

◎　運動やスポーツを「していない」と答えた人が約半数であった。

- 運動やスポーツを週１回以上，定期的に実施している人の割合は約 32%となり，国のスポーツ立国戦略で目標としている 65%には達していない。〔図４〕
- 運動やスポーツを「していない」と答えた人を性別ごとにみると，男性（41%）よりも女性（58%）がスポーツを行っていない割合が高いことが分かる。
  同様に年代別では，「50 歳代」（68%）のスポーツを行っていない割合が高い。
  職業別では，「パート・アルバイト」（65%）や「主婦」（58%）がスポーツを行っていない割合が高いことが分かる。〔図５〕

図４　運動やスポーツを行う頻度

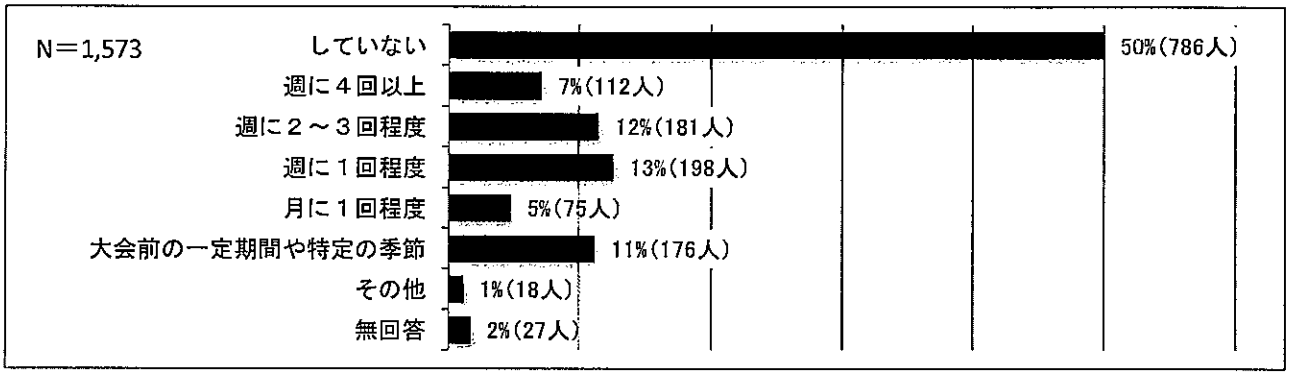
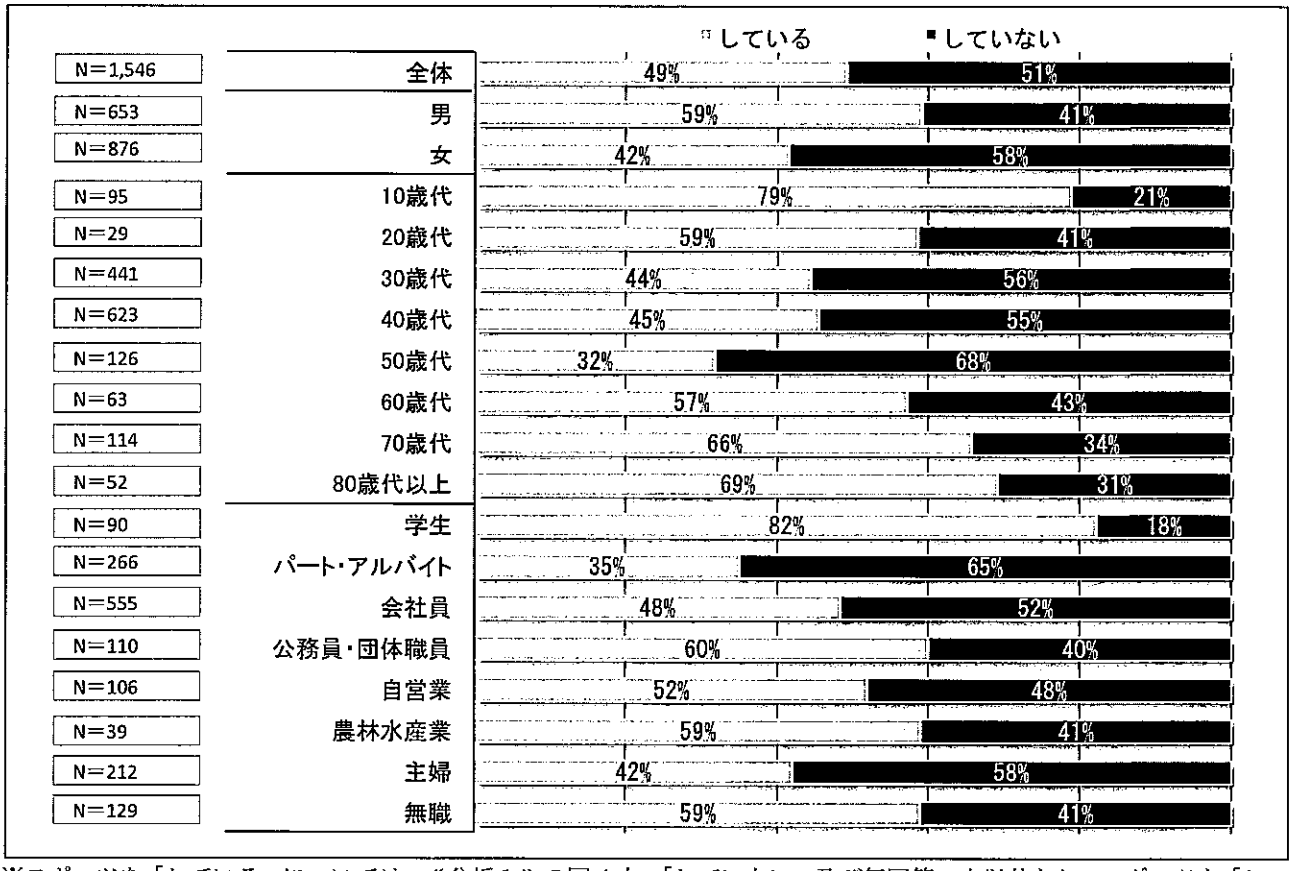


図５　スポーツを「している」「していない」についての性別，年齢構成，職業別比較



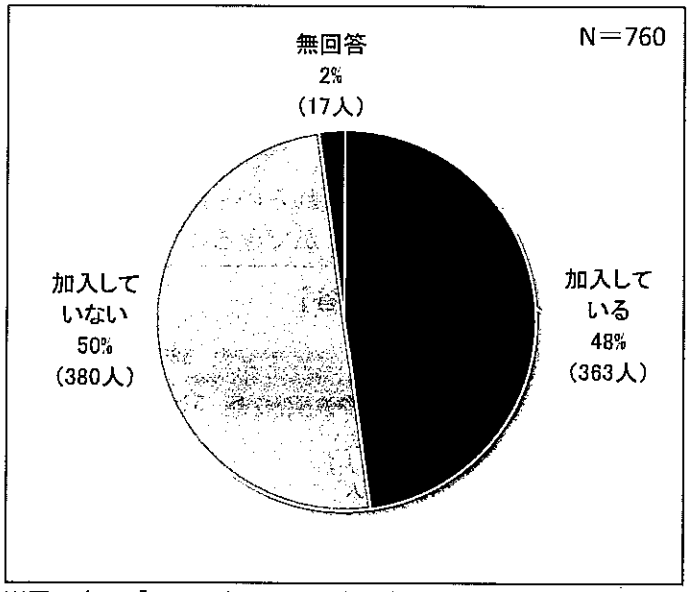
※スポーツを「している」については，≪分析１≫の図４中，「していない」及び無回答の人以外とし，スポーツを「していない」については図４の「していない」と答えた人とした。また，各項目の基数については，各項目の無回答者を除いている。
※スポーツを「している」「していない」について，≪回答者の属性について≫の図１，図２，図３の性別，年齢構成，職業とのクロス分析を行った。

≪分析２≫　スポーツクラブやサークルなどへの加入状況について

◎　スポーツクラブやサークルなどへの加入は約半数。

- 運動を行っている人の現在のスポーツクラブやサークルへの加入状況は，「加入している」「加入していない」が約半数ずつであった。〔図６〕

図６　スポーツクラブやサークルなどへの加入状況



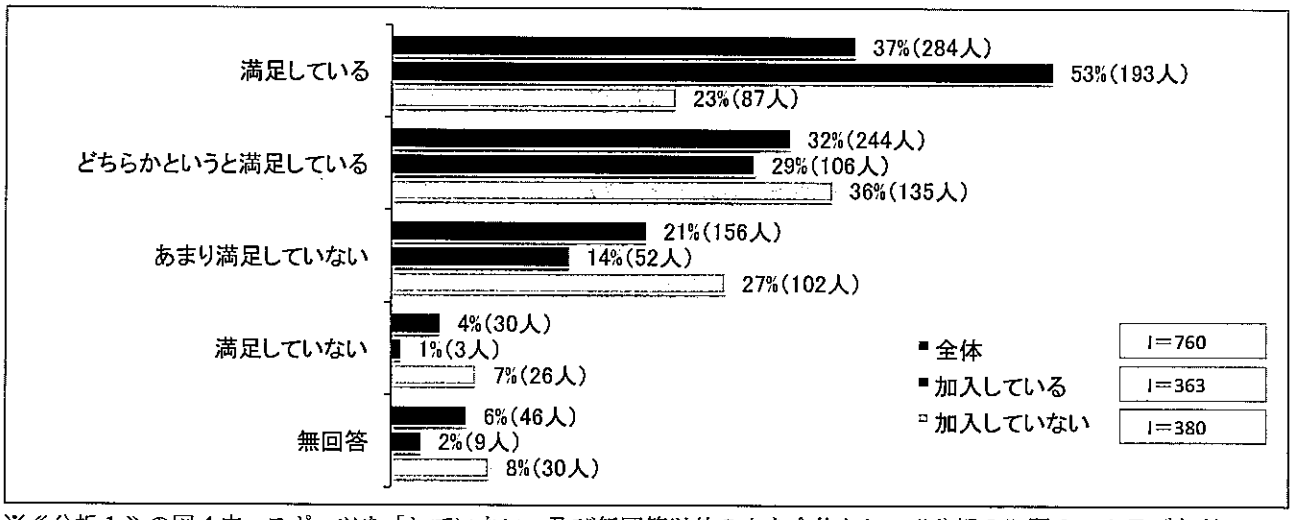
※図４中の「していない」及び無回答の人以外の人が回答した項目。

≪分析２－１≫　スポーツの満足度について

◎　約７割近くが現在行っている運動やスポーツに満足している。

- クラブへの加入状況とスポーツの満足度について詳細に分析したところ，「満足している」人のクラブへの加入割合は高く，「満足していない」人についてはクラブなどへ加入していない割合が高かった。加入したいクラブなどがないことが満足度の低い理由であれば，理想的なクラブを作ることでスポーツニーズに応えていくことができるのではないか。〔図７〕

図７　スポーツに対する満足度とクラブやサークルへの加入状況の関係



※≪分析１≫の図４中，スポーツを「していない」及び無回答以外の人を全体とし，≪分析２≫図６のクラブなどへの加入状況別によりスポーツに対する満足度とクロス分析した。

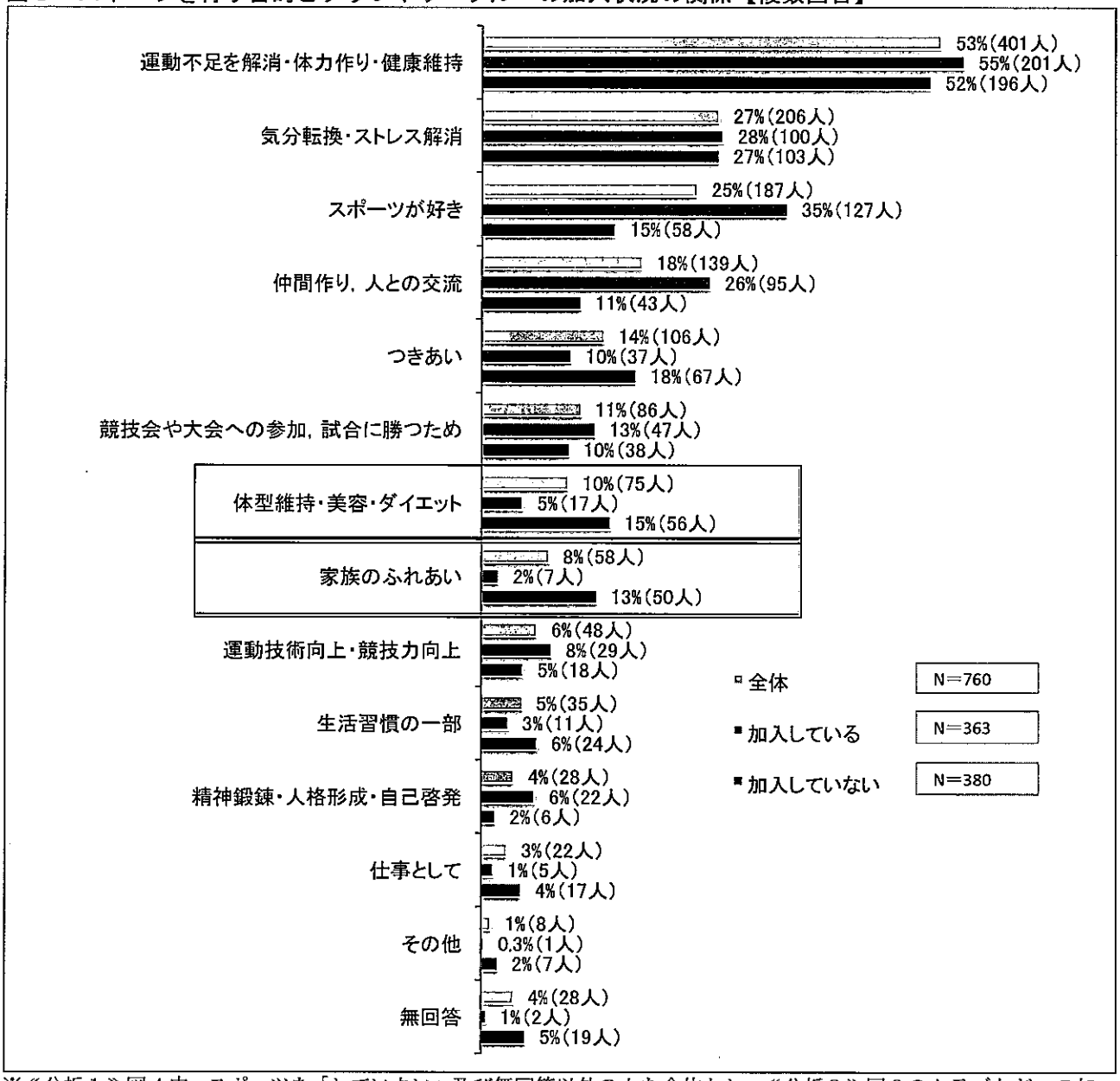
≪分析２－２≫　スポーツを行う目的について

◎　「運動不足解消・体力づくり・健康維持」目的が多い。

- 全体をみると，スポーツを行う目的については，「運動不足解消・体力作り・健康維持」が 53%と最も多く，次いで，「気分転換・ストレス解消」であった。心身の健康をスポーツにより向上させたいという希望が多いことが想像される。

  一方，「競技会や大会への参加，試合に勝つため」や，「運動技術向上・競技力向上」を目的にスポーツを行っていると回答した人は比較的少なめだった。〔図８〕
- 現在のクラブやサークルへの加入状況と，運動やスポーツを行う理由をクロス集計により分析したところ，「体型維持・美容・ダイエット」を目的としてスポーツを行っている人は，クラブに加入している人よりも加入していない人の割合が高かった。同様に，「家族のふれあい」を目的にスポーツを行っている人についても同じような結果となった。これらの目的を達成できるようなクラブがあれば，これらの層の人たちのニーズをかなえることができるのではないか。

図８　スポーツを行う目的とクラブやサークルへの加入状況の関係【複数回答】



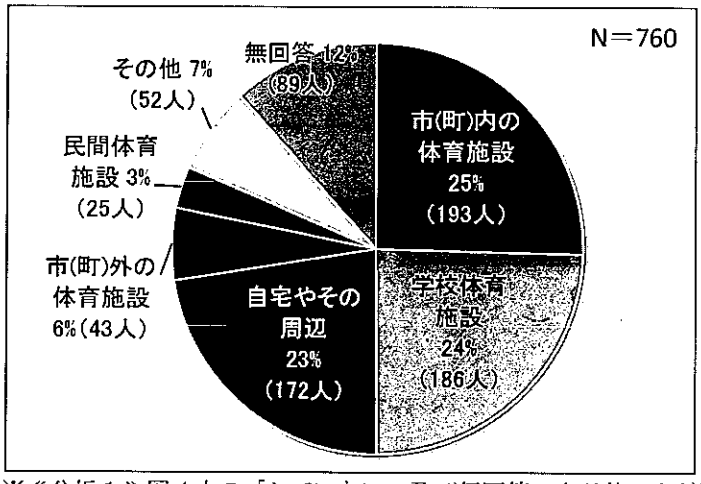
※≪分析１≫図４中，スポーツを「していない」及び無回答以外の人を全体とし，≪分析２≫図６のクラブなどへの加入状況別によりスポーツを行う目的とクロス分析した。

≪分析３≫　スポーツを行う場所について

◎　市（町）外へ出かけスポーツを行っている割合は少ない。

- 「市（町）内の体育施設」「学校体育施設」「自宅やその周辺」との回答がそれぞれ約四分の一ずつとなった。これらのことから，他の市や町へ出かけてスポーツを行う層は多くないことが分かる。〔図９〕

図９　スポーツを行う場所



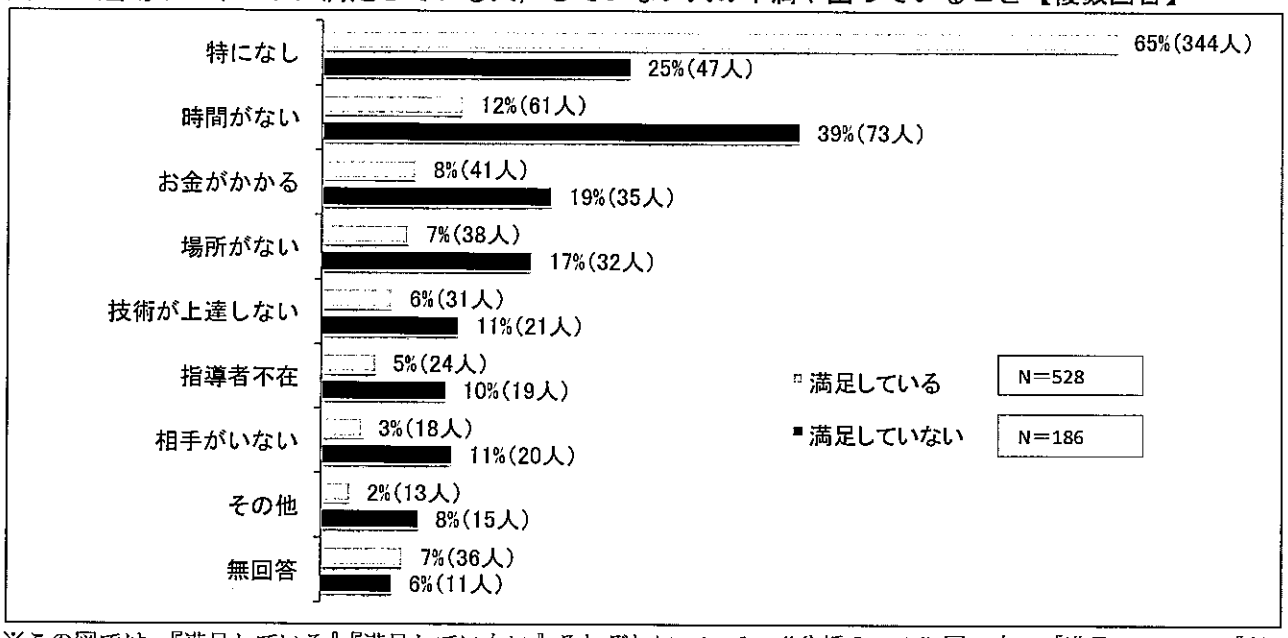
※≪分析１≫図４中の「していない」及び無回答の人以外の人が回答した項目。

≪分析４≫　スポーツを行っている人の不満や困っていることについて

◎　不満や困っていることが「特になし」との回答が多い。

- 現在行っているスポーツ活動に満足している人については，不満や困っていることについては「特になし」が 65%と多かったが，満足していない人については，「時間がない」（39%）という答えが最も多かった。〔図 10〕

図 10　運動やスポーツに満足している人，していない人の不満や困っていること【複数回答】



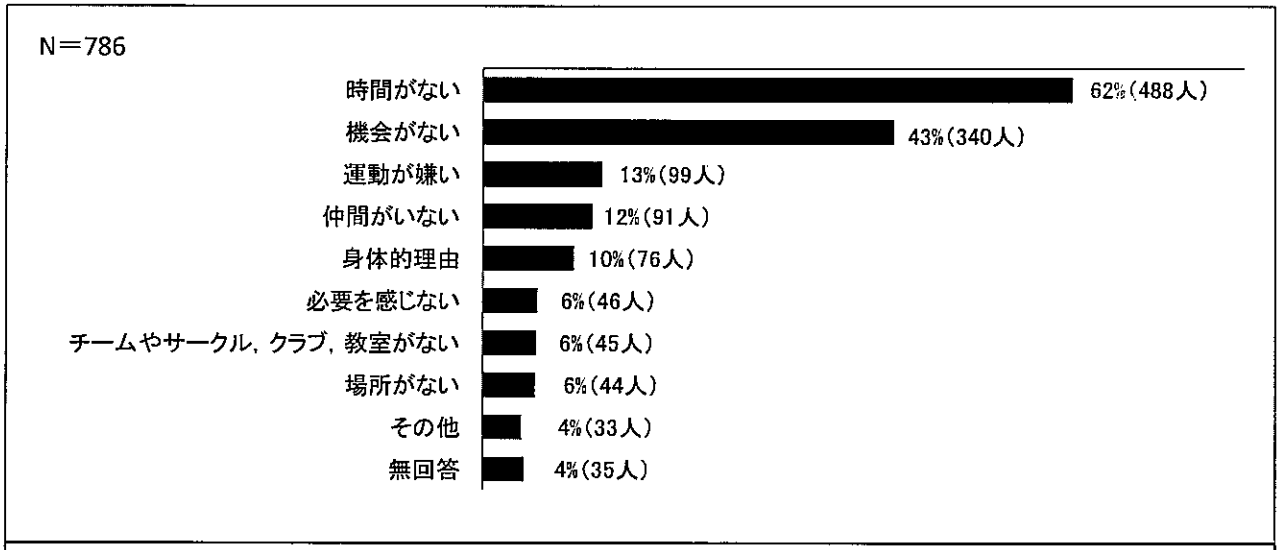
※この図では，『満足している』『満足していない』それぞれについて，≪分析２－１≫図７中の「満足している」「どちらかというと満足している」と答えた全体の人数の合算を『満足している』に，「あまり満足していない」「満足していない」と答えた全体の人数の合算を『満足していない』としている。

≪分析５≫　運動やスポーツをしない理由について

◎　「時間がない」「機会がない」という理由が圧倒的に多い。

- 「時間がない」と答えた人は全体の 62%，「機会がない」と答えた人は 43%だった。〔図 11〕
- 男女別で比較すると，いずれも女性の方が「時間がない」(65%)，「機会がない」(71%) と回答した割合が高い。〔図 12〕
- この問題を解決することで，さらに運動やスポーツを実施できる層が増えていくのではないかと考える。

図 11　運動やスポーツをしない理由

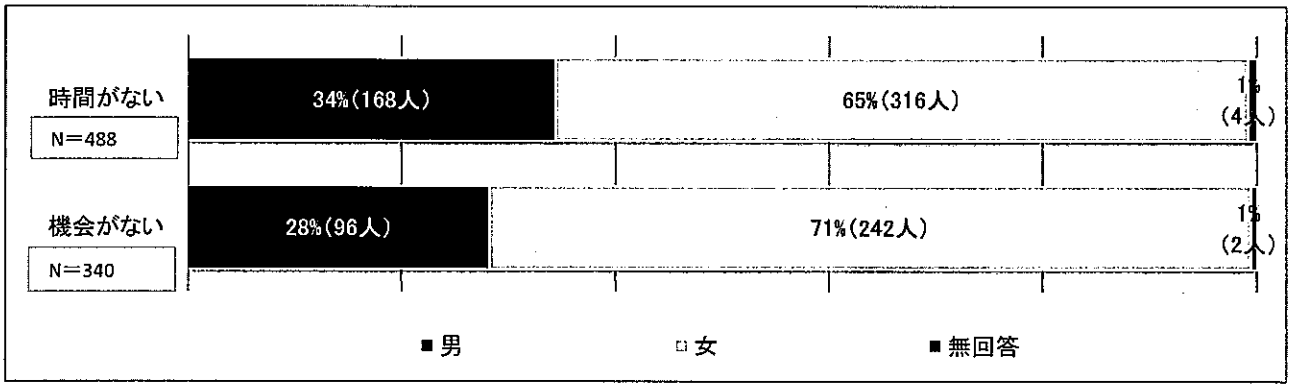


その他の内訳

お金がかかる，仕事が重労働，場所が遠い，受験勉強のため，障がいがあるため，子供が小さい，託児がない，どの様な内容があるのかわからない→情報がない，どちらかと言うと観戦する方が好き，近くにやりたいスポーツの施設がない，やる気がない，怪我の後遺症のため，どこでやっているかわからない，自宅で軽くする程度でいいと思っている，趣味があるから，人づきあいが面倒，一時休止している，スポーツ施設が自分の休みと合わない，自分のしたいスポーツがわからない

※≪分析１≫図４中「していない」の人が回答した項目。

図 12　スポーツをしない理由で「時間がない」「機会がない」と答えた人の性別



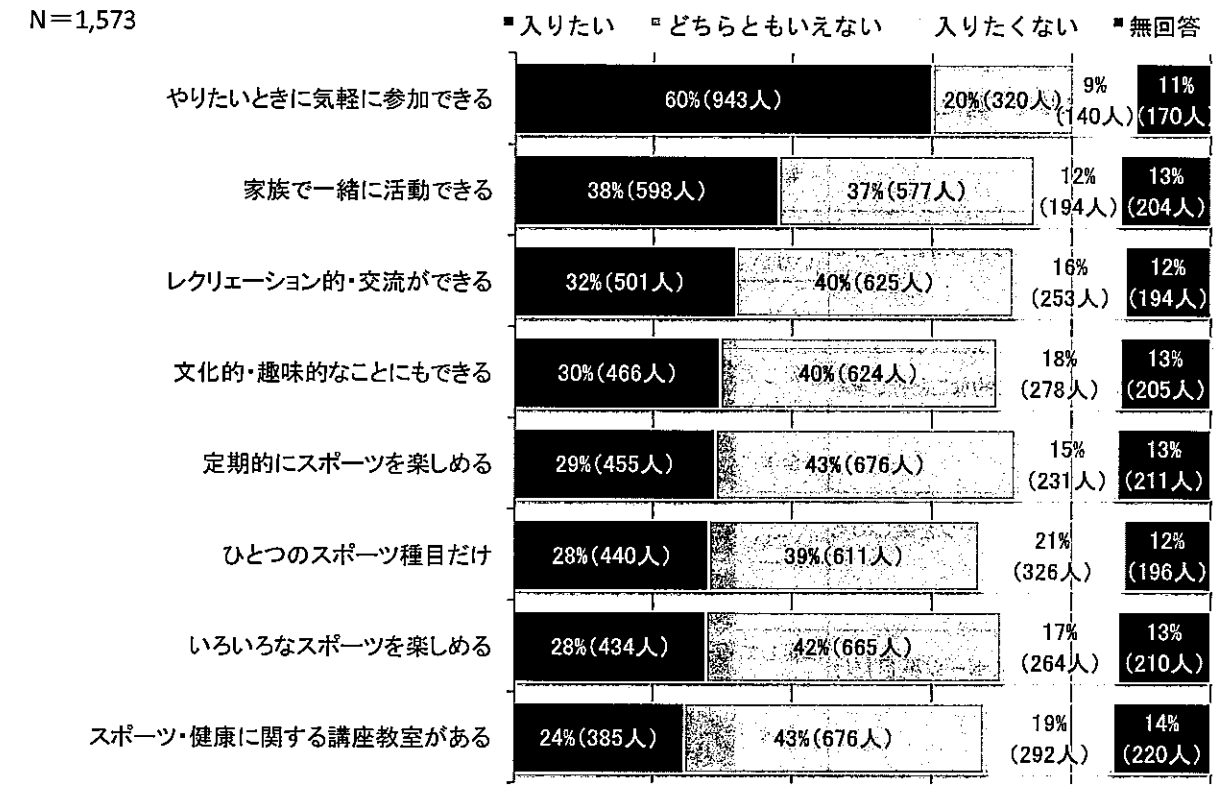
※≪分析５≫図 11 中「時間がない」及び「機会がない」の人それぞれについて，≪回答者の属性について≫図１の性別とクロス分析を行ったもの。

≪分析６≫　入ってみたいスポーツクラブ像について

◎　入ってみたいスポーツクラブで最も多かったのは「やりたいときに気軽に参加できる」クラブだった。

- スポーツクラブやサークルに加入するなら，どんなクラブに加入してみたいかを８つの選択肢を設けて，それぞれ「入りたい」「入りたくない」「どちらともいえない」の３つで選んでもらった。
- 「入りたい」という回答が最も多かったのは，「やりたいときに気軽に参加できるクラブ」で60%だった。逆に，「入りたくない」という声が一番多かったのは「ひとつのスポーツ種目だけ」で21%だった。〔図13〕

図13　入ってみたいスポーツクラブ像について



その他の内訳

マラソン，フィットネスクラブ（低料金で利用できる），チームとして試合に出場できるもの，外国の方との英会話，施設の充実を期待します，アクアビクス⇒プール（冬でも毎日できる），フィットネスジム，バレー（ダンス），エアロビクス，ヨガ，テニス，クラシックバレエ，バスケット，モデルウォーキング，ジャザサイズ，グラウンドゴルフ，サーフィンクラブ，プール（水泳など，室内トレーニング），調理教室，ワンポイントみたいなもの，各地域の自然散策，軽登山，有名な指導者，楽しい指導者，読書，短時間ですることのできるスポーツを集めたクラブがあればよい，できる時間で可能なスポーツ・運動をすればよいと思う

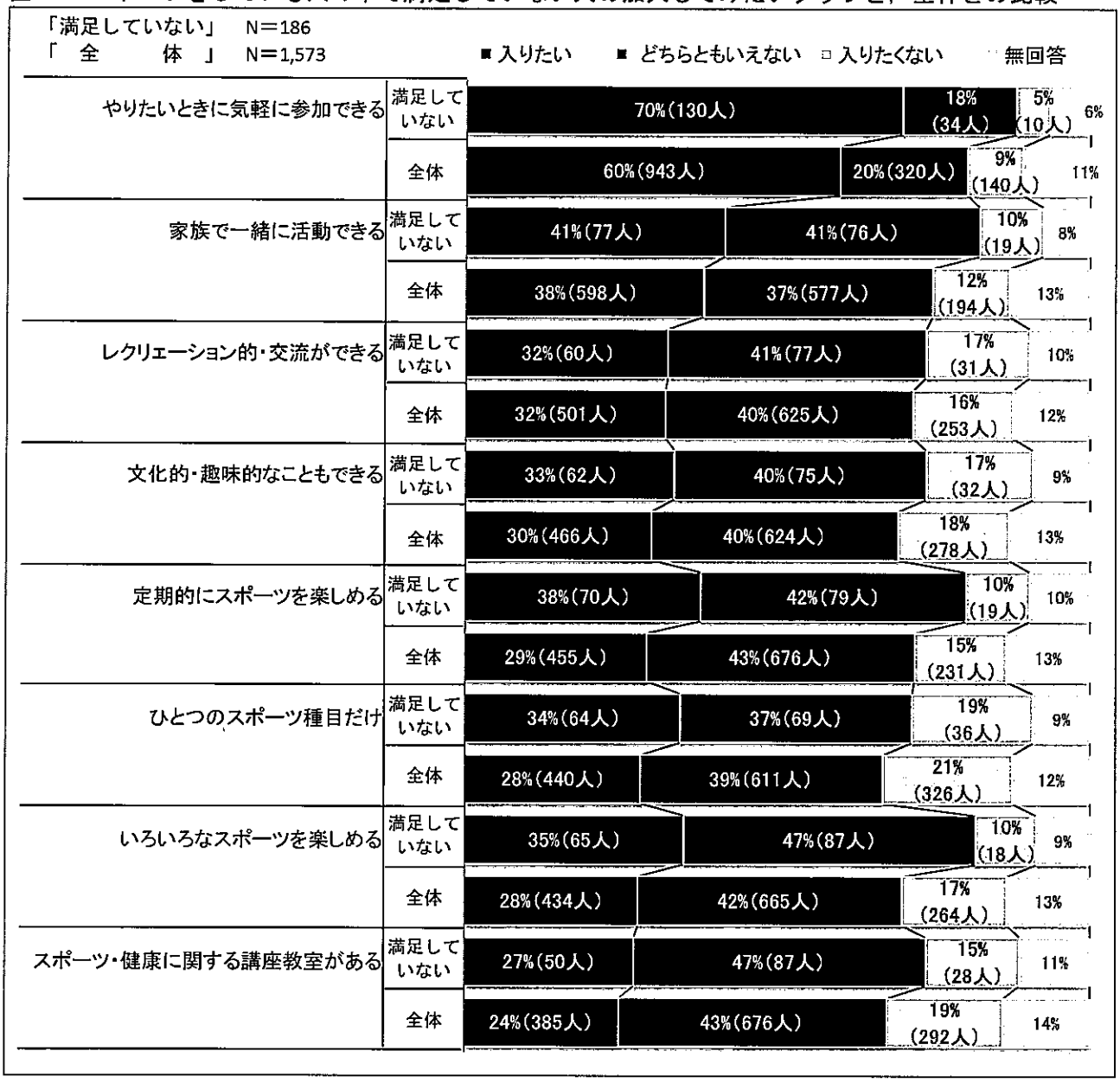
この項目については，①スポーツの満足度で「あまり満足していない」「満足していない」と答えた人，②「スポーツをしていない」と答えた人の２つの視点からも詳細に分析を行った。

①については次の分析６－１で，②については分析６－２で詳細に述べる。

≪分析６－１≫　入ってみたいクラブ像について（満足していない人）

- 現在のスポーツ活動に満足をしていない人は，ほぼ全ての選択肢について，全体と比べて「入りたい」と答える割合が高い。分析２－１の結果からも，現在のスポーツ活動に満足していない人はクラブなどに加入していない人が多く，どのようなタイプであれ，クラブに入りたいというニーズがあるのではないか。〔図 14〕
- 中でも，「やりたいときに気軽に参加できる」クラブについては 70％と非常に多く，分析４で満足していない人の困っていることが「時間がない」という答えが多かったことからも，ちょっとした時間に，気軽にスポーツを行える環境を望んでいると推測される。〔図 14〕

図 14　スポーツをしている人の中で満足していない人の加入してみたいクラブと，全体との比較

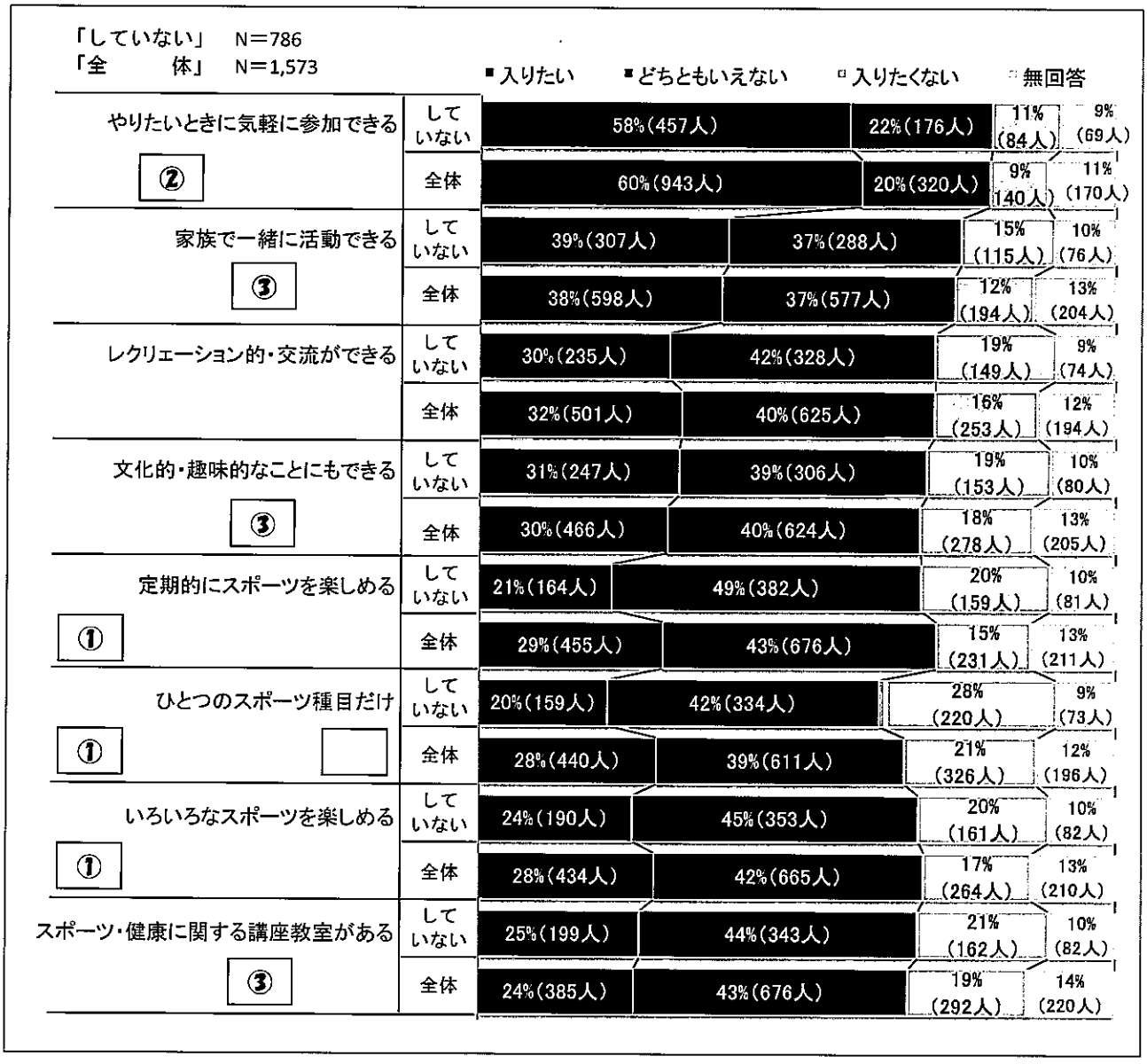


※≪分析２－１≫図７中，全体の「あまり満足していない」「満足していない」の人が回答した加入してみたいクラブと，≪分析６≫図 13 の全体の加入してみたいクラブとの比較。

≪分析６－２≫　入ってみたいクラブ像について（スポーツをしていない人）

- スポーツをしていない人の回答と，全体の回答を比較したところ，「ひとつのスポーツ種目だけ」のクラブ，「いろいろなスポーツを楽しめる」クラブ，「定期的にスポーツを楽しめる」クラブに加入してみたいと答えた人が全体に比べて少なかった。〔図 15－①〕
- 「やりたいときに気軽に参加できる」クラブには半分以上の人が加入してみたいと答えており，ニーズが高いことがうかがえる。〔図 15－②〕
- 「家族で一緒に活動できる」クラブ，「文化的・趣味的なこともできる」クラブ，「スポーツ・健康に関する講座教室がある」クラブに加入してみたいと答えた割合について，全体と比較すると若干高いことから，スポーツをしていない人にとっては直接的なスポーツ活動以外のものに興味があるのではないか。〔図 15－③〕
- 「ひとつのスポーツ種目だけ」のクラブについては，「入りたくない」と答えた人の割合が全体と比べてスポーツをしていない人の方が多い。〔図 15－④〕

図 15　スポーツをしていない人の加入してみたいクラブと，全体との比較



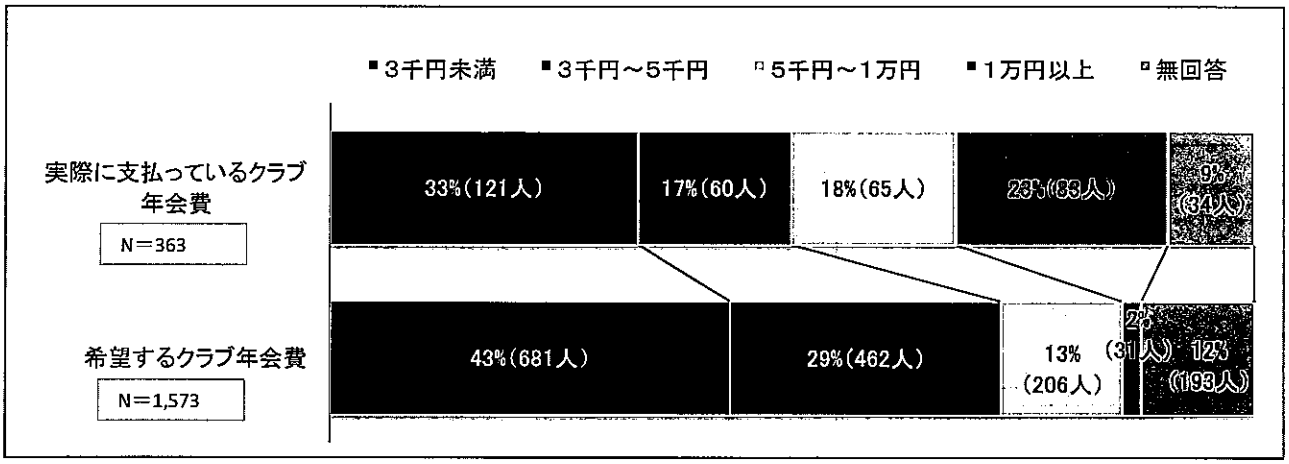
※≪分析１≫図４中「していない」の人が回答した加入してみたいクラブと，≪分析６≫図 13 の全体の加入してみたいクラブとの比較。

≪分析７≫　スポーツクラブやサークルの年会費について

◎　年会費の希望は「３千円未満」が最も多い。

- 実際に支払っているスポーツクラブやサークルの年会費は,「３千円未満」が 33%と最も多く，次に多いのは「１万円以上」で 23%となった。比較的，高額な年会費を支払いクラブなどに加入している層がいることが分かる。
- 希望するクラブやサークルなどの年会費の額は,「３千円未満」が最も多く 43%だった。次いで,「３千円～５千円」で 29%だった。
- 現在，クラブやサークルなどに加入している人に実際支払っている年会費の状況を聞いた結果と比較すると，実際に支払っている金額と希望の金額にはひらきがあることが分かる。〔図 16〕

図 16　実際に支払っているクラブ年会費と，希望する年会費との比較



※≪分析２≫図６中「加入している」の人が答えた実際に支払っているクラブ年会費と，全体の希望する年会費との比較。

≪分析８≫　現在行っているスポーツ種目，今後行ってみたいスポーツ種目について

◎　個人もしくは少人数でできる種目が上位に多い。

- 現在行っているスポーツ種目で最も多いものがウォーキング・ジョギングだった。次いで，バレーボール，釣り，キャッチボール，スキー・スノーボードと続いた。
- 今後行ってみたいスポーツ種目で最も多いものは，ヨガ・ピラティスだった。次いで，ウォーキング・ジョギング，水泳・アクアビクス，スポーツクラブやジムでの運動，バドミントンとなった。今後行ってみたいスポーツ種目の上位のものについては，総合型クラブを設立する際には重視すべき種目と考える。
- スポーツをしていない人の今後行ってみたいスポーツ種目については，ヨガ・ピラティス，ウォーキング・ジョギング，水泳・アクアビクス，スポーツクラブやジムでの運動，バドミントンという順であり，全体としての今後行ってみたい種目の上位とほぼ同じ結果となった。
- スポーツをしている人でも，していない人でも，一人で行える運動や，健康維持のための運動，少人数で行えるスポーツに興味が強い傾向がある。〔図 17〕

図 17　現在行っているスポーツ種目，今後行ってみたいスポーツ種目などの一覧

	①　N＝1,573 現在行っている種目	②　N＝1,573 今後行ってみたい種目	③　N＝786 現在，スポーツをしていない人が今後行ってみたい種目
第１位	ウォーキング・ジョギング	ヨガ・ピラティス	ヨガ・ピラティス
第２位	バレーボール	ウォーキング・ジョギング	ウォーキング・ジョギング
第３位	釣り	水泳・アクアビクス	水泳・アクアビクス
第４位	キャッチボール	スポーツクラブやジムでの運動など	スポーツクラブやジムでの運動など
第５位	スキー・スノーボード	バドミントン	バドミントン
第６位	ラジオ（テレビ）体操	ボウリング	ボウリング
第７位	ゴルフ	釣り	釣り
第８位	バッティングセンター	キャンプ	キャンプ
第９位	キャンプ	テニス・バウンドテニス	バッティングセンター
第10位	野球 グラウンド・ゴルフ	登山・ハイキング	テニス・バウンドテニス

※①，②については全体の回答内容の中の回答数の多い上位 10 種目を，③については≪分析１≫図４中「していない」の人が回答した今後行ってみたいスポーツ種目の上位 10 種目を示した。①の第 10 位「野球」及び「グラウンド・ゴルフ」のみ，同数のため２種目記載してある。

「運動・スポーツを行う上での不満や困っていることへの解決方法」「運動・スポーツに関する意見」の自由記述抜粋

運動・スポーツを行う上での不満や困っていることへの解決方法

- スポーツを行っていて不満や困っていることがある人にどうすれば問題が解決できると思うかを自由記述の形式で聞いた設問についても，施設に関すること，利用しやすい環境の整備や，施設設備の充実，気軽に利用できる施設を望む声が多かった。

施設に関すること

- 町の施設をもっと利用しやすい環境にしてほしい。（料金無料化を含め，時間を自由に）（同意見７）
- スクールの設置が必要。
- いつでも練習できる環境を作る。（同意見２）
- ちょっと空いた時間に気軽に体を動かすことができる施設があればいいと思う。
- 一人でもフラッとできる運動があれば。
- チケットを２つのクラブで利用しても使用を許可してもらいたい。

スポーツ少年団・学校・部活動・授業に関すること

- 子供にスポーツをさせるための金銭面での負担。（会場費や参加費，年会費など）（同意見７）
- 用具やウェアなどのレンタル制度の導入。（同意見３）
- すべての子供に平等にスポーツをさせるための方策の検討。（同意見４）
- スポーツ少年団の種目を増やすことについて。（同意見２）
- スポーツ少年団の構成人数の減少について。（同意見２）

スポーツクラブに関すること

- 年をとるごとに，趣味や体験などと組合わせたスポーツ（軽い）がほしい。
- 病気や年齢的な体力の衰え，高齢者ができるウォーキングや健康体操などのスポーツ教室の設立。（同意見９）
- 年会費が安く参加が自由，大人も子供も参加でき，家族で参加できるクラブなら入会したい。（同意見７）
- 小さい子供が居ても一緒に，家族でも参加でき，勝負に関係なく楽しくできるクラブの設立を。（同意見４）
- 総合型地域スポーツクラブの設立を。
- もっと手軽に取り組むことのできる運動はないかと，毎日思っている。
- 勝負にこだわらず，参加を強制されないクラブ。（同意見２）
- 書道や絵画とかも興味がある。夜の開催を望む。

広報に関すること

- 町内外の方々にアピールやＰＲ活動が足りない。（同意見２）
- 県内の情報をお知らせ版などで教えてほしい。（同意見２）

大会・試合に関すること

- スポーツの大会をもっと多く開催してほしい。
- 他のチームとの合同練習や練習試合を増やし技術を向上させたい。

指導者に関すること

- 的確な指導のできる指導者を配置し講習会や練習内容の充実を図る。（同意見６）
- 目標をもって一緒に楽しみながらスポーツできる仲間を作る。（同意見５）
- 個人毎にメニューを作ってもらい，定期的に指導してくれる先生がいたら良いと思う。
- 自ら技術についてのビデオや本などで調べたりうまい者を手本にするなど。
- スポーツはある程度，技術の向上がないと長続きしない。そのためよい指導者の招へいと育成が必要。（同意見３）
- 何かスポーツを始める際はやり方や（基本や練習方法）危険に関することなどを教えてくれる指導者がいることが望ましいと感じる。

【　小・中学生の部　】

≪　回答者の属性について　≫

- 性別については，「女性」が 51%，「男性」が 49%となり，女性が男性に比べて若干多い。〔図１〕
- 年齢構成については，「小学校５年生」が 58%と最も多く，次いで「中学校２年生」が 41%，「小学校６年生」は 0.4%となった。小学校６年生が極端に少ないのは，アンケートの配布方法によるところである。〔図２〕

図１　性別

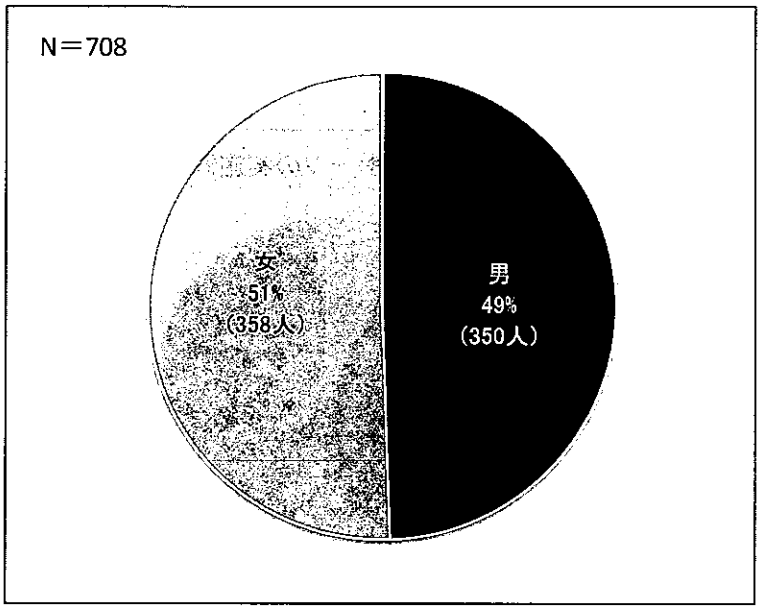
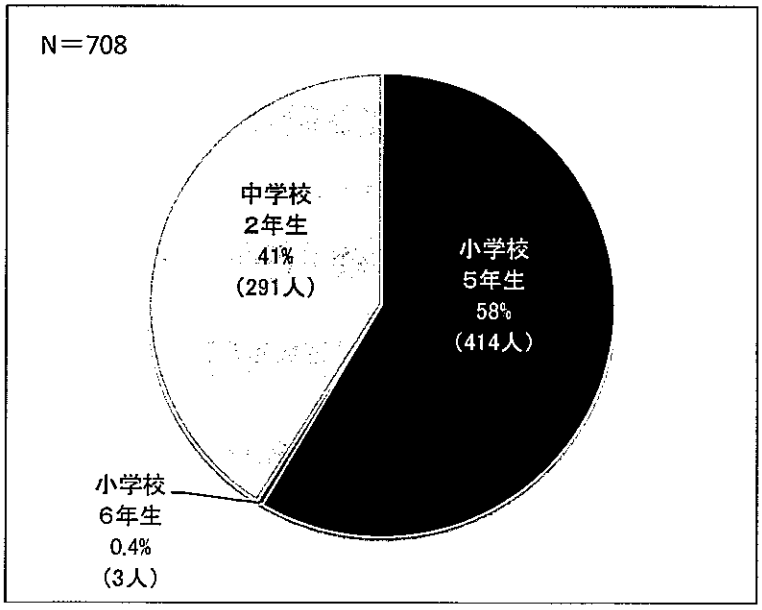


図２　年齢構成



≪分析１≫　小・中学生のスポーツの現状について

◎　小・中学生の７割以上が運動・スポーツをしている。

- 小学生のスポーツの現状については，73%の小学生がスポーツをしていると答えた。〔図３－１〕
- 中学生に関しては全体の 93%が何らかのスポーツ活動に携わっており，その内訳としては，「学校の部活動でスポーツをしている」が 97%を占めていた。〔図３－２，図３－４〕
- 「スポーツをあまりしていない」と答えた人は小学生では 27%，中学生では７%という結果だった。中学生は部活動があるため，運動する機会が多い。〔図３－１，３－２〕
- スポーツをする機会について，小学生は「スポーツ少年団・スポーツクラブ」で行っていると答えた小学生が多くを占めているが，「スポーツ少年団やスポーツクラブには入っていないがスポーツはよくする」と答えた小学生が 40%いることから、スポーツ少年団やスポーツクラブに加入していない小学生でも，運動・スポーツを何らかの形で行っていることがわかる。〔図３－３〕

図３－１　運動・スポーツの実施割合（小学生）

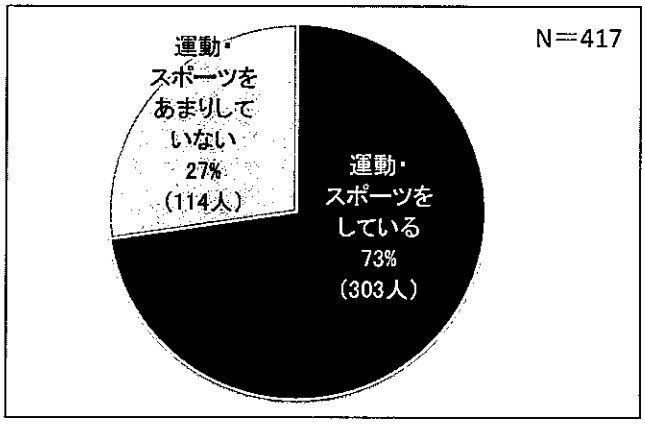


図３－２　運動・スポーツの実施割合（中学生）

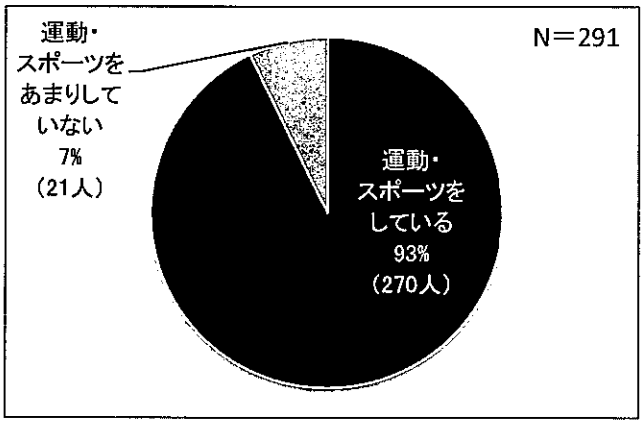


図３－３　授業や休み時間以外に行っている運動・スポーツ活動（小学生）【複数回答】

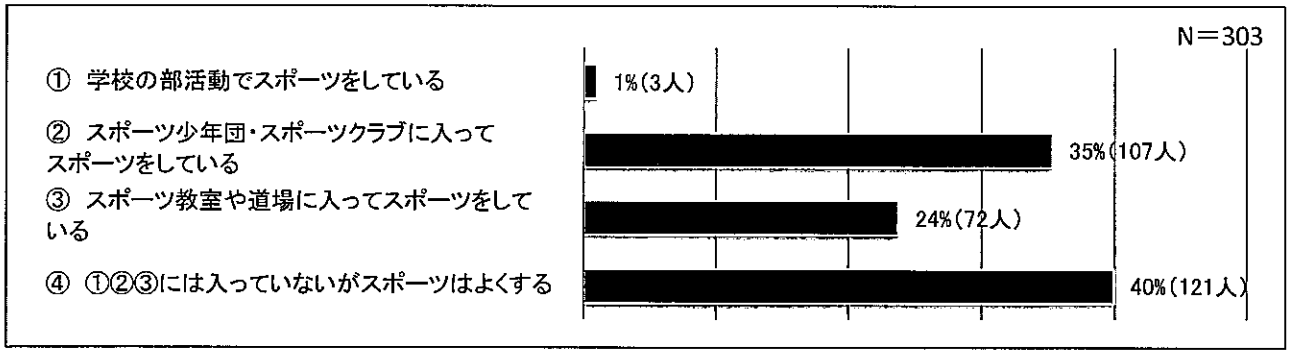
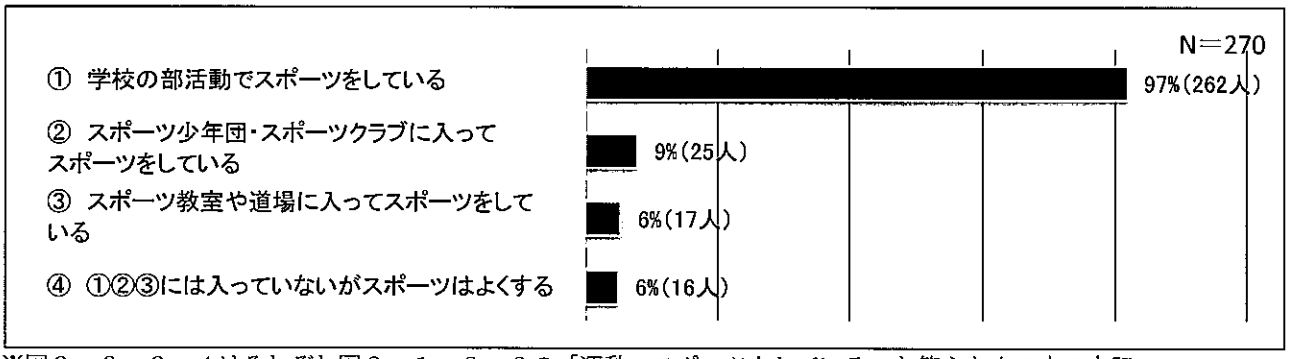


図３－４　授業や休み時間以外に行っている運動・スポーツ活動（中学生）【複数回答】



※図３－３，３－４はそれぞれ図３－１，３－２の「運動・スポーツをしている」と答えた人の中の内訳。

≪分析２≫　小・中学生のスポーツの頻度について

◎　運動・スポーツをしている小・中学生のほとんどが，スポーツを週１日以上行なっている。

- 授業や休み時間以外の運動・スポーツの頻度については，小学生の「週に２～３日」が45%と一番高く，次いで「週に１日くらい」が24%，「週に４日以上」が23%という結果となった。このことからほとんどの小学生が授業や休み時間以外に運動・スポーツを週一回以上行なっていることがわかる。〔図４－１〕
- 中学生に関しては，部活動があるため，「週に４日以上」との回答が87%を占めた。週に１日以上行なっているのは全体の98%となり，とても高い頻度で運動・スポーツを行なっていることがわかる。〔図４－２〕

図４－１　授業や休み時間以外にどのくらい運動・スポーツをしているか（小学生）

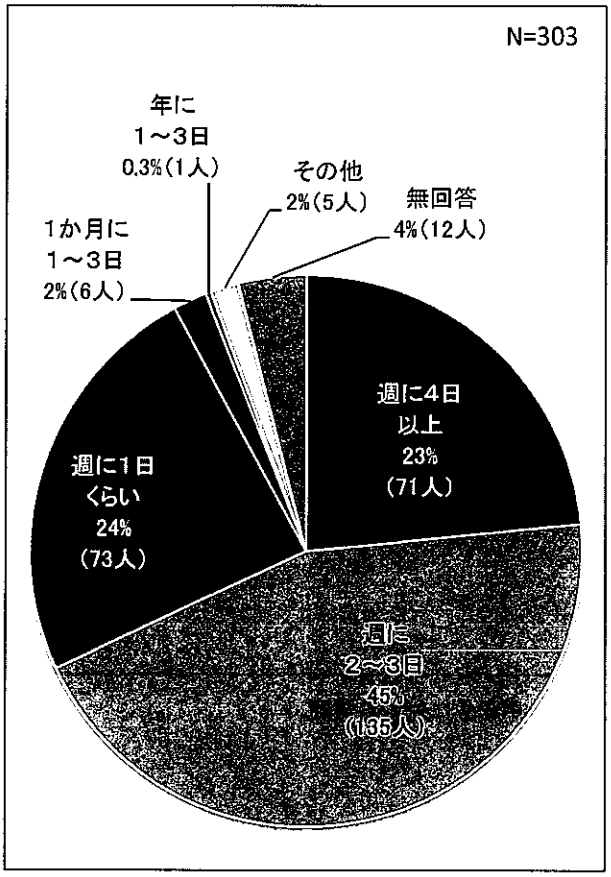
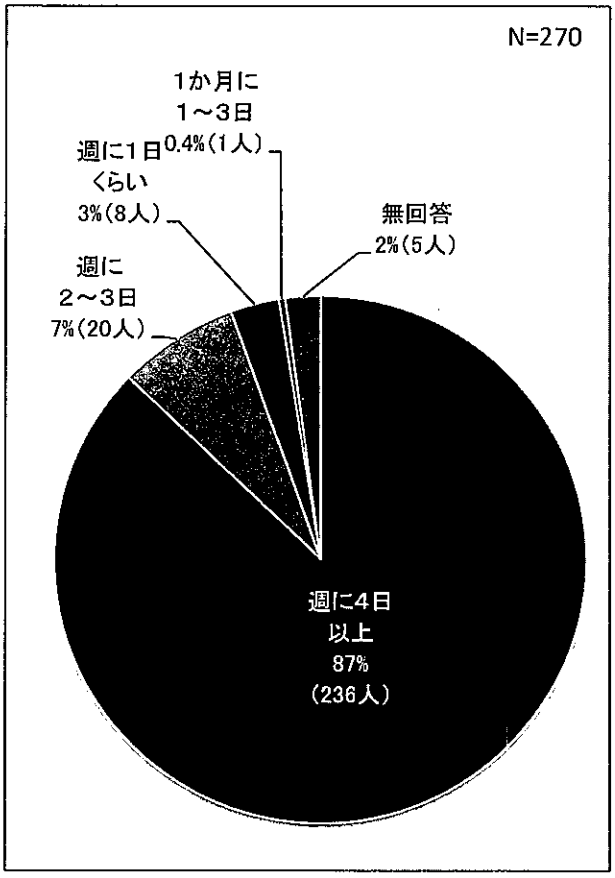


図４－２　授業や休み時間以外にどのくらい運動・スポーツをしているか（中学生）



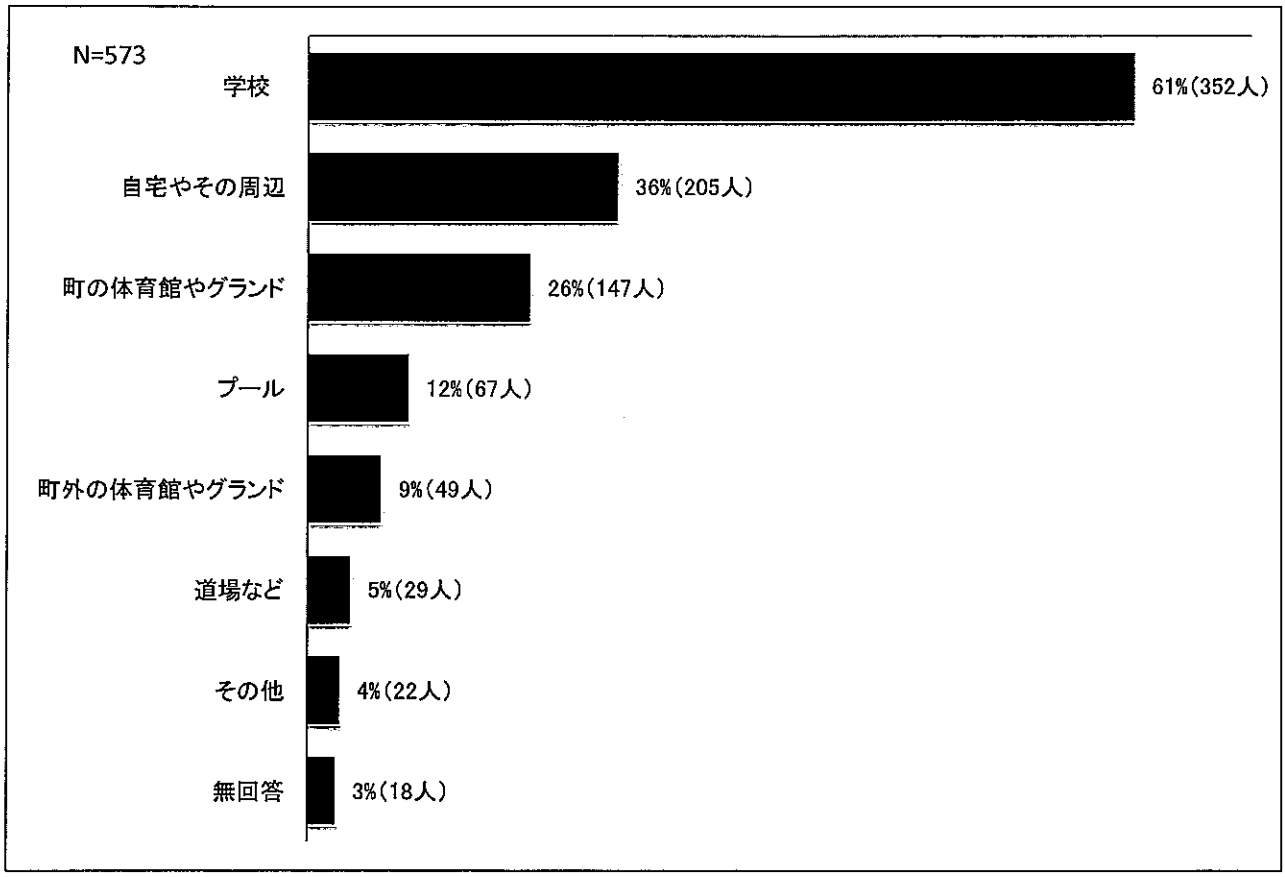
※≪分析１≫図３－１，３－２中の「運動やスポーツをしている」小・中学生に対する質問。
※図４－２では，「年に１～３日」「その他」の選択肢はいずれも回答者はいなかった。

≪分析３≫　授業や休み時間以外でのスポーツをする場所について

◎　スポーツをする場所については，自宅付近が多い。

- 小・中学校の授業や休み時間以外での運動やスポーツ活動について，一番多かった答えは「学校」の 61%で，次いで「自宅やその周辺」が 36%，「町の体育館やグランド」が 17%という結果だった。このことから，比較的自宅から近い施設を利用していることがわかる。〔図５〕

図５　学校の授業や休み時間以外で運動やスポーツを行っている場所【複数回答】



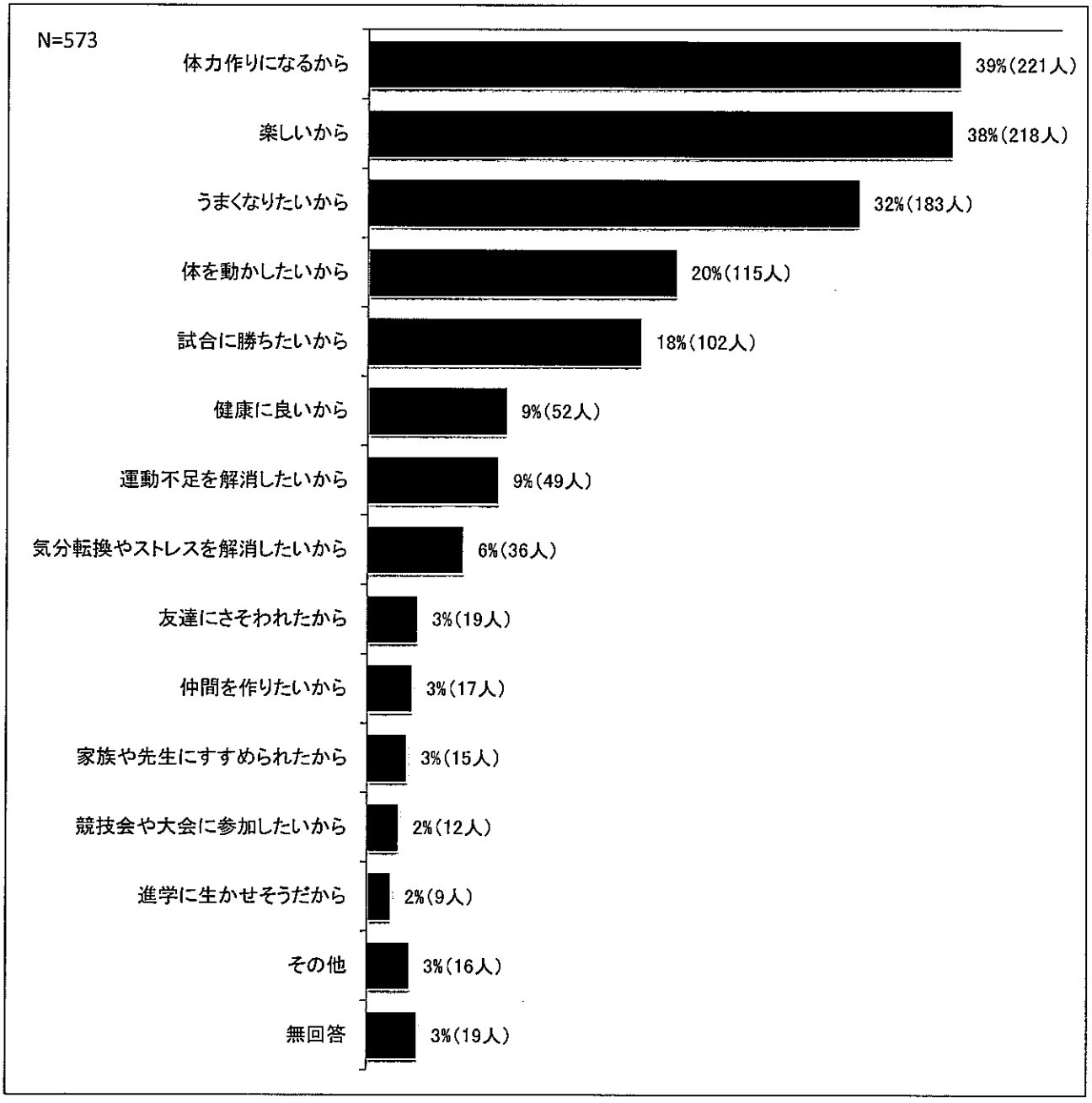
※≪分析１≫図３－１，３－２中の「運動やスポーツをしている」小・中学生に対する質問。

≪分析４≫　運動やスポーツをする理由について

◎　スポーツをすることで体力をつけ，スポーツを楽しみたいと思っている小・中学生が多くを占めている。

- 小・中学生の運動やスポーツをする理由については，「体力作りになるから」が 39%，次いで「楽しいから」と答えたのが 38%，続いて「うまくなりたいから」が 32%，「体を動かしたいから」が 20%だった。
- 「試合に勝ちたいから」と回答した小・中学生は 18%と低く，勝つことを目的としたスポーツ活動は現在の小・中学生にとっては，重要視されていないことがわかる。〔図６〕

図６　運動やスポーツをする理由【複数回答】



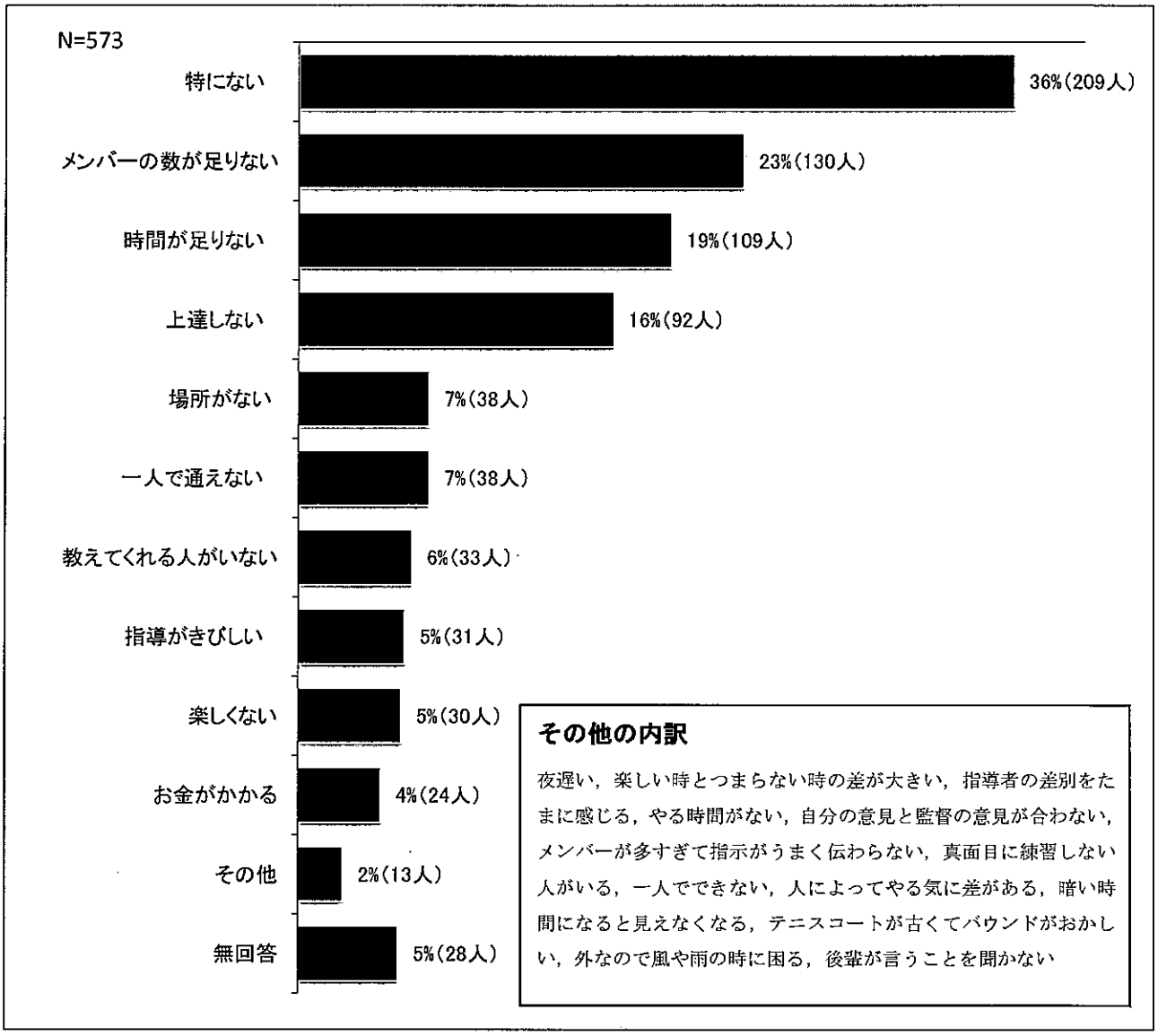
※≪分析１≫図３－１，３－２中の「運動やスポーツをしている」小・中学生に対する質問。

≪分析５≫　スポーツを行う上で困っていることについて

◎　６割以上の小・中学生が，スポーツを行なう上で様々な理由で困っている。

- 運動やスポーツを行なっていて困っていることについては，「特にない」が 36%と一番高かったが，「メンバーが足りない」が 23%，「時間が足りない」が 19%，「上達しない」が 16%，さらに「場所がない」「一人で通えない」「教えてくれる人がいない」等の回答もあった。〔図７〕
- その他の意見では，「楽しい時とつまらない時の差が激しい」「夜遅い」「指導者の差別をたまに感じる」という意見もあった。

図７　あなたが運動やスポーツを行っていて，困っていることは何ですか【複数回答】



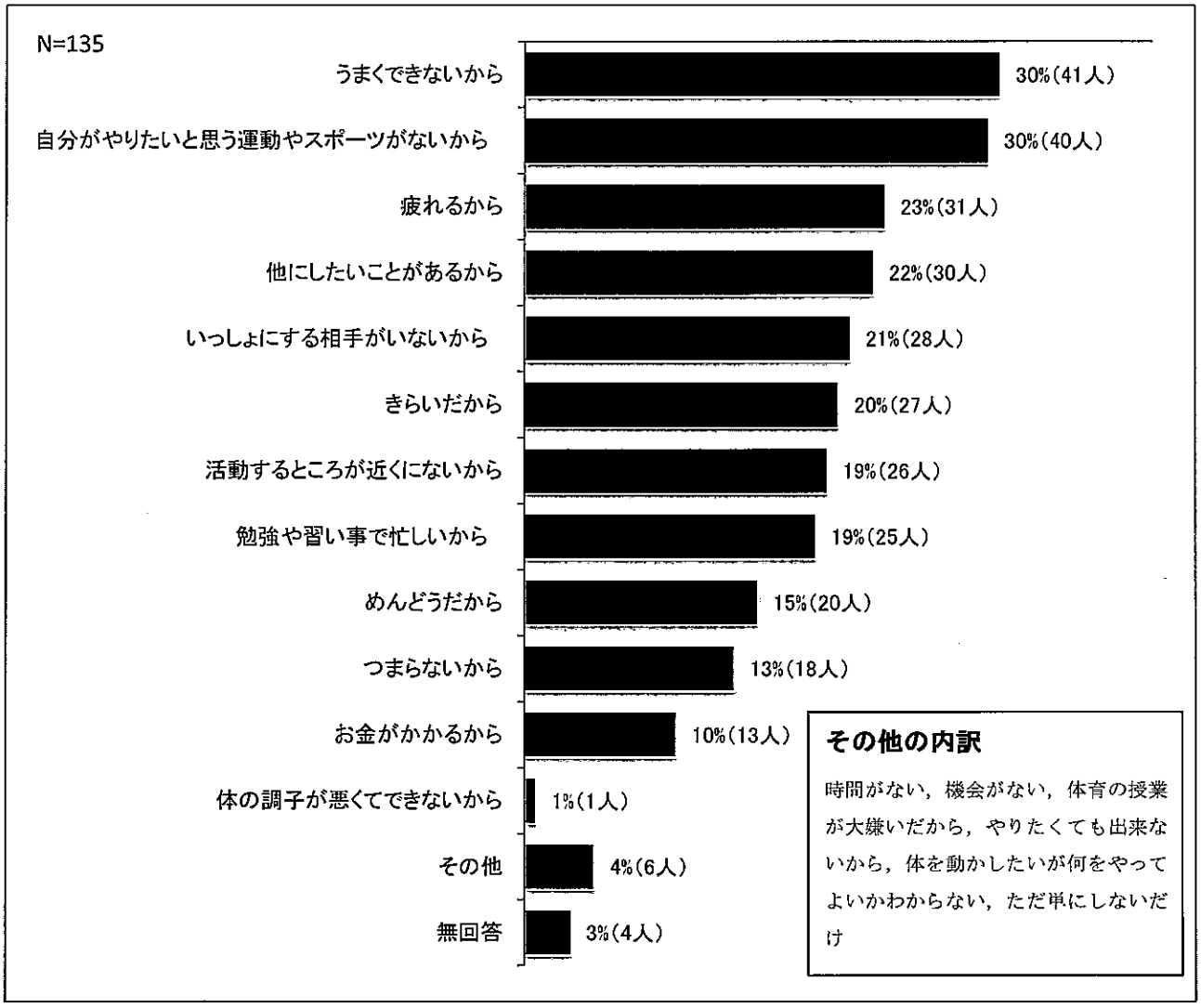
※≪分析１≫図３－１，３－２中の「運動やスポーツをしている」小・中学生に対する質問。

≪分析６≫　運動・スポーツをしない理由について

◎　スポーツをしない理由は，「うまくできない」「やりたいスポーツがない」。

- 小・中学生のスポーツをしない理由について，最も多かったのは「うまくできないから」（30%）だった。このほか，「自分がやりたいと思う運動やスポーツがないから」（30%），「いっしょにする相手がいないから」（21%）という回答については，スポーツはやりたいが，このような理由でスポーツをしないということは改善できる要素を含んでいる。
- ほかには，「疲れるから」(23%)，「他にしたいことがあるから」(22%)，「きらいだから」(20%)，「勉強や習い事で忙しいから」（19%），「めんどうだから」（15%）などの理由も挙げられた。
- スポーツが「きらいだから」しないという理由よりも，うまくできないことや，やりたいスポーツがないなどの理由の方が多いことから，「うまくできないから」と「やりたいスポーツがない」と答えた小・中学生の今後やってみたいスポーツについて，次の分析に関連してまとめている。〔図８〕

図８　運動・スポーツをあまりしない理由【複数回答】



※≪分析１≫図３－１，３－２中の「運動やスポーツをあまりしていない」小・中学生に対する質問。

≪分析６－１≫　今後やってみたいスポーツ

- スポーツをしない理由に「うまくできないから」と回答した小・中学生（41 人）の内，「今後やってみたいスポーツ」として回答した総数は 192 件で，平均すると一人当たり４種類のスポーツを選んでいる。
- スポーツをしない理由に「やりたいと思うスポーツがないから」と回答した小・中学生（40 人）の内，「今後やってみたいスポーツ」として回答した総数は 207 件で，平均すると一人当たり５種類のスポーツを選んでいる。
- また，全体で見ても，回答者数 708 人に対し総回答数は 4,332 件で一人当たり６種類のスポーツを今後やってみたいものとして選んでいた。このことから，様々なスポーツを気軽に行えるような形態のスポーツクラブの需要はあると言える。
- 人気のあるスポーツの中でも，身近な場所でできるものとしては「バドミントン」「卓球」「バスケットボール」「ドッジボール・ドッジビー」等が挙げられた。〔図９〕

図９　今後やってみたいスポーツ種目などの一覧

<table>
<tr><th></th><th>①　N＝708
今後やってみたい種目
（全体）</th><th>②　N＝41
「うまくできないから」と答えた人の今後やってみたい種目</th><th>③　N＝40
「やりたいスポーツがないから」と答えた人の今後やってみたい種目</th></tr>
<tr><td>第１位</td><td>ボウリング</td><td>ボウリング</td><td>スキー・スノーボード
スケート</td></tr>
<tr><td>第２位</td><td>スケート</td><td>バドミントン
スケート</td><td>－</td></tr>
<tr><td>第３位</td><td>バスケットボール</td><td>－</td><td rowspan="5">卓球
バドミントン
バスケットボール
ドッジボール・ドッジビー
キャンプ</td></tr>
<tr><td>第４位</td><td>バトミントン</td><td>釣り
キャンプ</td></tr>
<tr><td>第５位</td><td>キャンプ</td><td>－</td></tr>
<tr><td>第６位</td><td>ドッチボール・ドッチビー</td><td>スキー・スノーボード</td></tr>
<tr><td>第７位</td><td>スキー・スノーボード</td><td rowspan="4">ドッジボール・ドッジビー
テニス・バウンドテニス
バスケットボール
キャッチボール</td></tr>
<tr><td>第８位</td><td>釣り</td><td>テニス・バウンドテニス
ボウリング</td></tr>
<tr><td>第９位</td><td>テニス・バウンドテニス</td><td>－</td></tr>
<tr><td>第10位</td><td>弓道</td><td>少林寺拳法</td></tr>
</table>

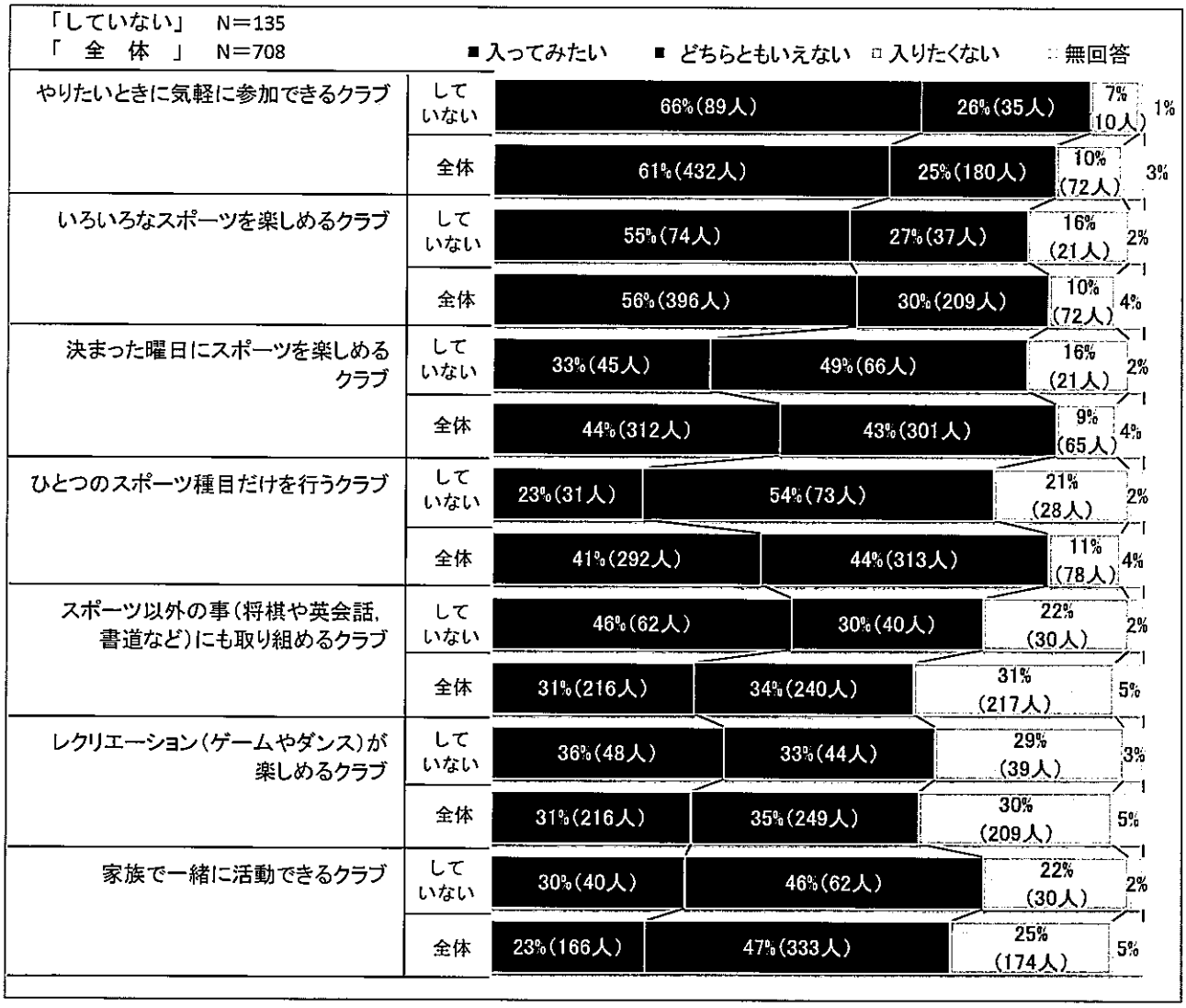
※①については全体の回答内容の中の回答数の多い上位 10 種目を，②及び③については，≪分析６≫図８中「うまくできないから」「やりたいスポーツがないから」の人が回答した今後行ってみたいスポーツ種目の上位 10 種目をそれぞれ示した。

≪分析７≫　入ってみたいスポーツクラブ像について

◎　入ってみたいスポーツクラブで最も多かったのは「やりたいときに気軽に参加できるクラブ」だった。

- 全体としてどのようなスポーツクラブなら入りたいかと聞いてみたところ，「やりたいときに気軽に参加できる」が 61%，次いで「いろいろなスポーツが楽しめる」が 56%となっている。１番低い結果となったのは「家族で一緒に活動できる」の 23%だった。しかし，「家族で一緒に活動できる」の中でどちらとも言えないと回答した小中学生が 47%だった。
- さらに，自由記述から「他の人と組んで出来るスポーツクラブ」や「試合に勝つという目的ではなく，楽しくプレイするクラブ」「いろいろなことができるクラブ」などが挙げられた。競技的な面だけではなく，スポーツの可能性や視野を広げられることを意識したクラブに入りたいということが分かる。
- 普段スポーツをしないと答えた小・中学生でも，「やりたい時に気軽に参加できる」スポーツクラブがあれば入りたいという意見が多かった。〔図 10〕

図 10　入ってみたいスポーツクラブ像について



※≪分析１≫図３－１，３－２中の「運動やスポーツをあまりしていない」小・中学生の人が回答した加入してみたいクラブと，全体の加入してみたいクラブとの比較。

「こんなスポーツクラブなら入ってみたい」「大人に対する意見や要望について」自由記述抜粋

「人的面」仲間・指導者

- ほかの人と組んで出来るスポーツクラブ。
- みんなで楽しくできるクラブ。
- 仲間はずれなどがないみんなが楽しめるスポーツができるクラブ。
- 差別をしないで指導してほしい。（同意見２）
- 教えてくれるときは，きちんと丁寧に教えてほしい。
- 指導者がたくさんいてほしい。（同意見５）

「種目面」体育活動

- 中学にサッカー部がない。運動部が少なすぎる。野球だけが重視されている。
- 部活動は一つのスポーツだけでなく，いろいろなスポーツをやりたい。
- ドッジボールクラブやサッカーなど好きなことができるクラブ。
- きちんと試合もできるクラブ。
- 珍しい種目の運動ができるクラブ。
- J－POP のダンスができるクラブ。
- 釣りや，天体観測や登山ができるクラブ。
- 気軽に出来るスポーツを家族，地域の人と一緒にでき，仲間も増やせるようなスポーツをしたい。（同意見６）
- 色々な種目（水泳，バスケット，スケートなど）の運動に取り組みたい。（同意見３）
- 中学校で球技大会（バレーボール）がある。楽しいので大会は１種類だけではなくいろいろな種目（野球，サッカーなど）を増やしてほしい。
- 陸上のクラブ。長距離を走るクラブ。
- 弓道クラブ。
- いろいろなところに行って，いろいろなスポーツがあるクラブ。

「種目面」文化活動

- サイエンスクラブ（実験ができるから）。
- 裁縫や料理などを教えてくれるクラブ。
- インドア派の人も入れるように，オセロ，将棋ができるスペースをつくってほしい。
- 町の発表会などにも参加できる演劇クラブ。
- 絵を描くクラブ。
- 写真クラブ。
- 歌がうまくなるクラブ。
- 機械系のクラブ（手作りのラジコン・たこ等）。

「スポーツをする施設環境面」

- お金がかからなくて，好きなときに好きなスポーツができるクラブがほしい。
- もっと気軽に運動をできる環境をつくってほしい。（同意見 12）
- 無料で楽しめるアスレチックやサイクリングセンターがほしい。
- サッカー場をつくってほしい。
- 体育館の照明が暗く，球などが見えづらい。
- 夜間照明をつけてほしい。（同意見４）
- 音楽が流れていればもっと楽しくできると思う。

「スポーツをする目的」

- もっと運動量を増し，体力を上げていきたい。
- うまくなりたい。
- 少年野球チームのような試合に勝つという目的ではなく，野球を楽しくプレイすることを目的としたクラブ。
- いろいろなことができるクラブ。

まとめ

ここまでの「一般の部」「小・中学生の部」の結果を「運動・スポーツを「している」「していない」」群に分けてまとめて記載し，各々の考察（★）で課題やニーズを示した。

① 一般の部 のアンケート調査の詳細分析より

《分析１》 運動やスポーツを「していない」と答えた人は約半数であった。

○運動・スポーツを「している」群
４８％

（内３１％…週１回以上実施している。）

★「スポーツ立国戦略」の目標値※を大きく下回る。

※【成人の週１回以上のスポーツ実施率が３人に２人(65%程度)，成人の週３回以上のスポーツ実施率が３人に１人(30%程度)】

―H22.8.26 文部科学省が策定―

●運動・スポーツを「していない」群
５０％

★「していない率が高い」人の観点ごと回答

・性別…女性の 58%

・年齢…50 歳代の 68%

・職種…パート，アルバイトの 65%

《分析２》

○ スポーツクラブやサークルへの加入は約半数。

《分析２－１》

○ 約７割近くが現在行っている運動やスポーツに満足している。

・高満足度群…528 人（内 57%がクラブ加入）

・低満足度群…186 人（内 69%がクラブ未加入）

★ 加入したいクラブ等がないことが満足度の低い理由であれば，ニーズに応えるクラブを作ることにより加入が促進される可能性がある。

《分析２－１》 内表記について

高満足度群…〔図７〕中“全体”の「満足している」「どちらかというと満足している」の合算値

低満足度群…〔図７〕中「あまり満足していない」「満足していない」の合算値。

《分析２－２》

○ 約半数（53%）の人が「運動不足解消・体力づくり・健康維持」を目的に運動・スポーツをしている。

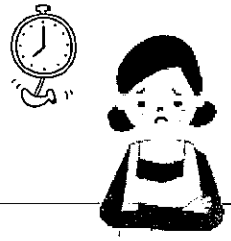
★ 試合への参加(11%)や技術向上(６%) を目的とした人は比較的少なめだったことからも，心身の健康をスポーツで向上させたいという願いを抱く人が多いと考えられる。

★ 「体型維持・美容・ダイエット」「家族のふれあい」を目的に行っている人のクラブ未加入率が高い。〔図８〕これらを目的とするクラブメニューのニーズはあると推測される。

《分析５》

● 約６割（62%）が「時間がない」
約４割（43%）が「機会がない」ことを理由に運動・スポーツをしていない。

★ いずれも女性の回答割合が男性を大きく上回った。この問題を解決することで，さらに運動やスポーツを実施できる層が増えていくのでないかと思われる。



○ 運動・スポーツを「している」群

● 運動・スポーツを「していない」群

《分析３》

○ 市（町）外へ出かけてスポーツを行っている割合は少ない。

《分析４》

○ 不満や困っている事が「特になし」との回答が最も多く 48%（714 人中 391 人）である。

・ 特になし…高満足度群中の 65%（344 人/528 人）

・ 特になし…低満足度群中の 25%（47 人/186 人）

★ 低満足度群の 75%が不満等を持っていることが分かった。特に「時間がない」が多い。

《分析６》 最も入ってみたいと思うスポーツクラブの形態は「やりたいときに気軽に参加できるクラブ」（60%）である。

★「時間がない」層は「定期的に時間が取れない」層とも考えられ，それ故に「やりたいときに」の支持が多いものと思われる。

★ 次点は「家族で一緒に活動できる」であるが，“どちらとも言えない”まで含めれば 75%になる。このことから，家族で取り組みやすいクラブ環境を整えることで，どちらとも言えないと答えた層のニーズに応えられる可能性も高い。

《分析６－１》

○ 「している」群の内の「低満足度」群が入ってみたいクラブは「やりたいときに気軽に参加できる」形態である。（70%…130 人）

★ 全体と比較してすべての項目について入りたいと答える割合が高い。低満足度群はクラブ未加入者が多い事から，どのようなタイプであれ，クラブに入りたいというニーズがあるものと推測される。

★ 低満足度群で最も困っていると感じているのは「時間がない」という事が《分析４》で明らかになった。そのことからも，まとまった時間が取れないわずかな隙間の時間でも，気軽にスポーツを行える環境を望んでいると推測される。

《分析６－２》

● 「していない」群が入ってみたいクラブは「やりたいときに気軽に参加できる」形態である。（58%…457 人）

★「入りたい」と「どちらとも言えない」の合算値で見たとき，最も値が低いのはひとつのスポーツ種目だけ」のグラフである。さらにしていないの「入りたくない」割合が最も多い。

★ 一つの種目にしばられずに，多様な選択肢のあるクラブのニーズがあることが読み取れる。

《分析７》 年会費の希望は「３千円未満」が最も多い。（43%）

★ 実際に支払っている金額と希望の金額には開きがあることが分かった。

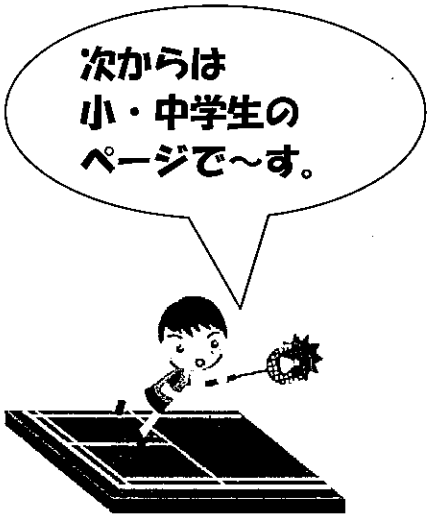
《分析８》 今後してみたい種目は，「個人もしくは少人数でできる種目」が上位に多い。
また，第１位～第８位までは，「全体」「していない」群共に同じ種目である。

１位	ヨガ・ピラティス	６位	ボウリング
２位	ウォーキング・ジョギング	７位	釣り
３位	水泳・アクアビクス	８位	キャンプ
４位	スポーツクラブやジムでの運動	９位	テニス・バウンドテニス
５位	バドミントン	10位	登山・ハイキング

●…「していない」群
９位 バッティングセンター
10位テニス・バウンドテニス

★ 上位にランクされた種目の多くは競技指向のものは少ない。これらの種目は総合型クラブを設立する際には重視すべき種目と考える。

★ スポーツを行っている人でも，行っていない人でも，一人で行える運動や，健康維持のための運動，少人数で行えるスポーツへの趣向が強いという傾向が読み取れる。



② 小・中学生の部 のアンケート調査の詳細分析より

《分析１》 小・中学生の７割以上が運動・スポーツをしている。

○ 運動・スポーツを「している」群

・小学生…７３％（内４０％→無所属）
・中学生…９３％（内　６％→無所属）
★　スポーツ少年団やクラブ等へ所属していなくともスポーツに取り組む小学生は４０％存在する。

● 運動・スポーツを「していない」群

・小学生…２７％
・中学生…　７％
★　ここの層のニーズに応じたクラブづくりも大きなポイントとなる。

《分析２》《分析３》

○　運動，スポーツをしている小・中学生のほとんどは週１回以上，学校や自宅付近で行っている。

《分析４》

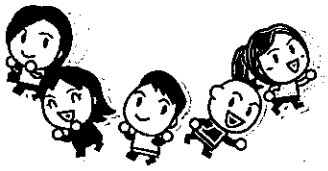
○　「している」理由は
「体力をつけたい・スポーツを楽しみたい」が多数である。
★　必ずしも勝つことが目的であるという回答が多い訳ではなかった。

《分析６》

●　「していない」理由は
「うまくできない」「やりたいスポーツがない」が多数である。
★　スポーツそのものが嫌いなのではなく，自分のペースで楽しみながら取り組む機会や各々のニーズに応えられる種目や環境がないということがこの回答から推察される。

《分析５》

○　運動・スポーツをしている６割以上の小・中学生が「困っている」と感じていることがある。
【主な理由】・メンバーが足りない。
・時間が足りない。
・上達しない。



《分析６－１》 「していない」群が“今後やってみたい”スポーツは小・中学生全体の傾向とほとんど同じ傾向だった。

「今後やってみたいスポーツ」小・中学生全体…（＊は主としてレジャースポーツに分類される種目）

１位　ボウリング＊	６位　ドッジボール・ドッジビー
２位　スケート＊	７位　スキー・スノーボード＊
３位　バスケットボール	８位　釣り＊
４位　バドミントン	９位　テニス・バウンドテニス
５位　キャンプ＊	10位　弓道

● していない理由…「うまくできない」と回答した小・中学生が選んだ上位種目	● していない理由…「やりたいスポーツがない」と回答した小・中学生が選んだ上位種目
1位　ボウリング 2位　バドミントン，スケート 3位　釣り，キャンプ 4位　スキー・スノーボード 5位　ドッジボール・ドッジビー 〃　テニス・バウンドテニス 〃　バスケットボール 〃　キャッチボール 〃　バッティングセンター	1位　スキー・スノーボード 〃　スケート 3位　卓球 〃　バドミントン 〃　バスケットボール 〃　ドッジボール・ドッジビー 〃　キャンプ 8位　テニス・バウンドテニス 〃　ボウリング 10位　少林寺拳法 〃　釣り

★　全体での回答は，回答者総数708名に対し総回答数が4,332件であったことから，一人当たり平均6種目を選んでおり，多様な種目に取り組める形態のスポーツクラブの需要はあると言える。

★　着目したいのは，「していない」群が選んでいる種目に，スポ少・部活動にもある種目（↑バドミントン，テニス，バスケット，卓球）があることだ。これは，スポ少・部活動のような団体としての制約などに縛られることなく取り組んでみたいという希望が表れたものと考えられる。特にラケットを使用する種目は気軽に自分のレベルにあわせて，体への衝撃や痛み（例…バレーボールのレシーブ等）なくプレーできる種目である。中でもバドミントンはシャトルの飛び過ぎない軌跡やゆったりとした落下スピードが，抵抗なくプレーできるイメージを高めているものと考える。バスケットについてはゴールに入れる行為は自分のペースで楽しめて結果も明快に分かる（ゴールに入ったかどうか）ので，気軽に楽しめるイメージを持ちやすいものと推測される。

★　これらの種目は総合型クラブを設立する際には重視すべき種目と考える。

★　ドッジ系種目やレジャースポーツ，シーズンスポーツに人気が集まっているのは小・中学生全体の傾向である。総合第1位のボウリングについては，一般の結果でも6位にあがっていることからも，まさしく万人向けのレジャースポーツであることが示された。このことより，レジャースポーツやシーズンスポーツに特化したプログラムを年に数度といった特別メニューとして取り入れることも満足度を高めるポイントとなるであろう。

《分析7》　**小・中学生の半数以上が入ってみたいと思うスポーツクラブの形態は**
「やりたいときに気軽に参加できるクラブ」（61%）
「いろいろなスポーツが楽しめるクラブ」（56%）である。

★　この回答から，部活動・スポ少をやめて入りたいのか，部活動・スポ少に加えて入りたいと思うのかの判断はできないが，勝敗や活動時間等に束縛される活動より，自分の都合や興味に合わせて気軽に楽しめるクラブを選択している。

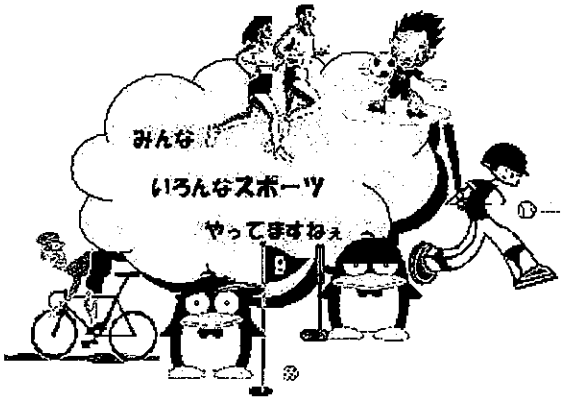
★　なお，運動・スポーツを「していない」群に限った分析も同様の傾向がみられた。〔図10参照〕

3　補足

◎　ここまで示した課題やニーズの解決方策は，後述の「提言」の頁にて総合型地域スポーツクラブの理念をベースにしながら探っていく。

◎　アンケート結果の元になったデータ（単純集計データ）は後掲しているので，参考にしていただきたい。

◎　「一般の部」「小・中学生の部」のアンケート調査は項目が異なることから，本章のまとめでも若干の差異が見られることをご容赦願いたい。



先進地研修視察報告

平成２２年度
大河原地区社会教育主事研究協議会　研修視察要項

１　目　的

生涯学習社会の充実が求められる今日，その先進地を視察することにより，管内の各市町における今後の生涯学習及び社会教育推進に役立てるとともに，社会教育主事としての資質の向上と豊かな発想力を培う。

２　期　日　平成２２年９月２８日（火）　午前８時３０分～午後４時３０分

３　視察先

（１）七ヶ浜町　アクアゆめクラブ

〒985-0802　宮城県宮城郡七ヶ浜町吉田浜字野山１－２

（２）多賀城市　多賀城市民スポーツクラブ

〒985-0835　宮城県多賀城市下馬五丁目９－３

４　主な視察内容

（１）総合型地域スポーツクラブ設立までの経緯

（２）総合型地域スポーツクラブの運営・活用・予算の状況

（３）各施設見学

５　参加者　大河原地区社会教育主事研究協議会会員及び社会体育担当者　２１名

６　日　程

大河原合同庁舎（８：３０発）　⇒　七ヶ浜町中央公民館（１０：００着）

≪　１０：００～１１：３０　アクアゆめクラブ視察　≫

多賀城市内　昼食・休憩　⇒　多賀城市総合体育館（１３：３０着）

≪　１３：３０～１５：００　多賀城市民スポーツクラブ視察　≫

多賀城市総合体育館（１５：００発）　⇒　大河原合同庁舎（１６：３０着）

7　研修視察の概要

（1）七ヶ浜町「アクアゆめクラブ」について

①　七ヶ浜町アクアゆめクラブマネージャーからの説明

ア　クラブの設立までについて

まず，人口と面積を調べた。他に，産業，施設なども調べ，クラブの立ち上げの参考資料にした。町の産業が漁業と養殖業に絞られており，立ち上げ時に各分館を回った際には，「俺たちは仕事がスポーツなんだ」「仕事が終わってからまたスポーツするのはどうなんだ」などと言われた。町の中心にスポーツ施設，役場などの中核施設が揃っていて，スポーツクラブとしてはやりやすいのではないかというのがあった。

七ヶ浜町のスポーツについて，現在，体育協会が 11 協会，67 団体，867 名，スポーツ少年団が 12 団体，372 名で活動している。町のスポーツ行事は，生涯学習課と体育指導委員で運営されていた。その後，スポーツ振興基本計画が平成 16 年に策定された。その中に総合型地域スポーツクラブの育成が謳われた。ここから総合型の立ち上げが始まった。

平成 15 年の 10 月にキーパーソンの発掘ができ，設立準備委員会というものを設立した。設立委員会というものを作った時に，町民が何をスポーツに求めているのかをアンケート調査した。中学校２つ，小学校３つ全てに，家族分を配布した上に，全戸配布を行って，その中で 2,200 人から回収をし，それを基に教室のプログラムを立てた。

私たちの場合，体育協会のトップに総合型の設立について相談した時に，やらないという回答を頂き，その後，体育指導委員も出来ないという話を頂いた。なので，体育協会から何人，スポーツ少年団から何人，地区の行政区から何人という形で，行政が主導になり，地元の人たちがみんなで立ち上げたという形になる。体育協会，スポーツ少年団，指導者協議会などの団体としての加入は無く始めた。そういった団体からは，「俺たちは俺たちのスポーツをやっているのだから，いいじゃないか」という話もあり，大変だった。

平成 17 年の３月にクラブの設立総会を行い，４月からクラブ活動を行っている。同年９月にＮＰＯ法人格を取得し，平成 18 年度から指定管理業務をやっている。非常に，ここの時期は駆け足をして立ち上げた日々であり，何度も法務局にいったり，税務署にいったり。本当に，ここは大変な６か月だったという覚えがある。

イ　クラブの活動内容について

クラブを立ち上げて，会員は 309 名から始まり，現在 534 名となっている。平成 21 年３月時点で 591 名という会員数だったので，今年度は 650 名という目標を立てている。

もともと，補助金を使っていこうという考えは全く無く，会員から頂いたお金でクラブを運営していくのがねらいだったので，個人会員の会費をいくらにするかを特に理事会でも話し合った。クラブマネージャーを１人雇用したいという目標があり，雇用するためにはいくら必要で，会員を 300 人集めて，会費を 6,000 円頂くと１人雇用が出来る，ということで，会員の目標人数を設定して金額を出した。近くに，アクアリーナというスポーツ施設があり，そこが年会費 5,000 円でやっていたので，それも一応視野に入れて，6,000 円という形にした。その後，ファミリー会員が 12,000 円，夫婦会員が 10,000 円という金額を出した。

その後，教室などの参加料を設定した。アンケートで，スポーツをやりたいが，スポーツ少年団のように毎日送迎し，毎日見ないといけないのは，子供も嫌だし，親も嫌だということがあった。なので，スポーツのきっかけ作りということで，「スポーツバイキング」という教室を作った。誰でも，そこに行ったらスポーツが出来る。各曜日に設定し，食べるバイキングと一緒で，どんなスポーツを何種類やっても月々1,500 円でやっている。子供たちは，ドッチボールをやって野球をやって，バドミントンをやってサッカーをやって 1,500 円だったり。バドミントン一つだけだが 1,500 円だったり。本当にバイキングは好評で，たくさんの子供たちに参加して頂いている。

「スポーツレッスン」種目もあり，太極拳，バドミントン，ジュニアベースボールなどがある。これは，バイキング種目から，もっと大会に出たいとか，本格的にバドミントンをやりたい，野球をやりたい，という子供たちが非常に増えて，それで，レッスン種目に切り替えた。なので，こちらはしっかり指導して，月 2,000 円頂いて，大会に出るような指導をしている。

今，クラブの柱になっているのがプールレッスン種目。七ヶ浜町から離れた多賀城市とか仙台市，塩釜市で，高いお金を出してプールを習っている子供が多数いて，それをなんとか地元で，安く，同じような指導内容でできないかということでレッスン種目を始めた。クラブを始めて３年目で 150 人を超え，今年度 280 人を超えた。クラブ４年目でジュニアコース，クラブ５年目で初めて選手コースというコースを作り，今はクラブの柱のレッスン種目となっている。

「ゆめキッズ教室」，これは助成金で始めた教室で，社会教育主事を入れてもらい，その先生に相談して，子どもの居場所づくりという事業をやった。もともと，文部科学省の地域子ども教室という助成金があり，その助成金で事業を始めた。小学校でかぎっ子というのが七ヶ浜でもだいぶ多く，週１回ではあるが活動している。この事業には，最も多く地域のボランティアが参加していて，地元のお母さんたちが子供の面倒を見てくれるということでお願いしている。クラブでも必ず職員１人，コーディネーターということでついている。

「いきいき教室」，これも健康体力つくり財団の助成金で始めた。いままで助成金を使わないでやっていこうなんて言っていたが，新しい事業を始める時に調べて使っている。ただ，助成金の期間が終わったからといって教室を終りにするようなことは絶対にしないようにしている。なぜ助成金を使うかというと，物品を買うことができたり，備品を揃えられたり，指導者に１年だけでもしっかりとした謝金を渡せたりということで，助成金を使っている。

町でも，各行政地区に出向いて，無料で健康体操のような事業をやっている。私たちがそれに対抗しようとしても難しいので，対象の年代を変えた。町でやっているのがだいたい 65 歳以上とか 70 歳以上の方を対象にしているので，私たちは 50 歳以上を対象にしている。10 年後の自分にプレゼントをしませんかというネーミングでやっている。10 年後の自分が，ぴんぴんと，今までと変わらないように歩けて，笑えて，買い物に行けるようにということで始めた。今現在，60 名の方に参加して頂いている。

現在，指導者登録が 72 名で，他の指導者はボランティアで来て頂いている。一番初めに，クラブの理念とか，教室のスタイルとか，総合型クラブの話をして，指導謝金は微々たるものしか払えないので，七ヶ浜町のスポーツ振興のためにお手伝い頂けないかということで協力をお願いしている。

それから，ＣＳＲ（Corporate Social Responsibility）活動，地域貢献ということで，「エコベンチャースクール」を実施した。これも１年目，ＪＴ（日本たばこ産業株式会社）の補助

金を頂いて始めた。子供たちもたくさん参加して，山にキャンプに行き，キャンプに行った時のゴミは最終的にどこに行くのかとか。あと，シーカヤックに乗って，どれぐらい海にゴミが浮いているのかとか。子供たちにウォークラリーをしてもらい，どんなゴミが落ちているのかとか，浜にはどのぐらいのゴミが落ちているのかということを，子供たちと勉強した。

もう一つ，「チャレンジデー」という笹川スポーツ財団の事業があり，毎年，５月の最終水曜日に，15分間以上の運動やスポーツの実施率を市町村で争うという，非常に面白い事業で，平成20年度に北海道美幌町と対戦して，私たちが45.3%，美幌町が38.1%で，私たちが勝利した。翌年度は大分県豊後高田市と当たり，ここは負けた。今年，福島県会津坂下町と当たり，接戦の末負けてしまった。

私たちには，町のスポーツ実施率を上げるという最終的な目標があるので，こういったスポーツ事業，イベントにはどんどん参加していかなければならないと思い，参加している。

広報も，旬な情報を旬な時期に発行したいということで，白黒印刷ではあるが１か月に１回，必ずクラブ紙を作成して，配布している。

「ぐるりんこ」という町民バスが今年から走っているが，私たちがクラブを立ち上げた平成17年度には，町民バスが走っていなかった。そこで，足が無く教室に参加するのが大変だということから，「ゆめワゴン」というものを買った。この車で，会員の足になってバスを運行した。このときにクラブ会員がどんと増えた。次の年にはもう１台，10人乗りの車を買い，これでまた会員が増えた。

私たちも，なるべく助成金には頼らずにと言ってきたが，実は助成金を頂いている。初め，日本体育協会の指定クラブということで298万円頂いた。初めて立ち上げをした時に，町長，教育長などの協力もあり，七ヶ浜町から，200 万円の補助金を頂いた。文部科学省の地域子ども教室でお金を頂いていたが，この300万円はクラブには入れずに，別会計でやった。平成18年に，健康体力つくり財団から頂き，いきいき教室という事業を始めた。それから，笹川スポーツ財団のチャレンジデーを始めたり，みやぎＮＰＯのゆめファンドから，ファンドを使って研修などを行った。助成金は頂いているが，必ず，受益者負担100円でも，50円でも，お金を取って事業を始めている。今年度から初めて，日本スポーツ振興センターのtotoの助成金を頂いている。パンフレットもtotoの助成金で作っていて，広報に力を入れてみたいというか，力不足だなということで，初めて助成金を使い作った。横断幕を作ったり，クラブマネージャー人件費ということで全部で535万８千円頂いた。

クラブ会員の推移だが，今のところ右肩上がりで上がっている。ただ，今年の９月現在で会員が540名なので，平成21年度よりは上げないといけないというのが課題となっている。

ウ　クラブの今後の目標について

長期計画としては，町を動かすようなクラブになりたいと考えている。今，町でやっている事業も，全部私たちがやればいいのかなということを考えている。町民にとって，コンビニ的存在になりたいというところが非常にあり，今，午前８時30分から午後10時までの勤務で窓口を開けているが，スポーツに関しては，ゆめクラブに行けば何でも分かるというようにしたいと考えている。あそこに行けば何でもスポーツのことが分かるというように，コンビニ的存在にしたいと思っている。

会員数の目標は，町民の１割。だいたい2,100から2,000人の目標で行きたい。

施設収入として，今，指定管理料を頂いているが，時間はかかると思うが，私たちは「指定管理料ゼロ」を目標にしている。利用者の収入で指定管理をまかなえないかというところを長期計画に入れている。

それから，オリンピック選手の輩出ということで，ジュニアオリンピックとか，国体でもいいが，有名な選手を七ヶ浜から出したいと考えている。

最後に，私たちのキャッチフレーズ，「夢のあるひとにしか夢のあるまちはつくれない　夢のあるまちにしか夢のある子どもは育たない」というキャッチフレーズ，これを叶えていきたいなと考えている。

エ　クラブの組織形態と予算関係について

現在，事務局長がおり，私がいて，正職員が３人いる。理事が７人おり，他に監事が２名，あと，行政がいてくれてということでやっている。もともと，クラブを立ち上げた時は２人でやっていた。指定管理を取る時に，クラブマネージャー１人と，指定管理の方のクラブマネージャーということで１人，その他に職員を１名，職員３人体制で，パートを１２名程雇っていた。指定管理を受けるに当たって一番望んでいたことは人材の確保だ。クラブであれば３人しか使えなかった人材が指定管理を受けることで１５人にも１６人にも膨らんだ。

理事の中でも，会社勤めをしている方がたくさんおり，工業系に勤めている方は，フェンスが壊れたとか，ドアの不具合が起きたなどがあると飛んで来てくれて直してくれる。印刷業者の理事も，パンフレットの印刷をお願いしたり，クラブの集金袋の印刷をお願いしたり，本当に助けられている。保険屋の方もいるが，クラブのイベントをやる時にアドバイスを頂いたり，助けてくれる方がたくさんいる。

予算関係だが，必ず，事業報告，それから収支決算書など，会員の皆様に報告している。予算に対して予算を組む訳では無く，必ず前年度の決算に対しての予算を組んでいる。また，必ず毎月，月次報告を専務理事とやっている。月１回は勉強会を開いて，みんなから説明をしてもらっている。

できれば１千万円を貯金をしたいという目標を決めている。今のところ，500 万円弱の貯金ができているかなというところで，なるべくクラブで貯金を増やして，指定管理が何かあったときに使えるようにとか，クラブでお金を使いたい時に使えるようにということで，１千万円の貯金を目標にしている。

クラブの使用する施設の数だが，七ヶ浜町の施設の中の，アクアリーナという所だけ指定管理を受けておらず，ここ以外の９つの施設を指定管理させて頂いている。利用頻度の高い施設が必ずあると思うが，そこは使っていない。なるべく，既存団体が使わない時間帯に教室を持ってきたりとか，他の団体とはかぶらない形で事業を進めている。大人の教室に関しては，一番利用頻度の低い曜日を設定して，そこで使わせて頂いている。

体育協会，スポーツ少年団から，私たちは「ＮＯ」と言われて，住民主体で作ったクラブになるが，やっぱり，体育協会とスポーツ少年団とはまったく別という形でクラブを進める訳にはいかないということが，私たちにも一番初めの課題だった。どうにか体育協会とかスポーツ少年団を巻き込みながら，ゆめクラブを進めていけないかということで，行政からアドバイスを頂いて，平成 19 年度から，体育協会，スポーツ少年団の事務局の委託を受けている。委託金 35 万円と，非常に小さい金額ではあるが，と言ったら失礼だが，将来的に，全てを組みこんで

いきたいという目標があるのでやっている。今は，体育協会もスポーツ少年団もゆめクラブを頼って，こういうことをしたいんだが，やってくれないか，とか。一緒にタイアップしてやっているイベントがいろいろ出てきていて，本当に，少しずつではあるが，歩み寄っているのかなというふうに感じる。

② 七ヶ浜町教育委員会教育長より，クラブ立ち上げまでの苦労話について

まず，町のトップの町長とこれを立ち上げたいという私の考え方の一致，これが出発点としてはどうしても必要だ。町長と教育長の連携。今の町長の町づくりというのは，行政主導から住民主体，というのが町長の町づくりの基本方針だった。それを受けて，私は，スポーツ振興で町づくりに寄与したい。七ヶ浜の町というのは小さくて，東北で一番面積の小さい町だが，施設が比較的コンパクトにまとまっているということと，それから，何よりもスポーツ好きな町民。これが七ヶ浜の特徴だと私は思ったので，スポーツ振興で寄与したいなと。そんな時に，国が，総合型のスポーツクラブの立ち上げといった振興計画を作った。それで，七ヶ浜にもぜひそれを作りたいと。それを町長にぶつけた。すると，町長は，それはいいことだ，ぜひ進めてくれと。人材とか財源は，可能な限り町でバックアップする，と。

派遣社会教育主事という制度があり，県にお願いして，平成16年から3年間，派遣社教主事の導入を頂いた。この時の派遣社教主事のスポーツ担当の条件が総合型スポーツクラブを立ち上げる町にだけやるということだった。2，3人ぐらいしか派遣されなかった。私も，県の生涯学習課とか，スポーツ健康課に日参して，派遣社教主事の獲得をした。

問題は，興味関心を持って本気になってやってくれるキーパーソンがいるかどうかということ。これが実は一番大事だ。行政主導でやっても長続きはしない。今まで私もいろいろな所を見たが，つぶれた所はみんなそうだ。

将来的には，ゆめクラブの中に体育協会とかが位置付けられる形で，ゆめクラブが主体にならないといけない。立ち上げの時も，様々な苦労をした。何が苦労したかというと，体育協会とかスポーツ少年団とかのトップにいる人の考え方だ。ここが崩せない。なかなか難しい。それで，しょうがないから町長とか私とか，関係者でつぶしにかかった。そこで，スポーツ少年団とか体育協会の内部の方の意識が変わった。これが条件。これが無い限りは，作っても長続きしないし，総合型は作れない。

③ 七ヶ浜町教育委員会担当者からの説明

ア クラブの設立までの行政側の取り組みについて

やはり，首長と教育長の意見が一致しないことには始まらないものだと思う。町の長期総合計画にも載せているし，スポーツ振興計画の中にも施策の方向性ということで総合型の育成を載せている。それをまず基本として，町長と教育長が一致団結して取り組もうということで，教育長が派遣社教主事を獲得して，クラブの立ち上げに専門職として就かせた。

設立の発端は行政主導で行かないと難しい。「こういったものがあるので民間から誰かやりませんか」と言っても，なにそれと言われて終わりなので，まずはこちらが火を点けて，それから動かなくてはいけないと思う。私たちが立ち上げた時は，みやぎ広域スポーツセンターから，アドバイザーの方1名を招き入れて，体育協会，スポーツ少年団，行政区長，公民館の分館長，大学生，大学教授を招き入れて，設立の準備委員会を何度も重ねて，立ち上げた。

その後，クラブのことを末端までどうやって届けるのか，ということで，地域と各団体への説明が主な仕事になった。総合型スポーツクラブってどういうことなの，ということを町の方々が知らないと参加もできないので，各地区の区長，分館長に，説明会をやらせて欲しいとお願いをして，こういったものなのでご協力をお願いしたいということを行った。

体育協会，スポーツ少年団も，いろいろな反発があって，すんなりとはいかなかったというのは本当だ。総合型というのは何なのか，何をする所なのか，ということで，最初から説明をしないことには難しいだろうと思う。各関係団体のトップが総合型をやろうというように一致しないことには，なかなか難しいというのが，教育長も言ったとおりだ。

あと，もう一つ，大切なのが，総合型を理解して，賛同してくれる，それも一般の方。で，その方にキーパーソンとなって頂く。その民間の方が入ってきたおかげで，行政主導では無くて，その方に主導になって頂いて，実行委員会を設立できた。行政でやると，どうしても堅くなる。一般の方が立ち上げるということになれば，その方の取り巻きの方も手伝ってくれる。行政側は下にいて，バックアップするというような体制づくりをした。ただ，行政では，お金の面とか，かかる経費に関してはバックアップするという形にした。

イ　クラブ設立後の行政側のサポートについて

町長，教育長も一致して立ち上げたので，運営に関しても逐一報告，確認を取る。クラブがやりたいことなど，町長と教育長に報告・連絡する。「ほうれんそう」。つまり，報告，連絡，相談，それを全部やる。そうすることによって，このアクアゆめクラブというものを，町長がとても可愛がっている。そういった関係が，ゆめクラブはできている。教育長も，毎日のようにゆめクラブに行っている。なので，ゆめクラブのことを心配してくれる。町長，教育長が作ったクラブだというイメージがあるので，大切にしている。

ウ　行政側からクラブに期待することについて

体育協会，スポーツ少年団は競技団体なので，そちらの方で活動をして頂く。ゆめクラブはこれらの団体に属していない方々をいかに発掘して，いかに運動，スポーツに親しんでもらうか，そういったことをやって頂きたい。ということを最初に申し上げて，今，事業を計画してもらっている。スポーツだけじゃなく，交流会，レクリエーション的なものとかもやって頂ければ，各地域での交流とか，知らなかった人と友達になれたりとか，そういうこともまちづくりになるので，お願いしている。

ゆめクラブに期待することだが，今年で設立５年目，指定管理者も４年目に入る。ゆめクラブも七ヶ浜町には浸透したので，もっともっとクラブのＰＲを重ねて，会員も，2,100 名という目標もあるので，それをできるだけ早い時期に達成できるような努力をして頂きたい。指定管理も，こちらの夢でもある指定管理料をもらわないで町の施設を管理する。そういうことになれば，町としても願ったり叶ったりだ。

町民の方からすれば，スポーツに関して，ゆめクラブに聞けば，すぐに回答をもらえる，というようなクラブになって欲しい。同じことを，我々生涯学習課も思っているので，これからも期待をしている。

④　質疑応答

質問１：アクアリーナというのは，町でやっているのか。

回　答：違う。アクアリーナはもともと町で運営をしていたが，平成18年から指定管理を導入し，今は，仙台のスポーツジムの，グラン・スポールという所が指定管理を行っている。

質問２：体育協会とスポーツ少年団の活動実態が衰退しているから，総合型の方に切り替えたのか。もう一つ，クラブが立ち上がったことで，行政のスポーツ事業を減らしたか。

回　答：体育協会とスポーツ少年団の現状だが，確かに，ここ数年は活発化していない。というよりも衰退方向になってきている。体育協会全体としての動きはない。

ゆめクラブと生涯学習課の事業だが，生涯学習課の事業は，だんだんゆめクラブの方でやってきてもらっている。ゆめクラブと，我々がやっている事業で重複するものもあるので，重複するところは全部ゆめクラブへお願いしている。スポーツ関係事業についてはゆめクラブと我々で，半々以上でゆめクラブがやっていると思っている。

質問３：人材の確保の方法，指導者登録が70数名いるようだが，その辺をどうやってきたのか，そして，今後どうしていくのか。今の人数で指導者は間に合っているのか，足りないのであればどういう方法を使ってどういう人材を確保していきたいのか。指導者のスケジュール調整や割り振りは，どのような形でやっているのか。謝金関係は，どのような考え方でやっているのか。

回　答：ゆめクラブを立ち上げるときに，町広報を使い，指導者募集とか，ゆめクラブが立ち上がるということＰＲして頂いた。広報を見て，「やりますよ」「やれますよ」と言ってくれる人がいた。足りないところは理事が手伝ってくれた。地元のボランティアの人とか，ゆめクラブの理事の繋がりで始まった教室が多かった。会員も増えて，指導者を増やしたいとなったときに切羽詰まっているところではある。

謝金の件だが，スポーツバイキングは１回1,000円しか払っていなかった。なので，協力者が３人来ても1,000円，５人来ても1,000円しか払っていなかった。ただ，レッスン化になると，しっかりした指導もして頂きたいし，責任も持って頂きたいので，レッスン種目はしっかりお金を払っている。1,500円から2,000円。で，たまに，すごく優秀なひとが来てくれるからということで，3,000円出したりする。一応，参加人数にも上限をつけていて，バイキングは，20人以下は1,000円で，20人以上は1,500円ということで出している。レッスン種目に関しては，一番高くて5,000円というのがある。

（2）多賀城市「多賀城市民スポーツクラブ」について

① 設立の経緯

行政の予算の関係や国の施策の関係で多賀城市でもスポーツクラブにゆるやかにシフトしていこうと話し合われた。平成12年に制定されたスポーツ振興計画に従い多賀城市が進めて行った。平成12年暮れから始まった議論が設立総会まで22回，延べ70時間にも及び，かなり時間をかけて作り上げられている。

宮城県では初めての総合型スポーツクラブということで育成モデル事業を使って設立した。はじめの2年は行政職員がこちらの体育館にいて運営をし，平成15年から一般公募で採用をし，運営をしている。運営の体制は，事務局は一般公募から7名採用し，地元企業から地域貢献事業という形で無償で1名派遣して頂き，計8名。行政職員は当初15名体制だったが，段階的に減らし3名。現在はさらに減らしており，1.5名になっている。スポーツ課からスポーツ振興係に縮小し，さらに現在は多賀城市にはスポーツと名のつく担当課，係はなくなっており，全て生涯学習課で行っている。

② 法人化について

法人化に関しては平成16年4月にＮＰＯ法人格を取得して，平成17年4月から3年間の指定管理期間を迎え，現在2期目だ。指定管理施設は体育館とプール，テニスコート，野球場，サッカー場である。学校開放についても夜間，土日などの開放時に当クラブで管理している。

スタッフについては常勤職員9名，非常勤職員37名，総勢46名で活動している。

常勤職員の大半は，市民プールの監視業務が主で，その他窓口での受け付け，トレーニングルームのスタッフなどの業務も行っている。

③ クラブの目的

スポーツクラブの目的については，定款第3条より「クラブは，多賀城市民の健康増進に関する業務を行い，もってコミュニティーの促進，豊かな高齢化社会の創造及び青少年の健全育成など，明るく豊かで活力に満ちた多賀城市の形成に寄与することを目的とする」となっているので，多賀城市と歩調を合わせながらスポーツクラブを進めている。

④ 組織体系

具体的な組織体系としては，まず理事が10名いて，その中のトップが理事長，現在は多賀城市体育協会の山岳会の会長を理事長に迎えている。そして事務局があり，監事が2名，賛助会員が法人・個人といる。正会員というのは総会での議決権のある会員である。具体的な人数は正会員86名，賛助会員団体16団体，賛助会員個人8名，活動会員1,108名となっている。さらに協力団体という形で，スポーツ少年団の本部，体育指導員協議会，体育協会とも連携している。スポーツ少年団と体育協会の事務局を当スポーツクラブが担っている。体育指導委員については，多賀城市では年々減らしていて，現在6名体制である。その6名に関しても当クラブの正会員となって頂いて，事業にかかわって頂いている。さらに体育協会，スポーツ少年団の本部の方々についても，本部長は総務企画委員になって頂いていて，体育協会については，

競技スポーツ委員会に複数名の委員という形で入って頂き，連携については当初立ち上げの時から３団体で立ち上げたということもありかなり連携ができているかと思う。さらには，指導委員会や事業推進委員会などそれぞれの委員長に当クラブの理事が入って頂けるという状態である。また指導者部会，企画部会など各種部会に部会長という形で担当理事が入っている。

⑤ 各種団体との連携

スポーツ団体との連携について，当クラブのスポーツ寺子屋という事業の指導をスポーツ少年団の少林寺拳法の先生に指導して頂いたり，テニススクールの講師を体育協会のテニス協会の指導者に協力して頂くなど，人的な協力をスポーツ少年団や体育協会にして頂いている。

当スポーツクラブの 1,000 人を超す会員の内の半分以上は水泳スクールの子供だ。こちらは設立当初，スポーツ少年団の会員をスポーツクラブとの融合という形で当クラブに入って頂いたという経緯がある。

大学などの連携だと，スポーツ指導者研修会などの事業計画であったり，アシスタントなどもして頂いている状況である。今年度は仙台大学から１名インターン生を迎えて，「親子トレッキング教室」という事業にかかわってもらい，約１か月間研修を行った。ＮＰＯとの連携では地域の子育て支援を行っているＮＰＯと連携して，こちらにある和室を使って託児をして頂いている。

⑥ 指定管理・予算について

クラブには，延べ人数で言うと 50,000 人を超す方々に参加して頂いている。市民対象事業，こちらは教育委員会の主催事業であったり，独自のスポーツクラブの自主事業になっており，こちらも延べ人数で 7,000 人を超す方々に参加して頂いている。

指定管理者関係の予算は，社会体育事業，いわゆる教育委員会の主催事業の参加費が決算額で約 40 万円。次に，施設の利用料が５施設で計約 3,600 万円，社会体育事業の運営業務委託料が約 500 万円，施設の管理・維持業務委託料が約１億 910 万円，公園施設の管理料が計 637 万円である。支出については，社会体育事業の事業費から給与を支出している。給与については事務局費が 3,000 万円程だが，理事長については月に５万円の謝礼を行っており，ほとんどボランティアに近いような形になっている。事務局職員に関してもかなり低いレベルの 150,800 円からスタートしている。今は多少は底上げしているが，事務局職員に関しては短大卒くらいの給与となっている。非常勤職員については時給 730 円で契約を結んでいる。

大きく分けるとすると，指定管理の部分で１億 6,000 万円，それ以外の業務で 400 万円という予算立てになっている。

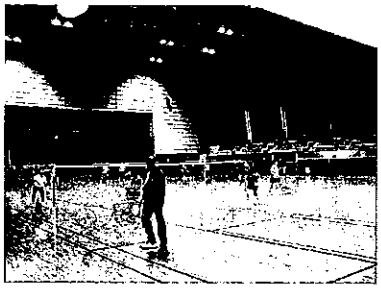
法人運営に関して。こちらの収入は会員の方から年会費・月会費を頂いているものが大半となる。支出項目で大きいものは，やはり指導者への謝金という部分が大きいと思う。基本的に当クラブは１回あたり 3,000 円を指導者の方にお支払いする形をとっている。ただ，同じ日に連続してスクールを指導する場合については，3,000 円プラス 30 分につき 500 円。例えば１回 3,000 円のあと１時間行うとすると 3,000 円プラス 1,000 円で 4,000 円という計算方法で行っている。法人運営の方は６千万円程の収入がある。

⑦　利用調整について

年間予定については，１月中に調整している。施行規則から抜粋させて頂くと，多賀城市の総合体育館の場合は，利用しようとする６か月前からと謳っているが，各団体の年間行事予定の作成だったり，各関係団体との調整をした方がスムーズにいくという流れで，１月中に調整し，２月初旬より一般受付をしているという状況だ。具体的には，優先順位はまず，行政（教育委員会，健康課）を優先し，２番目については多賀城市内のスポーツ関係団体（体協スポーツ団体，中体連），３番目が市内の関連団体（ＰＴＡ，シルバー人材，社会福祉協議会），４番目は宮城県内の団体（フットサル連盟，東北電力），５番目に県内のスポーツ団体（プロレスなど）という優先順位で受付をしている。条件としては県内の団体の調整が終わって，かつ一般開放が確保されている（一般開放は土日いずれか１日は誰が来ても利用できるような状態）場合，県内のスポーツ団体が入れるように調整している。

学校開放を利用する団体については，２か月に１回，利用者協議会を実施している。こちらは当クラブの職員が１名入り，各小・中学校の利用者が一堂に会して利用調整をしている。

ただ，やはり飽和状態になってしまっているので，新規の方が入るのを優先するのか，定期的に利用している方を優先するのか，なかなか難しい部分があるが，そういった話もしながら進めて行っているという状態である。



⑧　これからの課題

課題としては，事業担当者が異動してしまうと，情報の共有や仕組みがゼロから，もしくはマイナスからのスタートに戻ってしまう。何が課題かと言われれば，行政とのコミュニケーションかなと思う。あとは費用対効果。毎年限られた予算の中で大きな効果を出さないといけないということについては，かなり戦略的な考え方をしていかないと難しい。あとは期間限定事業からの脱却。単発の大きなイベントも当然必要だが，その後の選択肢を出せるような環境作りが必要なのかなと思っている。クラブの方向性としては，やはり地域の人材の活用や育成，指導者の確保，充実した研修の実施というところに特に力を入れている。当クラブの正会員は80名程いるが，そのうち８割が指導者で，その方たちに様々な団体からきている研修の案内を行う。当クラブでは交通費を補助しており，指導者の質を上げるということをしている。また，ネットワークの構築ということで，スポーツ関係団体に限らず，地域のＮＰＯや，様々な団体との連携をこれからはさらに充実していかなくてはならないと思っている。あとは内容・サービスの充実ということで，市民や関係機関のニーズの把握，例えば当クラブでは今，障害者の方々のスポーツは取り組んでいないので，次年度からは新たに取り組むなどの話合いを今進めていて，関係団体から話を聞きながら事業を展開していくように進めている状況である。

利用者の年齢構成を見ると，高校生や20代，30代の利用が低いのでそのあたりの利用を増やしていくのが課題の一つである。

⑨　質疑応答

質問１：指定管理を受けて，行政から注文があったかと思うが，どのようなものがあったか。
また，地元の企業から無償の協力があったという話を聞いたが，そういったことをやっている企業が他にあるか何か情報があれば提供をお願いしたい。

回　答：行政からこの頃言われているのは，モニタリングであったり，アンケートよりさらに利用者のニーズが把握できるようなものを戦略的にやった方がいいんじゃないかという話をもらっている。他には，社会体育事業といわれている教育委員会主催の事業と，当クラブが独自でやっている自主的な事業とあるが，行政としてはなるべく行政主催の事業をスポーツクラブ主催に移行したいと考えているようだ。

企業からの協力に関しては10年近く前の設立当初のことなので，現在と違う部分が多いと思うが，当時，社会貢献の一環として一定期間，施設の保守管理を委託していた企業から，専門性を生かすという形で派遣があった。それ以降，現在まで企業からの派遣は無いし，現在の社会情勢を考えると企業としても難しいと思う。

質問２：利用料金について，クラブが立ち上がる前と金額が変わったか。また，金額が変わったことによる利用者からの意見などはどんなものがあったか。

回　答：施設が立ち上がる数年前に行政の方で条例を改正して値上げを行ったが，スポーツクラブへの移行に伴う改正ではなく，行政側での判断で行っていた。スポーツクラブが立ち上がってからは利用料金の変更は無い。

質問３：ＮＰＯ法人であるが，ＮＰＯ法人に加入していなくても施設は利用できるのか。

回　答：加入していなくても施設利用料さえ払っていただければ利用できる。加入している約80名の正会員は総会での議決権がある。

質問４：ＮＰＯ法人の年会費と各種スクールの会費はどのようにして決定したのか。

回　答：年会費は収入源としてかなり大きい部分なので，初めから少し高めに設定した経緯があるが，設立当初から金額は変わっていない。各種スクールの会費は施設利用料の値上げに伴い設立当初より若干の値上げを行っている。月会費の方は指導者謝金や消耗品など。年会費は保険料と事務手数料となっている。なお，当スクールの広報紙「れっつたがすぽ」は行政の広報紙と一緒に全戸に配布して頂いているので郵送費などはかかっていない。そのあたりは設立の際に行政の協力ということで確認をしたのでよかった。

参加者名簿

市町等の名称	参加者名
白石市教育委員会	小室徹彦
角田市教育委員会	大内克典
蔵王町教育委員会	今村敏男　玉手美絵
七ヶ宿町教育委員会	伊藤貴子
大河原町教育委員会	平林　健
村田町教育委員会	佐藤裕史　藤原秀光　佐藤隆法
柴田町教育委員会	大川原真一　齋藤良美　杉本龍司
川崎町教育委員会	村上　透　冨田丈靖　我妻聡美
丸森町教育委員会	齋藤公男　伊藤博道　齋藤洋寿
仙南広域教育委員会	佐々木洋佑
大河原教育事務所	山本　玲　横塚正己

多賀城市総合体育館にて

講話及び座談会
総合型地域スポーツクラブについて

講話及び座談会開催要項

1　期　日　　平成２２年１１月１６日（火）１３：３０～１６：００

2　場　所　　大河原合同庁舎

3　テーマ　　「総合型地域スポーツクラブについて」

4　講　師　　草　間　　進　氏　（スポーツコミュニケーション・かくだ　会長）

5　次　第

（１）開　　会　　（研修委員長）
（２）開会挨拶　　（協議会長）
（３）講師紹介　　（大河原教育事務所社会教育主事）
（４）講　　話
（５）座 談 会
①設立のきっかけや準備
②行政の役割
③体育協会・スポーツ少年団・地域の協力関係
④運営・活用・経費
⑤発展や展望，提言
⑥質疑応答
（６）御礼の言葉　　（協議会副会長）
（７）閉　　会　　（研修委員長）

6　出席者

大川原真一（柴田町社会教育主事）　小室　徹彦（白石市社会教育主事）
齋藤　良美（柴田町社会教育主事）　伊藤　博道（丸森町社会教育主事）
伊藤　貴子（七ヶ宿町社会教育主事）　齋藤　洋寿（丸森町社会教育主事補）
佐藤　隆法（村田町社会教育主事）　平林　　健（大河原町派遣社会教育主事）
玉手　美絵（蔵王町社会教育主事）　我妻　聡美（川崎町派遣社会教育主事）
佐々木洋佑（仙南広域社会教育主事）　横塚　正己（大河原教育事務所社会教育主事）
長岡　潤一（(財) 宮城県体育協会クラブ育成指導員）

講話：「総合型地域スポーツクラブ」について

草間です。行政にも学校関連にも顔を出す，本当に地域の親父です。陸上競技をやっておりました。30年前に大学を終えて親父の跡を継いだときに，角田の陸上部で昔お世話になった方々と一緒に「今度は世話になった分，返せよ。」ということで協会に入りました。そんな中で子供たちを指導していました。私が若い人たちを集めてクラブチームを立ち上げ「あぶくまアスレチッククラブ」というクラブチームを立ち上げました。平成13年ですから9年前ですか。福祉大学，学院大学と対戦し宮城県のチャンピオンチームにもなっています。一週間前にも宮城県代表としての選手を数人，輩出しています。仙南，宮城県，いろいろな大学で，頑張っている子供たちがいます。大学に行かない子供たちは実業団に進むしかありませんが，宮城県には続ける場所もありません。そういうところを何とかできないだろうかと思って始めたのが「あぶくま AC」でした。一度つまずいたのですが，縁あって地元に来た学校の先生とともに「また出発しよう」ということで頑張りまして，今はクラブ会員40名ほどです。間違いなく，宮城県でこういう活動をしているのは，私のクラブチームだけだと自負しております。そして，ついに，この仙南の地から日の丸の選手を出しました。

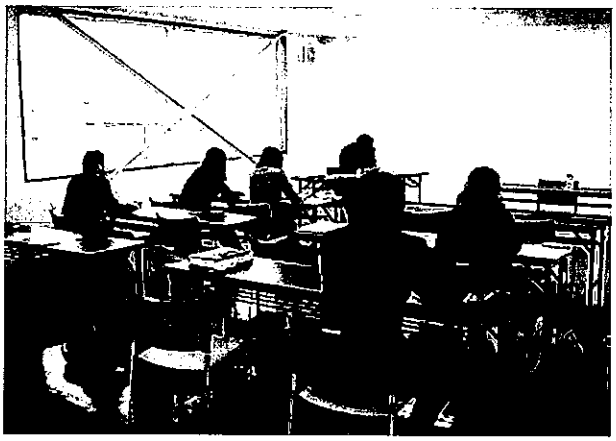
さて，私が話をしたいことは，立ち上げた経緯ということです。平成7年，8年くらいに，文部科学省の学校教育の中で，中学校，高校のクラブ活動がなくなるという話を聞いたことがありました。私はちょうど10数年前に，その話を高校の先生，陸上部の顧問，副顧問，白石女子高の先生たちからそういう指導を受けました。当時，教育長と市長は，私たちと一緒に地域活動をしてきたものですから，その中で「まずはグランドができたら，小学生にかけっこを教えたいよね。」ということで，かけっこを協会として教え始めました。子供を教えていくときに「自分たちは勉強しなければいけないな」というよりは「子供と一緒にかけっこを楽しもう」とだけしか考えませんでした。そういうことを続けていったときに，学校のクラブ活動を思い浮かべました。

先生たちに指導されたのは「地域のクラブチームにしよう」という指導でした。地域のクラブチームは，今で言うサッカーです。まず，サッカーがこういう形になっていなかったので，地域のクラブチームと小学校，中学校，高校，社会人，大学，横のつながり，クラブチームだけどその年齢を集めたチームの集まりの集合体になりました。時には高校の，とにかく地元の高校の名前を使って，選手として各方面に出ることはあっても，他はクラブチームとして活躍しています。そういう形でやっていくスタンスをとりました。

このクラブチームには，小学生，中学生，高校生，大学生たちが集まっています。高校や大学生になっても競技を続けたい人は続けてほしいと思います。競技を続けながら，地元の子供たちに指導をすることもできると思いました。それが，大きな形でいうクラブチームになればいいよねと話しました。スポーツコミュニケーションクラブ（以下「スポコム」）というよりは，かけっこで地域をしっかりサポートできる，6，3，3の12年，そして大学生，それをサポートするのが協会。その先生たちを支援してサポートしていくことで活動できるだろうかということが，陸上協会の目的であり，体育協会の本来の目的になるのではないだろうかと考えておりました。私にとって

講話1

は，それをサポートしてくれる陸上協会がベストであり，さらに，陸上協会をサポートしてくれる体育協会が大切です。縁があって体育協会の活動だったら陸上の子供たちを育てようという活動の中に，サッカーをやってきました。実は子供たちの教室をやろうとした時には，教育委員会がサポートしてくれました。ありがたいことに，教育委員会は，数年前に「民間がすることで，そういう活動から手を引く」と言い，当然，角田市の体育協会からも教育委員会が手を引きました。だから，中で僕たちが独自で始めるしかないと思ったのが総合型地域スポーツクラブでした。平成 16 年に最初の会合で勉強会をしました。高校の先生から話を聞いて，自分たちで形をつくろうよ，子供にはできないよという話から，自分たちで作っていったと思います。



平成 16 年に，県の体育協会でもそういう話があるということで，まずは話を聞こうということからのスタートでした。設立準備委員会がやっとできたのが平成 19 年です。その間は丸５年かかったのですが，大変でした。どうも，宮城県が言おうとしていることと，私たちができることのギャップがあり過ぎる。今，皆さんも総合型地域スポ
ーツクラブの話を聞くと「さて，自分のところではどんなふうにできるのだろうか」と，とっても悩んでいると思います。私たちも今の県のやり方とか，講師の先生を呼ぶたびに「ちょっとこれは俺たちにできない」「俺たちには無理だ」と思いました。じゃあ，自分たちにできる形に誰が作るのか。自分たちのできるものを持って，考えているものを持って，逆に県の体育協会には，というふうに，県体育協会の総合型地域スポーツクラブの担当の方にいろいろとすり合わせしてもらったのが現実です。

さて，話は飛びますが，今の総合型地域スポーツクラブの考え方というのは，私どもの考えと違っていて，地域ごとにやっているスポーツクラブ，地域のスポーツ推進委員を中心とした活動と同じだと思います。でも，それは広がりがなくて，町全体に広がらない。私たちが考えたのは，あくまでも子供に視点を置いた，自分たちでもできる地域のボランティアです。そこにスポーツ少年団との違いをどういうふうにしておくのかということでした。私たちが長くやるには，無理のない範囲で，週２回くらいと思っています。

地域のおんちゃんたち20名くらいが集まって，子ども会育成会の話し合いに入りました。育成会の中で勉強しながら，一番役に立ったのは，自分の子供が卒業してからの今の子供の環境です。一緒に暮らせない親子とか，片親の比率はどのくらいだろうという話になりました。「今は，大変な世の中で，今の子供の環境も昔とは違います。今，学校がどういう状況か，まず分かってください。」と言われました。子供の中には，学校のない土日に子ども会にも出ない子がいます。行き場を失った子供たちの受け皿ってないだろうかと思いました。行政は介入しない，じゃあ民間ができるのかと，お金を出してまではできない。そんな中で，子供たちにどんな場面でスポーツをさせてやり，横とのつながりとか縦とのつながりを与えるのだろうかと。

私たちは育成会の中で，教育委員会の方々と水沢に行き，寺子屋事業を勉強してきました。受け皿として求めていたのは，縦の関係，横の関係を親密にしようということ。今はどんなスポーツだろうと，上下関係がきちんとした子供はいません。カツ上げ，いじめの問題もいっぱいあります。昔ながらの指導じゃなくて，今そういう関係を作るのに何があるか，スポーツ少年団の環境とは違うところで何ができるのかなと思いました。スポコムという横のつながりを，子供たちにその場面を与えることはできないか。週に２回だったら，土曜日の午前中だけだったら，お父さん，お母さん

達も何とかならないかと思いました。もっと大切だと思ったのは，スポーツをやっても，すぐに抜けてしまう子供がいることです。1回入って抜けると子供ってなかなか他の事をしようとしません。挫折した子供たちがそのままスポーツから離れることなく，いろんな場面に分かれながら，自分の力でもう一度挑戦する場面があればいいと思います。だからスポコムでは，どんなスポーツクラブに行ってもいい，一週間ずつ交換してもいいよと，そういう場面ができればと思いました。県が推進している総合型地域スポーツクラブとはちょっと違うかもしれません。これを学校の校長先生，教頭先生と直接会って話してきます。教育委員会が一緒に行くと，私のような者でも会わざるを得ないのです。一緒に行って話をしてきます。「そのとおりだ。」と言われ，今年の4月には了解を得ます。今，子供たちに，どこかでチャンスを与えてやるということが地域のおんちゃんのできるスポーツなのかなと思います。

勝つためのチャンピオンシップに私はなぜ否定的かというと，今，大切なのは，逃げないとか，そういうことも勉強しろということです。教えるためには，そういう場面をこちらが用意すればいいと思います。今の子供たちは，一つのスポーツをやると，そのまま一生同じスポーツをやろうとします。なぜか？それは友達がいるから。違うことに挑戦しようとしないのです。ずっと補欠のままで構わないのです。それともう一つ，今，私の田舎では，部活動がありません。スポーツに関する意識が変わってくるということがあるので，中学生に関しては，その前の段階でいろんなことに挑戦できる場面があればいいと思います。

今，スポコム3年目を迎えて，私たちが子供たちのために何ができるのかという時に，種目を増やすことの他に，事務局はスポーツも文化活動も一つだということを常に考えています。昔，皆さんが小学生の頃，学校にクラブ活動ってありませんでしたか。将棋クラブとか，剣玉クラブとかありませんでしたか。さらに野球をやったりバスケットをやったり，クラブという一週間に1回の授業があったと思います。私たちが目指すスポコムは，小学校のクラブ活動です。私たちは今，科学クラブがほしいです。体験活動がほしいです。そういう小学生のためのクラブ活動が総合型地域スポーツクラブにならないだろうかと逆にこちらから提案しています。もし，そういうクラブ活動ができれば，少しは学校とか地域とか子供たちのお手伝いになるかもしれません。例えば，今，伝統文化がなくなるところであれば，その人たちが入って来てくれればいいんです。これはまだ構想の段階ですが，教育委員会，特に生涯学習課はいろんなところでいろんなものを持っていますよね。そういう活動をうまく生かすことができると思います。そういう地域の活動なら役場とも手が組めると思うのです。今，役場ではそれを役場職員がやってしまうから大変です。役場の職員は，みんなそれを離したがります。もし，そういう活動ができれば行政と手が組めるのかなと。角田市では少なくとも，皆さんと同じ立場にいる私の同級生がそういう活動を支援するという形が行政区等とコミュニケーションをとりながらできないだろうかと。

でも，はっきり言っておきますが，角田市からは一銭ももらっていません。お金はナッシングです。もらうとやらなくちゃいけないことが多くなります。体育協会は角田市から補助金をもらっています。角田では150万円。分けると，今20団体あるので各団体7万円。スポコムは，お金は違う方からもらっています。県の体育協会，これを指導しているスポーツ振興係からアドバイスをもらって，今はtotoの助成金をもらっています。その前は，成人スポーツ教室事業で，年間12回の講習会をしてくれということで，県から50万くらいもらいました。あとは，会のお金の運営に関しては，指導員，スタッフから会費を取ります。自分たちから教えてあげるのに，会の運営のために金を払います。講師謝金はほとんどボランティアという形をとっています。会の運営については，あとで必要ならお話します。

スポコムとしては，地域の必要性を考えて「今の子供たちにこんなのがいいよ。」と立ち上げました。県が指導している方向性とは多少違います。違いますが，先ほども申しましたとおり，地域には地域に合ったスポーツクラブの作り上げ方と

いうのがあると思います。それをどうやっていくのかということだと思います。他の市町村は，地域振興公社のようなところが，地域振興係の振興の部門でスポーツ推進という形でこの総合型地域スポーツクラブを立ち上げているところが多いようです。私は角田がそんなふうになってほしいと思っていたのですが，今，県の指導を受けながら，実際はNPO法人を取って運営をしていかないと，地域のボランティアに頼るだけではいけないなと思います。そこに若い事務局もほしいと考えていますが，今のところはこの流れを形にして，行政との連携をどこまで通していけるか，逆に言えば，行政が私たちにどこまで支援してくれるか，何を持って支援してくれるかを見極めながら，手を組んでいかなければと思っています。少なくとも，体育館の使用料，学校の施設の利用，そういうものに対しては力強く，行政からの後押しもあって，これをもって支援とすると思っているのですが，そういう方向性で支援をもらい，これから先はもっともっと会員を増やそうと考えています。現在の会員は230名。そこに社会人の成人スポーツ教室が40名，スタッフが30名。約280名くらいの動きです。ただし，ちょっと前は角田だけではなくて，白石，大河原からも来てもらっていましたが，今年はいないようです。無理のない範囲でやっていこうと思います。皆さんにお伝えしたいのは，総合型地域スポーツクラブを本気で取り組むつもりであれば，どこか地域のスポーツをやっている団体とスポーツ少年団と手を組むことができれば，十分それを支援することができるのです。10人，20人で始めればよいのですから。取り組む気があるかどうかです。地域の「そんなことだったらしてあげたいよね」って思うおんちゃんが必ずいます。体育協会の中で必ずいます。ただし，体育協会がうまく機能していない団体はひどいです。私もこちらの道は長いので，体育協会っていろんなところで活動している団体がいっぱいあります。スポーツ少年団の現状が分かるでしょうか。今，少子化でスポーツ少年団が非常に厳しいです。サッカーは選手が集まらなくて練習にならないのです。陸上も昔は180名くらい集まったのですが，今は30名です。それが，そういう教室がないものですから，みんな集まって来ます。サッカーいいよ，バスケットいいよといろんなスポーツがあって，とりあえず受けてみて，最終的には自分で決めるのですけども，そういうことをやろうとしている団体さんがいれば，子供はついてくるのかなということです。それをどんな風にして取り組むのかということだと思います。

私は，悪い活動だとは思っていません。逆に「やっといてよかったな。」と思っています。なぜか。それは，学校の先生は喜んでくれています。私は地域の親父なので，当然，子ども会とか地域のお祭りとか，そんなのをやらせてもらっていますが，子供たちは何かをやろうとするときに接点がないとだめです。でも，おんちゃんたちもやってやろうとする人たちはいるのですが，それをまとめる人がいないのです。それを行政でしようとすると，担当が替わるといなくなってしまうので出来ない。だけど，うまくそういうおんちゃんたちのグループを作ってあげることだと思います。陸上教室は，市役所の職員，県庁の職員が指導者の半分です。あとは民間です。サッカー教室，ほとんどが角田市の職員です。卓球も半分は市の職員です。役場の職員の若い人たちとかおんちゃんは，そういうこと考えています。でも，毎週毎週責任のあることを全部やれとは言えないので，自分がやれることを持ち寄ることをすれば，可能なのかと思います。持ち寄らせるための，下準備やネットワークづくりが行政に求められています。そういうことさえもしないで「さて，どうしようかな。」と言ったってそれは絶対無理なのです。まず，最初に取り組むことは何だろうと考えて，子供たちに何かできることがないだろうか，育成会もそういうところで手を組めるかもしれない。

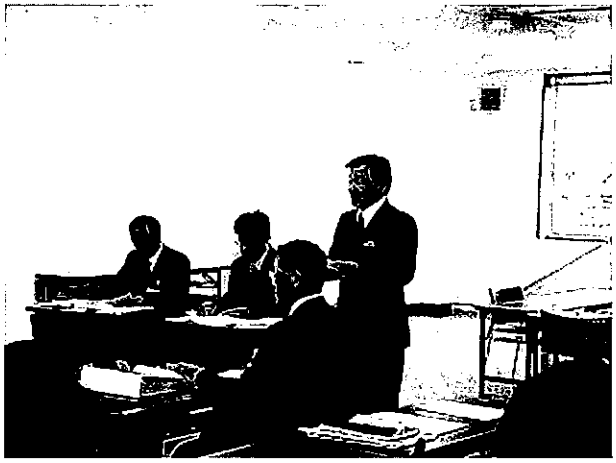
今，子供の環境を考えれば，地域のおんちゃんが黙っている場合ではありません。それでは，教育委員会は何をすべきか。学校は何もできません。でも，私たち，おんちゃんたちが手を組めばよいのかなと。その手を組むノウハウをうまく伝えることができれば，私はどんな市町村でも小さいことから始められると思います。スポーツ少年団が一つのスポーツ少年団のための団体ではなく，総

合型地域スポーツクラブ，いろんなネットワークを持っている体育協会で，指導者を集めるからみんなでやろうよ，と変えることができる。今，スポーツ少年団は組織ができなくなっているところがいっぱいあります。そういうところの指導者が集まって，総合型地域スポーツクラブを拡大した形でできないだろうかと思います。今日はサッカー，来週はスケートというふうに，少しずつ少しずつゲームができるようになると，違う流れができるかも知れない。皆さんの地域では，探せばまだまだできるはずです。探すのは人を探すのです。そういう人をどう探すかは，私たちよりは皆さんが努力する必要があります。それさえできれば，立ち上げは必ずできます。

それを支援するために今日は県体育協会の方が来ているのです。やる気があるところへはすぐに飛んできます。一緒に勉強しようと言ってくれます。おんちゃんみたいな年になって，人が恩返しに来てくれます。「あんたにやってくれと言っているわけじゃない。だれか友達いないか。」という話をすればいいんです。事務局やってくれる人がいれば，何とかなります。事務局になって，細かいことをさせるのは大変です。だからって，役場に丸投げしてしまっては，絶対だめです。受付とか手伝うことはあっても，メインはちゃんとした人を置かないと，それを若干サポートするよという程度にしておかないと育ちません。私たちもまだ育ったとは思っていません。まだ３年です。「ボランティアは，できるときに，できることを，できる範囲で，精一杯やればいい」と思っています。だめだったらやめればいい。やめる機会も与えてやってください。バンザイできる状況を作っておくのも彼たちに責任を与えていると思うし，きちんと裏からサポートすることが行政の力だと思うのです。行政の人たちは，やめるときのこともお手伝いしてください。そうすればもっとものの考え方も変わると思う。私の周りにはそういう役場の職員がいます。「やめたい時にやめていいから。でも，子供たち，今頑張っているからな。笑っているからな。」って言うと，おんちゃんたちは少し頑張れます。おんちゃんたちはお金は要らないです。おんちゃんたちはちょっと頑張ればいい。行政が甘い言葉をかければいいのです。甘い言葉は「頑張れ」ではないです。「つらいかい？やめようか？」「何を言っているの。」皆さんも地域のおんちゃんと連携を取って下さい。

角田の人口は３万人ですが，わっと大声を出すと，結構何とかなります。陸上協会には役場に勤めているスタッフがたくさんいます。陸上協会と話がいっぱいできるのは，メンバーに役場の方がたくさんいるからです。そういう人たちと連携が取れているのが私たちの強みです。私の後ろには市役所の職員，学校の先生たちがいて支援してくれます。みんなは子供たちの練習のパートナーです。一番大事なのは選手と子供たちが接する場面に市役所職員がたくさんいてくれること。そういうおんちゃん，おばちゃんたちと一緒にできればいいだけで，そういうネットワークもうまく生かす，そして，体育好きなおんちゃんたちがうまくやってくれればいいと。若い人には若い人なりの接し方があるし，年寄りには年寄りの接し方もある。

最後に，私が目指すのは「小学校のクラブ活動」です。それがスポコム角田になればいいと思っています。会長になって３年目ですが，それが皆さんに分かりやすい活動内容だと思っています。ありがとうございました。



座談会テーマ：「総合型地域スポーツクラブ」について

小室：それでは，これから座談会に入ります。

小室：はじめに設立のきっかけについて話し合いたいと思います。

草間：設立のきっかけを考えるときに，あくまでスポーツの世界ということですので，さっき講話で言ったとおり，地域の子供たちにどれだけ田舎のおんちゃんたちが提案できるのだろうか，ということを考えたいですね。

スポコムのメインは，親子スポーツ入門編です。そのスポーツで日本チャンピオン作ろうとか，世界チャンピオンの礎にしようとか，そういうことは考えていません。まずは，スポーツ少年団に入る前の段階での「親子スポーツ入門編」をさせてあげたいのです。さっき言った小学校のクラブ活動というのは，中学校に行って初めて部活動に入る前の準備段階のものと考えていました。その中で環境が整い，小学校５年生以上になれば「もっとやってみたい」「試合に出てみたい」という子は，バスケットのクラブチームに入ればいいし，サッカーのクラブチームに入ればいいのです。

実際，うちのクラブでも，バスケットと陸上をやっている子がいます。スポーツをするための受付のような場なので，どこに行ってもいいよということでやっています。あくまでもこれからスポーツを嫌いにならないようにするための「親子スポーツ入門編」ということをメインにこの会を運営できればよいと思っています。その程度だとみんな無理なく，地域のおんちゃんもお手伝いできる範囲なのだと思います。

今，少子化の中で，スポーツ少年団が行き場をなくしているのが現実です。「青田買い」なんですね。親が「これがいいからやってごらん。」「○○ちゃんがいるから。」「お母さんたち同士が友達だから。」と引っ張っていくのです。子供たちは何も考えさせられていないのです。これが現状なのです。だから子供たちには，親子スポーツ入門に一緒に行って「面白かった」「楽しかった」「じゃあ続けてみる」と言えるようなスポーツをやってほしい。年間１万２千円，２万円を取るのではなくて，土日全部つぶされるのではなくて。一度，親子でスポーツ入門に行ってみることができたら，親子にとってプラスになるのではないか，少なくともマイナスにはならないと思うのです。

とにかく，田舎は大変です。ある小学校では，１年生から６年生まで全部がバスケットのスポーツ少年団に登録です。そのスポーツ少年団がいろんなことをやらせてあげれば，それだけでも総合型地域スポーツクラブになる。しかし，指導者がバスケット命になってしまうことがある。子供を扱う指導者なのに頭の中がバスケットしか知らないようでは困る。そんな人に子供を預けたくないものです。

まずは，学校行事や地域の行事が大切。学校のこともしないで「部活動，部活動」なんて言っていてはいけない。そういうことがちゃんと考えられる大人に育つ，そういうことを考える大人とちゃんと手を組めば，最初は苦しくても，あっという間にクラブは設立できる。そういうお父さん，お母さんと手を組むことがスタートです。今の若いお父さん，お母さんって，土日全部つぶされる

のが嫌だという人が多いから，そういうのは大きなきっかけになるかもしれない。子供たちを取り巻く環境を考えれば，地域に根ざしたスポーツクラブになると思う。

佐藤：平成16年度から準備が始まって平成19年度から準備委員会が立ち上がったと伺いましたが，その間，結構，辛いものがあったという話を聞きました。準備委員会設立に向かって加速していったきっかけは何ですか。

草間：それは，県の担当者が「ここまできたら，あんたたちで何かできないか。」と話してきました。私たちができることとして伝えたことは，陸上だけのクラブチーム設立でした。さっき言った小学校，中学校，高校，社会人で地域のサッカークラブチームを立ち上げることです。それを総合型地域スポーツクラブでやりたいと言いました。それでもいいと県の指導者に言ってもらったのです。私たちは陸上だけではなくて，スポーツ少年団の現状，学校の現状，学校や教育委員会とのやり取りがあれば，この形ですぐにでもできると話したのです。その方が子供は一つのスポーツにとらわれることもない。野球を邪魔したとか，野球の試合があるからって役員会にも来ない，学校行事にも来ないということがなくなるかなと思いました。自分たちがやってこられたのは，メンバーに教育委員会，役場の職員，陸上協会の人が多かったので，逃げないでみんなで取り組めたと思います。

佐藤：準備委員会が立ち上がってからは，どのようなことをやったのですか。

草間：勉強会です。体育協会の会長さんとか，集まるのは大体10人程度でした。よく人が集まらないと言いますが「5～6人でいい。それでもいいから話を聞いてくれ。」と，みんなで参加する。ことあるごとに県の体育協会に行って接点をもち，いろいろと相談してアドバイスを受けていたのです。立ち上げるまでは5年，6年かけてもいいと思います。じっくり自分たちでできることをやった方が，歯車が回っていくような気がします。やってみてだめだと思ったらバンザイすればいいんだ。バンザイする勇気は民間にはあるのです。役場の皆さんは難しい。勇気を持って取り組むのは役場の仕事です。勇気を持ってバンザイするのは民間人ですから。例えば，仙南のどこかの地域で「これって総合型地域スポーツクラブですよね。じゃあ，これをそのまま名前だけでも出してみないか。」と言えばOKですよ。それが，1つの地区ではなくて，指導者がいて地域全部に広報すればいいだけです。例えば，ゲートボール場だったら，地区のゲートボール場ではなく，町の中心部のゲートボール場にすればいいんです。でも，そこでやろうとすると，地区の年寄りは来ないですね。それを支援しながら，「今回はこっち。次はこっち。」ってやっていくと，すぐ立ち上げられると思うのです。「あなたのためではなく，みんなのためにやるのです。」と言えば，それこそ熱心な町会議員が1人いれば，すぐにでもできますよ。

長岡：広い地域は，今，その地区にあるものをベースにして作っていけるのでしょうか。

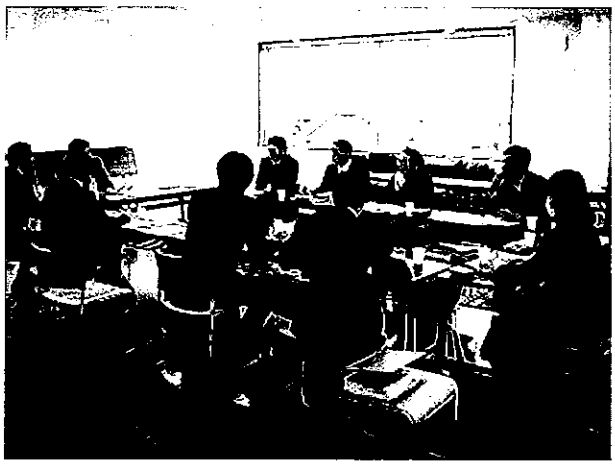
齋藤（洋）：地元の色が強いとどうでしょう…。

草間：学校が無くなって，地域に中学校が1つになって，縮小して団体競技もできなくなると，もしかすると，その地域ならではのものを一つ作りあげると，いい地域づくりができると思いますけどね。

伊藤（貴）：地域スポーツクラブの設立で，行政ができることって何でしょう。

草間：お金ではないんです。本当に作るときに必要なのは，全面的なバックアップです。それは，私たち民間が学校に行って子供たちにチラシを配ろうと思っても無理なのです。チラシさえも配れないのが民間なのです。それを行政が後押しをしてくれるというのが第一です。二つ目に，社会体育施設を使うためのお金を取らないということ。そして，率先して支援してくれるということ，優先的に貸してくれるということです。一番ありがたかったのは，学校の校長先生から体育館を月

２回，スポコム用にと合鍵を渡されたことです。ありがたかったですね。びっくりしました。これは，教育委員会や役場が支援してくれている，学校も支援してくれているんだと思いましたね。地元のおんちゃんがバレーボールで使う時は「鍵は今日中に返しなさい。」「前の日に借りに来なさい。」と言われます。当たり前のことです。行政の支援の仕方っていろいろあると思うのです。お金は出せないけれども，体育施設を率先して貸してくれるっていうのは非常にありがたいと思います。それから，事務所を置いていいと言われました。机一つなのですが。本来は社会体育ですべき仕事だったかもしれないなと思ってもらえた。だから，体育館の中に机が置けるように，体育振興係と話をするからと言ってもらえた。そういう支援がきちんとできていれば，こちらもありがたい。もう一つありがたいのは，広報に率先してあげることができる。こういうところ（この座談会）に呼んでもらえる。どんなに立派なことを言っても，行政と絡んでいないとそういう場での話し合い，皆さんからのアドバイスをもらえない団体になってしまいますので，お互いによいところを取り合って，お互いを使いあっていけば十分可能だと思うのです。



行政と手を組み，お互いにうまく使っていけば，力をつけてよい関係になり，お互いがまだまだ伸びると思うのです。ですから，役場と信頼関係を作る。民間がきちんとした活動をすることによって，そちら側と手を組めるということなので，その手を組むというまでのプロセスをきちんとしなければならない。まずは，だれか民間人を表に出して「裏で俺ら支援すっからや。がんばっぺ。」って。その代わりに支援すると言った人は，他の課に行ってもずっと続けてほしい。これは町をあげてとか，地域をあげて必要だと思った人に対して，必要だと思った人たちが動けばいいだけだと思うのです。人のネットワークって，簡単にはできないと思うけれども，若いからうまく年配を動かせると思うし，若い子が年配を動かす方が楽。今のスポーツ少年団に入っている人たちは，PTA活動もなかなかしなくなってきている。「いや～忙しい。」「土日は試合がある。」ばかり言うけど，地域の活動をしていないからそういうことを言っていると思う。もし，地域の活動をきちんとしていれば，そんなに難しいことではない。そうすれば，その中で役場とうまく手が組める。

齋藤（洋）：私は小学校の頃スポーツ少年団に入っていました。中学校からずっとバスケットをやっていて，ずっとスポーツで育ってきました。子供たちが一生懸命やっているのは，すごくいいんですね。その中で，地域の中から人材発掘に取り組む際にどうやって人探しをしていけばいいのかと思います。

草間：個人的には，中学校の先生と手を組んでいます。今，中学校の校長先生は，実はスポコムの選手で，メンバーです。彼が中学校の先生たちとのネットワークがあるので，そこに行って「一緒に立ち上げませんか？いろんな種目ができるように角田のスポコムと手を組みましょう。」と言えば，それで終わり。それがスポコムになればいいんですから。総合型地域スポーツクラブになればいいんですから。時々，自分たちばかりでなく他に練習会に行ったっていい。そうしたら，いろんな種目にかかわらず，いろんなことができる。そういうことは始めれば何とかなるんですよ。そういう話を近所の同級生３～４人集めて「じゃあ今日は角田の陸上協会に行きましょう。」って言えばいい。なんてことはない。子供たちにどうい

うことを提案できるかということを考えればいい。自分たちで全てしようとするから次へ進めなくなる。責任をうまく分散すればいい。そういうものの考え方を浸透していけばいい。自分のやれる範囲で，自分がやれることを考えれば，できないことはない。総合型地域スポーツクラブが横のネットワークを使いながら，地域的にあればそれに越したことはない。人って，一人二人で練習しても何の意味もないし，子供たちが何のためにやっているのかということの縦の交流，横の交流が欲しい。本当に，教育委員会の中で必要だと思ったら，それをあえてやらせる。そういうところに送り込むことも，そのチームのものの考え方。そういう勉強会にしようよ。自分たちの中だけでやる必要はない。

県の話を聞くと，億の委託金で指定管理の中でクラブをやっているところと，100万くらいでやっているところがあるので，規模別，内容別に分けていかないとこんがらがるのさ。県は大きい規模のところと小さい規模のところとごっちゃにしているから説明の仕様がない。立ち上げのときに，大きな話ばかり聞くと「何言ってるの？おらほの町の予算くらいかかるっちゃ。」大きなところの話を出されても，こっちではできない。角田は子供たちがメインなので，会費を1,000円からはじめて，今は1,500円にしている。これは年間の保険代。あと，行政から別な意味での補助金をもらっている。totoからの補助金をもらっている。さっきも言ったけど，自分たちでどのへんならできるかなって狙いを定めて，いろいろ相談に行き，私たちみたいにちっちゃなところから育てていくのも十分に可能。

役場の職員の若い人たちが，役場のこういうポジションにいる人たちが5～6人集まって「あの親父にやってもらおう。」とか「町会議員に会長になってもらおう。」とか言って始めればそれでいいのさ。町会議員とか市会議員とか，そういうのを好きな人がいくらでもいるからさ。うちでも市会議員さんでクラブマネージャーの資格を取ったメンバーがいます。ただ，議員さんは表に出ないので，逆に，私みたいにどこかのおんちゃんとかさ，役場を退職した人とかさ，学校を退職した先生とか「子供のために」って言ってうまくつかうのさ。そのときは，役場のチームとかに，野球チームやバスケットのチームがあると思うので，そこから始まってもいいし。中学校の部活動を指導できるボランティアを集めればいいし。その話って，中学校に話すととても喜ぶよ。やり方も取り組みも。こちらが役場の中の人たちに「こういうことをしたいんだ。」って社会教育のあなたたちが「これは3年越し5年越しでやりたいんだ。」って言うと，こういう場面にいる人たちっていうのは，PTAとかにも出ている人だと思うので，役場の中で仲間を作ってやっていけばよいと思う。何もないところから始めるんじゃなくて，私たちみたいなのもいるから，一緒にできることは一緒にやっていけばいい。そして大きな人数で集まるのではなくて，5～6人の少人数でミーティングを重ねて，お伺いを立てるのではなくて「まずは来てけらいん。私と議員とだれだれと何人か集まってるから。」まずはやろうと思ったことからスタートすれば，そこから新しい世界に入るかも。例えば，5人くらい入るからミーティングすっぺって話になれば，似たような市町が横で手を組めるかもしれない。

齋藤（良）：さっき補助金と言う話が出たのですが，それは毎年申請してもつくのでしょうか。

草間：財源は県のtotoの補助金が来年まで，3年

間でます。でも，totoの補助金もだんだん方向性が変わってきたらしく，設立準備基金と言う名前があって，私たちは170万円もらっています。でも，角田の体育協会は，19から20くらいあるのです。そこには角田市の150万円の助成金だけです。その中からありがたいお金をもらっています。私たちのところは，ベースは200人で70万から80万円の会費，全部で大体100万円くらいのお金を持っています。これで会の運営，保険とか道具を買います。totoの補助金は，170万もらって40万返さなければいけない。でも，170万もらった中の40万円ではなくて，170万円は別にしておいて，持っている金から40万返しなさいという仕組みです。前はたくさん使っていたのですが，これは，講師謝金と広報に使います。広報活動は立ち上げのときにとても大切です。広報活動と道具を買うのに目いっぱい使わせてもらいました。

玉手：仙南全体で総合型地域スポーツクラブを作るにはどうすればいいですか。

草間：県のベースが県全体よりも各市町村ということなので，小さな活動の方がよいと思います。県で指導している各市町村に1つという考え。仙南広域と考えないで，まずは各市町村でこじんまりと始めればいいと思います。いいところにはいいネットワークができると思います。本当にやらなければいけないのが，県自体が県全体の大きなクラブチームを作るという夢を持つこと。あぶくまACというのは，角田だけでなく，仙南クラブにしたいという夢があったので，角田ACにしなかったということがあります。だからあぶくまと言う名前を使わせてもらったんです。他の地域からも来ていますが，同じ市内でもスポコムにまだまだ集まっていないので，まずは角田市内の子供たちに伝えることが先かなって。だから地道な活動をこつこつとやるしかないのかなと思います。

佐々木：小学校のクラブ活動と言っていましたがこれからの活動について聞かせてください。

草間：クラブ運営は，小学校のクラブ活動のように，行きたいときにいけるんだという環境づくりだと思うのです。小学校のクラブ活動って，中学校の部活動に入るための準備期間だと思います。そういう受け皿になればいいのでしょう。もう一つは文化活動の一つとして，太鼓とか理科クラブ。今，角田では，月1回くらいで理科の実験教室というものをやっています。子供たちにいろんな可能性を見せられる民間の団体であればいいと思います。ピアノもバスケットも一緒だよと。あと，スポーツ少年団とのかかわりと言うと，うまく上につなげてあげると言う程度だと。協会の中にも陸上のスポーツ少年団があったり，バスケットボールのスポーツ少年団があったり，お互いのスポーツ少年団のいいところを生かし合えればいい。私がやりたいと思っているのは，親子キャッチボール教室や科学クラブだと言っています。

草間：とても進んでいると思われる地域があるのに，どうして設立できないんでしょうね。

小室：止まっているんですね。スポーツ振興計画を作り，体協と体指とスポ少を集めて研修会もしています。難しく考えているのかも知れません。

佐藤：体協やスポ少の指導者の話を聞くと「今の活動と何が違うのか」「自分たちの活動ではだめなの」などの気持ちがあるようです。それぞれの長の話になると「いや，やった方がいい」と。具体的にどんなものを作って，どういう活動をしていけばいいのか，具体的なビジョンが見えていないことがあります。

草間：必要だと思うけど，なぜ必要かを説明するのが難しいと思うのです。私のところは，自分のところの子供の状況がわかっていたのが大きいと思うのです。皆さんのところで，本当に必要なのかというところを見極めなければならないと思います。

小室：今日は，講話，座談会と長時間にわたりありがとうございました。

提言　仙南型総合スポーツクラブ
『仙南プランのススメ』

提 言　仙南型総合スポーツクラブ『仙南プランのススメ』

これまでの２年間の研修から「仙南における総合型地域スポーツクラブ（仙南型総合スポーツクラブ）」の在り方を『**仙南プランのススメ**』として提言したい。

1　アンケートの分析から導き出された『仙南プラン』の在り方

❑　仙南のスポーツに関する住民ニーズの概要

	小・中学生			一　般		
	運動・スポーツしている		運動・スポーツしていない	運動・スポーツしている		運動・スポーツしていない
	クラブ入	クラブ未	小学生…２７％	クラブ入	クラブ未	５０％
着眼点	・「クラブ未加入でもしている」小学生は４０％存在している。		・していない理由 「うまくできない」 「やりたいスポーツがない」	・スポーツ実施率が国の目標値より低い。 ・クラブ未加入者の満足度が低い。		・していない理由 「時間がない」 「機会がない」
今後やりたい種目	【体育施設等利用型】 ・バスケットボール　・バドミントン ・ドッジボール，ドッジビー ・テニス，バウンドテニス　・弓道 【シーズンスポーツ，レジャースポーツ型】 ・ボウリング ・スケート，スキー，スノーボード ・キャンプ　・釣り			【体育施設等利用型】 ・ヨガ，ピラティス ・ウォーキング，ジョギング ・バドミントン　・テニス，バウンドテニス ・ジム　・水泳，アクアビクス 【レジャースポーツ型】 ・ボウリング　・釣り　・バッティングセンター ・キャンプ　・登山，ハイキング		
入ってみたいクラブ	「やりたいときに，気軽に参加できるクラブ」 「いろいろなスポーツが楽しめるクラブ」			「やりたいときに，気軽に参加できるクラブ」		

仙南型総合スポーツクラブ※の

プラットフォーム（土台）

※仙南型…仙南の住民ニーズを取り入れた

※総合スポーツクラブ…総合型地域スポーツクラブの理念を取り入れたスポーツクラブ

❑ 目指すクラブ像について

仙南型総合スポーツクラブ

やりたいときに，
いろいろなスポーツに，
気軽に，
参加できるクラブ

❑ 目指すクラブの具体プランについて

①「やりたいときに」を実現するために

時間がなく定期的に参加することができない方々や，機会がない方々のニーズに応えるため，比較的高い頻度でクラブを開催し，年間を通した短・中・長期スケジューリングをしていくことが必要である。

【具体プラン例】

ア，毎日開催（放課後スポーツクラブ…小学生が主な対象）
イ，週３回開催（国の施策に対応できる回数）
ウ，月４回開催（週に１回）

エ，月２回開催（２週に１回）
オ，月１回開催
カ，年間４回開催（シーズンスポーツ，プロアスリート招へい等のイベント開催）

ア，イ，ウ　と　エ，オ，カを組み合わせて開催しましょう。

②「いろいろなスポーツに」を実現するために

「やりたい種目がない」と回答した方々を始め，ほとんどの回答者は一人で数種目を「今後してみたい種目」として選択している。本調査結果で示された上位種目を取り入れることが必要である。

【アンケート上位種目】

《「一般」が今後してみたい種目》

- ○ ヨガ・ピラティス
- ○ 水泳・アクアビクス
- ○ バドミントン
- ○ テニス・バウンドテニス
- ○ スポーツクラブ・ジム

《「小・中学生」が今後してみたい種目》

- ○ バスケットボール
- ○ バドミントン
- ○ ドッジボール・ドッジビー
- ○ テニス・バウンドテニス
- ○ 卓球

屋内スポーツ

屋外スポーツ

- ○ ウォーキング・ジョギング
- ○ テニス・バウンドテニス

- ○ テニス・バウンドテニス
- ○ キャッチボール

シーズンスポーツ

- ○ 登山・ハイキング
- ○ キャンプ

- ○ スケート
- ○ キャンプ
- ○ スキー・スノーボード

レジャースポーツ

- ○ ボウリング
- ○ バッティングセンター
- ○ 釣り

- ○ ボウリング
- ○ バッティングセンター

大人，子供それぞれのニーズや，共通のニーズ（下線部）に着目して種目を取り入れましょう。

③「気軽に参加できる」を実現するために

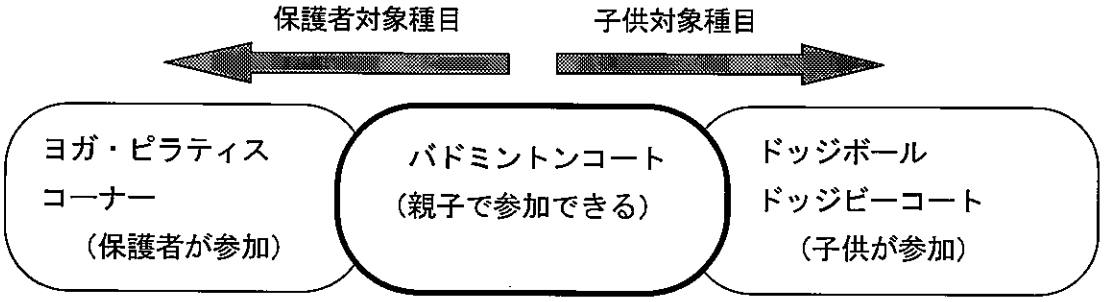
スポーツをやっていない方の多くは 50 代の女性が多いことがわかった。「時間がない」「機会がない」という理由を鑑みると，家事や子育て等の都合でスポーツをする機会を見出すことができていないということが推察される。また，子供においては，部活やクラブの所属・無所属に限らず，いろいろなスポーツに気軽に参加したいという思いがあることも分かった。このことより，**やりたいときに，いろいろなスポーツに気軽に参加してもらうという観点から**プログラム案を以下に示したい。

案１：親子（家族）で通えるように種目を組み合わせましょう。

例）屋内施設利用型

ステップ１： 屋内スポーツ種目で「一般，小・中学生共通の種目」を選ぶ。（例 バドミントン）

ステップ２： 一般，小・中学生それぞれの上位種目」選ぶ。（例　ヨガ，ドッジボール，ドッジビー）



※　３つのコーナーは自由に往来でき，自分のペースで参加・休憩できる。

※　プログラム替えを年に１～２度行う。

組み合わせによる効果

○子供…保護者同伴なので時間帯の心配が少なくなる。

○保護者…子供の送迎に併せて自らも参加する機会ができる。

○自分のやりたい時に参加できる。

案２：５０代女性をターゲットにしたプログラムやキャッチフレーズを準備しましょう。

スポーツをしていない率が最も高い５０代女性に特化した，効果的なキャッチフレーズで参加意欲を喚起する。

例）キャッチフレーズ…***「10年後の自分にプレゼントしませんか！」***

（これは実際に「七ヶ浜アクアゆめクラブ」で使用しているフレーズです。）

例）種目…ヨガ・ピラティス，バウンドテニス，美容体操，健康講座等

案３：シーズンスポーツ，レジャースポーツ等のメニューを取り入れましょう。

アンケート調査で上位の種目の半数は，シーズンスポーツやレジャースポーツであったことから，これらの種目を取り入れることも大切である。常時参加できなくとも，こうした特別メニュー開催日を選んで気軽に参加してもらえる可能性も考えられる。

例）親子アウトドア教室

・蔵王自然の家等の施設が主催するイベントにクラブで参加する。

・国立野営場を利用してキャンプ教室を開く。

例）ウィンタースポーツ教室

・バスをチャーターしてスキー場やスケート場に行く。

例）レジャースポーツ教室

・バッティングセンターとボウリング場を午前・午後に分けて巡る。

例）スイミング教室

・スイミングクラブ等から講師を派遣してもらい，ワンポイントレッスンを行う。

例）釣り教室

・渓流釣り，フナ釣り，海釣りまで年間シリーズ化して開催。

案４：スポーツ観戦や講座等も取り入れましょう。

アンケート調査より，健康講座等のニーズも見られた。このことから，学ぶスポーツ・観るスポーツ教室も開催視野に入れたい。

例）スポーツ観戦ツアー…ベガルタ仙台，楽天イーグルス観戦ツアー

例）健康講座…仙台大学等から講師を招へいして行う。

例）スポーツ婚活※…合同ハイキング，合同ゴルフコンペ，合同高原ランニング等

※→文部科学省スポーツ立国戦略でも「スポーツ婚活」が取り上げられている。

2　先進地視察・座談会から学んだ『仙南プラン』立ち上げのヒントキーワード

これまで，研修委員が視察したり話し合ったりした中には，たくさんの先進的な考え方や豊富なアイディアやヒントがあった。その中から，研修委員選りすぐりのキーワードを紹介したい。説明が必要なものには簡単に概要を紹介しているので参考にしていただきたい。

（1）クラブの立ち上げ，規模，形態，組織

■ *「本気になってやってくれる**キーパーソン**がいるかどうか，行政主導では長続きしない。」*

■ *「**首長と教育長の意見が一致**しないことには始まらない。」*

■ *「あるスポーツ少年団が**いろんな事をやらせてあげれば**それだけでも**総合型**といえる。」*

→以下すべて総合型と解釈できる。
①単種目多世代型…高齢者ゲートボール教室を小学生にまで拡大して開催
〃　〃　…スポーツ出前講座を児童館，公民館，老人ホーム等で巡回開催
②多種目単世代型…スポーツ少年団が年間を通して，他の種目やスポーツイベントに取り組む。
↓
いずれも徐々に種目や世代を増やしていく事で，多種目多世代を実現できる。

■ *「**立ち上げまでに５，６年**かけてもいい。じっくり**できることをやった方が歯車が回る。**」*

■ *「**行政**ができることは**民間の後押し**である。（民間は学校でチラシさえ配らせてもらえない）」*

■ *「自分たちでできるところ見定めて，**小さな活動からこじんまりと始めればいい。**」*

■ *「**いいところにはいいネットワークができる。**」*

■ *「自分たちの市町では**本当に必要なのかを見定める**のが大事。」*

（2）プログラム，運営

■ *「**スポーツバイキング**（七ヶ浜町の実践）」*

→スポーツのきっかけづくりで，誰でもそこへ行ったらスポーツできる。
各曜日ごとに種目を設定する。
食べるバイキングと一緒で，どんなスポーツを何種類やっても月々１，５００円。
子供たちに大好評。

■ *「子育て支援の**NPO**と連携して**託児室**を設ける。（多賀城市の実践）」*

■ *「**小学校のクラブ活動のように**行きたいときに行けるんだという環境づくり。」*

■ *「**文化活動**も取り入れながら**子供にはいろいろな可能性を**見せられると良い。」*

（3）普遍的理念・ことば

■ *「（総合型は）**スポーツをするための受付のような場。**親子スポーツ入門編。」*

■ *「**総合型クラブ作りは地域づくり。**」*

■ ***「夢のある人にしか夢のあるまちはつくれない　夢のあるまちにしか夢のある子供は育たない」***

3　参考資料

① 「スポーツ立国戦略　-スポーツコミュニティニッポン- 」【文部科学省ホームページ】
→今，国が目指すスポーツ立国の全容がわかる最新資料

② 「総合型地域スポーツクラブ育成マニュアル」【文部科学省ホームページ】
→総合型地域スポーツクラブの立ち上げ方の手順が分かりやすく丁寧に紹介されている。

③ 「総合型地域スポーツクラブガイド宮城版」【みやぎ広域スポーツセンター発行】
→宮城県内のクラブについて，クラブ立ち上げにおける主体，予算等について詳細に解説している。

④ 「生涯スポーツの振興をめざして－総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる－」
【大河原地区社会教育主事研究協議会　研修報告書　第36号】
→今回の報告書の元となったデータや資料を網羅した研修委員会渾身の一冊　必読。

（注）本提言は，あくまで仙南地域のアンケート調査から導いた「最大公約数」的なクラブの姿であり，これが絶対である，というものではない事を付け加えておく。このプランをベースに各市町の事情に合わせて，生涯スポーツを振興していただきたいと切に望むものである。

資料編（昨年度のダイジェスト・アンケート調査データ）

平成２１年度　研修報告書　第３６号抜粋

生涯スポーツの振興をめざして
～総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる～

Ⅰ　研修テーマについて

1　主題設定の理由

（１）研修の目的

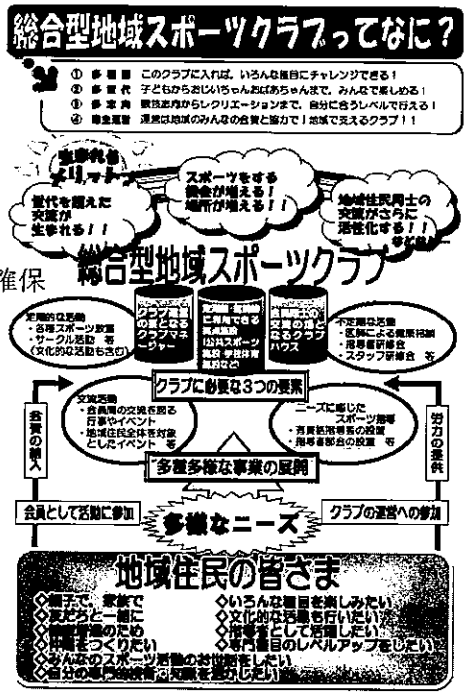
・大河原教育事務所管内のスポーツ活動について，その現状や課題を検証し，よりよいスポーツ行政のあり方を探る。

・大河原教育事務所管内の各市町におけるスポーツに関する住民アンケートを実施し，住民のスポーツ活動状況やスポーツに関する意識を把握する。

・大河原教育事務所管内の各市町における総合型地域スポーツクラブのあり方について探る。

（２）研修テーマ設定の理由（抜粋）

各市町に於けるスポーツの現状や課題を，また住民のスポーツ活動や意識を把握し，今後の社会体育行政の進展に生かす。



Ⅱ　総合型地域スポーツクラブとは

1　総合型地域スポーツクラブが必要とされる背景

・子供の体力低下

・成人のスポーツ実施率が低い現状

（国スポーツ振興計画の目標＝成人の週一回のスポーツ実施率５０％）

→総合型地域スポーツクラブによる活動の場の確保

2　総合型地域スポーツクラブ育成の課題

・地域住民が自らスポーツ環境を作る意識の未醸成

・総合型地域スポーツクラブの意義の理解不足

・創設推進のための人材不足

・財源の問題

・施設確保の問題

3　全国各地で設立されている総合型クラブ

・住民主導と自主運営～ＮＰＯ法人クラブレッツ～

・青少年の健全育成

～おおやのスポーツクラブ「ドリームス」～

・住民の健康・体力の増進～元気クラブ大安～

・学校運動部との連携

～ＮＰＯ法人ゆうスポーツクラブ～

・一貫システムの確率と競技力の向上～社団法人塩竈フットボールクラブ～

Ⅲ　管内の例（スポーツコミュニケーション・かくだ）

1　クラブの概要

設立	平成２０年３月２８日
活動拠点	角田市総合体育館
代表者名	会長　草間　進
会員総数	228名（一般会員207名　役員等21名）
クラブマネージャー	有り（事務局担当者）
クラブハウス	無
法人格資格	無

2設立の経緯

角田市新長期総合計画，後期基本計画（平成１８年度策定）の中の「スポーツ・レクリエーション活動の充実」を受け，角田市体育協会が中心となり，研修会を重ね，設立に至った。

Ⅳ　管内の現状と課題

1　スポーツの現状と課題　　（　）内の数字は課題とした市町の数

施設の老朽化・指導者不足，各（５）　少子化による子供のスポーツ人口の減少・各種連携の不足，各（４）施設不足・参加者の固定化，各（３）競技者の高齢化・施設との距離・管理・研修，各（２）　若年層のスポーツ離れ・行政に対する要望の多様化・事業の見直し・競技者の底辺拡大・子供の体力低下，各（１）

2　スポーツに関するアンケート調査結果の要点

（１）調査の目的（略）

（２）調査時期　平成２１年１２月１日配布　１８日回収

（３）調査対象　大河原管内２市７町　小学校高学年　中学２年　高校以上の男女

（４）調査方法　無作為抽出法　　（３、４１３サンプル）

有効回答　小中学生　　７０８サンプル（６８．７％）

一般　　１，５７３サンプル（６６．０％）

（５）アンケートのまとめ

○一般対象のアンケートから

・回答者の半数にあたる７８６人が運動やスポーツを「していない」と回答している。その理由として「時間がない」が６割，「機会がない」が４割を超える。

・運動やスポーツをしていると回答した７６０人中２割が運動やスポーツをする際に「時間が足りない」ことで不満を感じている。

・自由記述の中でも「時間」に関することが数多く記載されている。

・一般住民は，スポーツをしたくても，仕事や家事等に追われてスポーツをする時間がないという状況にある。

○小中学生対象のアンケートから

・学校の授業や休み時間以外でも，８割が運動やスポーツをしていると回答している。

・運動やスポーツで困っていることとして「メンバーが足りない」「時間が足りない」「上達しない」が多かった。

・自由記述の中での要望としては，「スポーツをする場所」「時間」「指導者等への要望」に関することが多い。スポーツはしているものの，場所，時間，指導者等に不満を感じているという状況である。

○自由記述（上記以外）で多かった意見から

・病気や年齢的な体力の衰え，高齢者ができるウォーキングや健康体操等のスポーツ教室の設立。（同意見９）

・年会費が安く参加が自由，大人も子供も参加でき，家族で参加できるクラブなら入会したい。（同意見７）

・小さい子供がいても一緒に，家族でも参加でき，勝負に関係なく楽しくできるクラブの設立を。（同意見４）

・施設を充実させ，レッスンの種類，競技の種類が増えるといいと思う。（同意見９）

Ⅴ　先進地視察研修から

1　視察地

（１）登米市教育委員会生涯学習課➡総合型地域スポーツクラブ設立への行政の関わり

（２）なかだスポーツクラブ“パティオ”➡クラブ立ち上げまでの経緯と運営状況の具体例

2　主な視察内容

（１）総合型地域スポーツクラブ設立までの経緯➡市のスポーツ振興計画と教育長の強い方針

➡例としての迫では２年かがりで設立

（２）総合型地域スポーツクラブ設立の状況➡旧町域毎にスタイルの違うスポーツクラブ

➡単にスポーツをする場の提供だけでない様々な利点の発見。社会体育行政の一翼を担う場面も

Ⅵ　まとめと課題

アンケートの結果及び考察は，前述（Ⅳ－２－（５））の通りである。

各市町のスポーツの現状と課題についてはⅤ－１で触れたように，各市町とも既存の体育施設を活用して，様々な団体が様々なスポーツ活動を実施していることが伺えた。また，体育施設の老朽化，スポーツ団体加入者の高齢化，少子化に伴うスポーツ少年団登録者の減少，指導者や活動場所の不足などがあげられた。

登米市教育委員会と，「なかだスポーツクラブ“パティオ”」の視察では，担当者がクラブの設立に向けて鋭意努力していること，パティオでは既存の体育団体などとうまく連携しながら活動していることに驚いた。

このような現状を踏まえ，また，アンケート調査の分析を通して，研修２年目となる平成２２年度には，課題解決の方策や，総合型地域スポーツクラブについての提言をまとめることとしたい。

スポーツに関するアンケート調査　集計データ一覧

※ 比率はすべて百分率(%)で表し，小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って，合計が100%を上下する場合もある(割合の合計は，100%として記載している)。
※ 基数となるべき実数は，“N＝○○○”として掲載し，各比率はNを100%として算出している。
※ 質問の終わりに【複数回答】とある問いは，1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問いであり，従って各回答の合計比率は100%を超える場合がある。

一　般	小・中学生

1. 基本属性

問1　あなたの性別をお答えください。

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	男	656	41.7%
②	女	886	56.3%
	無回答	31	2.0%
	計	1,573	100.0%

問2　あなたの年齢をお答えください。

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	10歳代	95	6.0%
②	20歳代	29	1.8%
③	30歳代	446	28.4%
④	40歳代	625	39.7%
⑤	50歳代	127	8.1%
⑥	60歳代	63	4.0%
⑦	70歳代	117	7.4%
⑧	80歳代以上	55	3.5%
	無回答	16	1.0%
	計	1,573	100.0%

問3　あなたの職業をお答えください。

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	学生	90	5.7%
②	パート・アルバイト	267	17.0%
③	会社員	556	35.3%
④	公務員・団体職員	110	7.0%
⑤	自営業	107	6.8%
⑥	農林水産業	41	2.6%
⑦	主婦	216	13.7%
⑧	無職	132	8.4%
⑨	その他	31	2.0%
	無回答	23	1.5%
	計	1,573	100.0%

回答者の居住市町

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	白石市	228	14.5%
②	角田市	205	13.0%
③	蔵王町	88	5.6%
④	七ヶ宿町	56	3.6%
⑤	大河原町	140	8.9%
⑥	柴田町	249	15.8%
⑦	村田町	105	6.7%
⑧	川崎町	89	5.7%
⑨	丸森町	408	25.9%
	無回答	5	0.3%
	計	1,573	100.0%

問1　あなたの性別をお答えください。

	N＝ 708	回答数	割合
①	男	350	49.4%
②	女	358	50.6%
	無回答	0	0.0%
	計	708	100.0%

問2　あなたの学年をお答えください。

	N＝ 708	回答数	割合
①	小学校5年生	414	58.5%
②	小学校6年生	3	0.4%
③	中学校2年生	291	41.1%
	無回答	0	0.0%
	計	708	100.0%

回答者の居住市町

	N＝ 708	回答数	割合
①	白石市	114	16.1%
②	角田市	85	12.0%
③	蔵王町	47	6.6%
④	七ヶ宿町	23	3.2%
⑤	大河原町	64	9.0%
⑥	柴田町	105	14.8%
⑦	村田町	34	4.8%
⑧	川崎町	45	6.4%
⑨	丸森町	189	26.7%
	無回答	2	0.3%
	計	708	100.0%

2. 運動・スポーツの現状調査

一　般

問4　あなたは，どのくらい運動やスポーツをしていますか。

N＝ 1,573		回答数	割合
①	週に4回以上	112	7.1%
②	週に2～3回程度	181	11.5%
③	週に1回程度	198	12.6%
④	月に1回程度	75	4.8%
⑤	大会前の一定期間や特定の季節	176	11.2%
⑥	その他	18	1.1%
⑦	していない	786	50.0%
	無回答	27	1.7%
	計	1,573	100.0%

問5　あなたは，運動やスポーツのクラブやサークル等に加入していますか。

N＝ 760		回答数	割合
①	加入している	363	47.8%
②	加入していない	380	50.0%
	無回答	17	2.2%
	計	760	100.0%

問6　問5で「①加入している」を選んだ方にお聞きします。あなたが現在加入している運動やスポーツのクラブやサークル等の年間活動費（会費）はいくらですか。

N＝ 363		回答数	割合
①	3千円未満	121	33.3%
②	3千円～5千円	60	16.5%
③	5千円～1万円	65	17.9%
④	1万円以上	83	22.9%
	無回答	34	9.4%
	計	363	100.0%

問7　あなたは，運動やスポーツを主にどこで行っていますか。

N＝ 760		回答数	割合
①	市(町)内の体育施設	193	25.4%
②	市(町)外の体育施設	43	5.7%
③	学校体育施設	186	24.5%
④	民間体育施設	25	3.3%
⑤	自宅やその周辺	172	22.6%
⑥	その他	52	6.8%
	無回答	89	11.7%
	計	760	100.0%

小・中学生

問3　あなたは，学校の授業や休み時間以外に，運動やスポーツをしていますか。【複数回答】

N＝ 708		回答数	割合
①	学校の部活動でスポーツをしている	266	34.3%
②	スポーツ少年団・スポーツクラブに入ってスポーツをしている	148	19.1%
③	スポーツ教室や道場に入ってスポーツをしている	90	11.6%
④	①②③には入っていないがスポーツはよくする	137	17.7%
⑤	スポーツはあまり（ほとんど）しない	135	17.4%
	無回答	0	0.0%
	計	776	100.0%

問4　あなたは，学校の授業や休み時間以外に，運動やスポーツをどのくらいしていますか。（部活動をふくむ，1つに○）

N＝ 573		回答数	割合
①	週に4日以上	307	53.6%
②	週に2～3日	155	27.1%
③	週に1日くらい	81	14.1%
④	1か月に1～3日	7	1.2%
⑤	年に1～3日	1	0.2%
⑥	その他	5	0.9%
	無回答	17	3.0%
	計	573	100.0%

問5　あなたは学校の授業や休み時間以外での運動やスポーツをどこで行っていますか。（部活動をふくむ，あてはまるものすべてに○）【複数回答】

N＝ 573		回答数	割合
①	学校	352	61.4%
②	町の体育館やグランド	147	25.7%
③	町外の体育館やグランド	49	8.6%
④	自宅やその周辺	205	35.8%
⑤	プール	67	11.7%
⑥	道場など	29	5.1%
⑦	その他	22	3.8%
	無回答	18	3.1%
	計	889	155.1%

一　般

問8　あなたは，運動やスポーツをどんな目的で行っていますか。主なものを2つ答えてください。【複数回答】

	N＝ 760	回答数	割合
①	運動不足を解消・体力作り・健康維持	401	52.8%
②	体型維持・美容・ダイエット	75	9.9%
③	気分転換・ストレス解消	206	27.1%
④	スポーツが好き	187	24.6%
⑤	精神鍛錬・人格形成・自己啓発	28	3.7%
⑥	家族のふれあい	58	7.6%
⑦	仲間作り，人との交流	139	18.3%
⑧	つきあい	106	13.9%
⑨	運動技術向上・競技力向上	48	6.3%
⑩	競技会や大会への参加，試合に勝つため	86	11.3%
⑪	生活習慣の一部	35	4.6%
⑫	仕事として	22	2.9%
⑬	その他	8	1.1%
	無回答	28	3.7%
	計	1,094	143.9%

問9　あなたは，現在行っている運動やスポーツに満足していますか。

	N＝ 760	回答数	割合
①	満足している	284	37.4%
②	どちらかというと満足している	244	32.1%
③	あまり満足していない	156	20.5%
④	満足していない	30	3.9%
	無回答	46	6.1%
	計	760	100.0%

問10　あなたが運動やスポーツを行っていて，不満に思うことや困っていることはなんですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。【複数回答】

	N＝ 760	回答数	割合
①	特になし	397	52.2%
②	相手がいない	41	5.4%
③	場所がない	74	9.7%
④	お金がかかる	78	10.3%
⑤	時間がない	138	18.2%
⑥	技術が上達しない	54	7.1%
⑦	指導者不在	45	5.9%
⑧	その他	30	3.9%
	無回答	76	10.0%
	計	933	122.8%

小・中学生

問6　あなたが運動やスポーツをする理由は何ですか。※2つに○【複数回答】

	N＝ 573	回答数	割合
①	体力作りになるから	221	38.6%
②	運動不足を解消したいから	49	8.6%
③	健康に良いから	52	9.1%
④	気分転換やストレスを解消したいから	36	6.3%
⑤	体を動かしたいから	115	20.1%
⑥	仲間を作りたいから	17	3.0%
⑦	うまくなりたいから	183	31.9%
⑧	競技会や大会に参加したいから	12	2.1%
⑨	試合に勝ちたいから	102	17.8%
⑩	進学に生かせそうだから	9	1.6%
⑪	楽しいから	218	38.0%
⑫	家族や先生にすすめられたから	15	2.6%
⑬	友達にさそわれたから	19	3.3%
⑭	その他	16	2.8%
	無回答	19	3.3%
	計	1,048	182.9%

問7　あなたは，現在取り組んでいる運動やスポーツに満足していますか。

	N＝ 573	回答数	割合
①	満足している	337	58.8%
②	どちらかというと満足している	162	28.3%
③	あまり満足していない	41	7.2%
④	満足していない	13	2.3%
⑤	その他	2	0.3%
	無回答	18	3.1%
	計	540	94.2%

問8　あなたが運動やスポーツを行っていて，困っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）【複数回答】

	N＝ 573	回答数	割合
①	メンバーが足りない	130	22.7%
②	場所がない	38	6.6%
③	時間が足りない	109	19.0%
④	お金がかかる	24	4.2%
⑤	上達しない	92	16.1%
⑥	教えてくれる人がいない	33	5.8%
⑦	指導がきびしい	31	5.4%
⑧	楽しくない	30	5.2%
⑨	一人で通えない	38	6.6%
⑩	特にない	209	36.5%
⑪	その他	13	2.3%
	無回答	28	4.9%
	計	775	135.3%

一　般

問12 あなたが運動やスポーツをしていない理由はなんですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。【複数回答】

	N＝ 786	回答数	割合
①	運動が嫌い	99	12.6%
②	時間がない	488	62.1%
③	機会がない	340	43.3%
④	仲間がいない	91	11.6%
⑤	場所がない	44	5.6%
⑥	身体的理由	76	9.7%
⑦	必要を感じない	46	5.9%
⑧	チームやサークル，クラブ，教室がない	45	5.7%
⑨	その他	33	4.2%
	無回答	35	4.5%
	計	1,297	165.0%

小・中学生

問9 あなたが，運動・スポーツをあまりしない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

	N＝ 135	回答数	割合
①	うまくできないから	41	30.4%
②	きらいだから	27	20.0%
③	つまらないから	18	13.3%
④	疲れるから	31	23.0%
⑤	めんどうだから	20	14.8%
⑥	お金がかかるから	13	9.6%
⑦	活動するところが近くにないから	26	19.3%
⑧	いっしょにする相手がいないから	28	20.7%
⑨	他にしたいことがあるから	30	22.2%
⑩	勉強や習い事で忙しいから	25	18.5%
⑪	体の調子が悪くてできないから	1	0.7%
⑫	自分がやりたいと思う運動やスポーツがないから	40	29.6%
⑬	その他	6	4.4%
	無回答	4	3.0%
	計	310	229.6%

3．入ってみたいクラブ像について

問13 あなたがスポーツクラブやサークルに加入するとしたら，次のどのようなクラブに加入してみたいですか。次の①～⑧のそれぞれの項目について，「A 加入してみたい」「B どちらともいえない」「C 加入したくない」から選んで○印をつけてください。なお，現在，スポーツクラブやサークルに加入している方は，「改めて加入するとしたら」と考えてください。

① ひとつのスポーツ種目に，専門的に取り組めるクラブ

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	加入してみたい	440	28.0%
②	どちらともいえない	611	38.8%
③	加入したくない	326	20.7%
	無回答	196	12.5%
	計	1,573	100.0%

② やりたいときに気軽に参加できるクラブ

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	加入してみたい	943	59.9%
②	どちらともいえない	320	20.3%
③	加入したくない	140	8.9%
	無回答	170	10.8%
	計	1,573	100.0%

問10 もし，あなたがスポーツクラブに入るとしたら，どのようなクラブに入ってみたいですか。下の表①～⑦のクラブそれぞれについて「A 入ってみたい」「B どちらともいえない」「C 入りたくない」のうちから1つ選んで○印をつけてください。(すでに部活やスポーツクラブなどに入っている方は，「新しく入るとしたら」と考えてください)

① ひとつのスポーツ種目だけを行うクラブ

	N＝ 708	回答数	割合
①	入ってみたい	292	41.2%
②	どちらともいえない	313	44.2%
③	入りたくない	78	11.0%
	無回答	25	3.5%
	計	708	100.0%

② やりたいときに気軽に参加できるクラブ

	N＝ 708	回答数	割合
①	入ってみたい	432	61.0%
②	どちらともいえない	180	25.4%
③	入りたくない	72	10.2%
	無回答	24	3.4%
	計	708	100.0%

一　般

③ いろいろなスポーツを楽しめるクラブ

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	加入してみたい	434	27.6%
②	どちらともいえない	665	42.3%
③	加入したくない	264	16.8%
	無回答	210	13.4%
	計	1,573	100.0%

④ 定期的にスポーツを楽しめるクラブ

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	加入してみたい	455	28.9%
②	どちらともいえない	676	43.0%
③	加入したくない	231	14.7%
	無回答	211	13.4%
	計	1,573	100.0%

⑤ 家族で一緒に活動できるクラブ

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	加入してみたい	598	38.0%
②	どちらともいえない	577	36.7%
③	加入したくない	194	12.3%
	無回答	204	13.0%
	計	1,573	100.0%

⑥ 文化的なことや趣味的なことにも取り組めるクラブ

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	加入してみたい	466	29.6%
②	どちらともいえない	624	39.7%
③	加入したくない	278	17.7%
	無回答	205	13.0%
	計	1,573	100.0%

⑦ レクリェーション的なことや交流が楽しめるクラブ

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	加入してみたい	501	31.8%
②	どちらともいえない	625	39.7%
③	加入したくない	253	16.1%
	無回答	194	12.3%
	計	1,573	100.0%

⑧ スポーツや健康に関する講座教室のあるクラブ

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	加入してみたい	385	24.5%
②	どちらともいえない	676	43.0%
③	加入したくない	292	18.6%
	無回答	220	14.0%
	計	1,573	100.0%

問14　あなたが入りたいと思うスポーツクラブやサークルがあった場合，そのクラブの年会費がどのくらいなら参加したいと思いますか。クラブは週1回活動するものとします。

	N＝ 1,573	回答数	割合
①	3千円未満	681	43.3%
②	3千円～5千円	462	29.4%
③	5千円～1万円	206	13.1%
④	1万円以上	31	2.0%
	無回答	193	12.3%
	計	1,573	100.0%

小・中学生

③ いろいろなスポーツを楽しめるクラブ

	N＝ 708	回答数	割合
①	入ってみたい	396	55.9%
②	どちらともいえない	209	29.5%
③	入りたくない	72	10.2%
	無回答	31	4.4%
	計	708	100.0%

④ 決まった曜日にスポーツを楽しめるクラブ

	N＝ 708	回答数	割合
①	入ってみたい	312	44.1%
②	どちらともいえない	301	42.5%
③	入りたくない	65	9.2%
	無回答	30	4.2%
	計	708	100.0%

⑤ 家族で一緒に活動できるクラブ

	N＝ 708	回答数	割合
①	入ってみたい	166	23.4%
②	どちらともいえない	333	47.0%
③	入りたくない	174	24.6%
	無回答	35	4.9%
	計	708	100.0%

⑥ スポーツ以外の事（将棋や英会話，書道など）にも取り組めるクラブ

	N＝ 708	回答数	割合
①	入ってみたい	219	30.9%
②	どちらともいえない	240	33.9%
③	入りたくない	217	30.6%
	無回答	32	4.5%
	計	708	100.0%

⑦ レクリェーション（ゲームやダンス）が楽しめるクラブ

	N＝ 708	回答数	割合
①	入ってみたい	216	30.5%
②	どちらともいえない	249	35.2%
③	入りたくない	209	29.5%
	無回答	34	4.8%
	計	708	100.0%

4．現在やっている，今後やってみたいスポーツ種目

問15 あなたは，次の運動やスポーツを現在行っていますか。また，今後，やってみたいと思いますか。現在行っているもの，今後やってみたいと思うものについて，それぞれの欄であてはまるものすべてに○印をつけてください。

問11 あなたは，次の運動やスポーツを現在やっていますか。また，今後，やってみたいと思いますか。現在やっているもの，今後やってみたいと思うものについて，それぞれのあてはまるものすべてに○印をつけてください。

		一般 N＝1,573				小・中学生 N＝708			
種目	人数割合	現在やっている	今後やってみたい	無回答	計	現在やっている	今後やってみたい	無回答	計
ラジオ体操	回答数	96	49	1,428	1,573	15	29	664	708
	割合	6.1%	3.1%	90.8%	100.0%	2.1%	4.1%	93.8%	100.0%
ヨガ・ピラティス	回答数	19	275	1,279	1,573	6	66	636	708
	割合	1.2%	17.5%	81.3%	100.0%	0.8%	9.3%	89.8%	100.0%
太極拳	回答数	7	117	1,449	1,573	0	52	656	708
	割合	0.4%	7.4%	92.1%	100.0%	0.0%	7.3%	92.7%	100.0%
フォークダンス	回答数	3	19	1,551	1,573	1	28	679	708
	割合	0.2%	1.2%	98.6%	100.0%	0.1%	4.0%	95.9%	100.0%
社交ダンス	回答数	8	59	1,506	1,573	1	23	684	708
	割合	0.5%	3.8%	95.7%	100.0%	0.1%	3.2%	96.6%	100.0%
舞踊	回答数	9	25	1,539	1,573	8	26	674	708
	割合	0.6%	1.6%	97.8%	100.0%	1.1%	3.7%	95.2%	100.0%
エアロビクス	回答数	10	118	1,445	1,573	0	27	681	708
	割合	0.6%	7.5%	91.9%	100.0%	0.0%	3.8%	96.2%	100.0%
よさこい	回答数	9	85	1,479	1,573	10	60	638	708
	割合	0.6%	5.4%	94.0%	100.0%	1.4%	8.5%	90.1%	100.0%
柔道	回答数	7	18	1,548	1,573	22	48	638	708
	割合	0.4%	1.1%	98.4%	100.0%	3.1%	6.8%	90.1%	100.0%
剣道	回答数	11	24	1,538	1,573	23	88	597	708
	割合	0.7%	1.5%	97.8%	100.0%	3.2%	12.4%	84.3%	100.0%
空手	回答数	8	51	1,514	1,573	21	89	598	708
	割合	0.5%	3.2%	96.2%	100.0%	3.0%	12.6%	84.5%	100.0%
合気道	回答数	0	66	1,507	1,573	2	55	651	708
	割合	0.0%	4.2%	95.8%	100.0%	0.3%	7.8%	91.9%	100.0%
弓道	回答数	4	64	1,505	1,573	1	144	563	708
	割合	0.3%	4.1%	95.7%	100.0%	0.1%	20.3%	79.5%	100.0%
少林寺拳法	回答数	2	55	1,516	1,573	2	81	625	708
	割合	0.1%	3.5%	96.4%	100.0%	0.3%	11.4%	88.3%	100.0%
ボクシング	回答数	3	66	1,504	1,573	1	59	648	708
	割合	0.2%	4.2%	95.6%	100.0%	0.1%	8.3%	91.5%	100.0%
相撲	回答数	0	6	1,567	1,573	2	9	697	708
	割合	0.0%	0.4%	99.6%	100.0%	0.3%	1.3%	98.4%	100.0%
バレーボール	回答数	144	111	1,318	1,573	67	129	512	708
	割合	9.2%	7.1%	83.8%	100.0%	9.5%	18.2%	72.3%	100.0%
卓球	回答数	37	125	1,411	1,573	55	120	533	708
	割合	2.4%	7.9%	89.7%	100.0%	7.8%	16.9%	75.3%	100.0%
テニス・バウンドテニス	回答数	21	159	1,393	1,573	59	149	500	708
	割合	1.3%	10.1%	88.6%	100.0%	8.3%	21.0%	70.6%	100.0%
バトミントン	回答数	43	203	1,327	1,573	63	167	478	708
	割合	2.7%	12.9%	84.4%	100.0%	8.9%	23.6%	67.5%	100.0%
野球	回答数	50	68	1,455	1,573	90	117	501	708
	割合	3.2%	4.3%	92.5%	100.0%	12.7%	16.5%	70.8%	100.0%
ソフトボール	回答数	43	82	1,448	1,573	16	84	608	708
	割合	2.7%	5.2%	92.1%	100.0%	2.3%	11.9%	85.9%	100.0%
サッカー・フットサル	回答数	18	54	1,501	1,573	57	113	538	708
	割合	1.1%	3.4%	95.4%	100.0%	8.1%	16.0%	76.0%	100.0%
ラグビー	回答数	4	9	1,560	1,573	2	33	673	708
	割合	0.3%	0.6%	99.2%	100.0%	0.3%	4.7%	95.1%	100.0%

		一般 N＝1,573				小・中学生 N＝708			
種目	人数 割合	現在 やっている	今後 やってみたい	無回答	計	現在 やっている	今後 やってみたい	無回答	計
バスケットボール	回答数	28	90	1,455	1,573	73	172	463	708
	割合	1.8%	5.7%	92.5%	100.0%	10.3%	24.3%	65.4%	100.0%
ボウリング	回答数	33	182	1,358	1,573	19	187	502	708
	割合	2.1%	11.6%	86.3%	100.0%	2.7%	26.4%	70.9%	100.0%
ドッチボール・ドッチビー（小中のみ）	回答数	－	－	－	－	47	157	504	708
	割合	－	－	－	－	6.6%	22.2%	71.2%	100.0%
陸上競技（マラソンを含む）	回答数	24	52	1,497	1,573	51	72	585	708
	割合	1.5%	3.3%	95.2%	100.0%	7.2%	10.2%	82.6%	100.0%
競泳・水球	回答数	8	53	1,512	1,573	21	74	613	708
	割合	0.5%	3.4%	96.1%	100.0%	3.0%	10.5%	86.6%	100.0%
水泳・アクアビクス	回答数	25	239	1,309	1,573	56	64	588	708
	割合	1.6%	15.2%	83.2%	100.0%	7.9%	9.0%	83.1%	100.0%
キャッチボール	回答数	126	89	1,358	1,573	165	88	455	708
	割合	8.0%	5.7%	86.3%	100.0%	23.3%	12.4%	64.3%	100.0%
ウォーキング・ジョギング	回答数	166	253	1,152	1,571	77	51	580	708
	割合	10.6%	16.1%	73.3%	100.0%	10.9%	7.2%	81.9%	100.0%
バッティングセンター	回答数	76	144	1,353	1,573	90	112	506	708
	割合	4.8%	9.2%	86.0%	100.0%	12.7%	15.8%	71.5%	100.0%
釣り	回答数	127	172	1,274	1,573	84	153	471	708
	割合	8.1%	10.9%	81.0%	100.0%	11.9%	21.6%	66.5%	100.0%
海水浴	回答数	41	56	1,476	1,573	36	84	588	708
	割合	2.6%	3.6%	93.8%	100.0%	5.1%	11.9%	83.1%	100.0%
サーフィン・ボディボード	回答数	11	51	1,511	1,573	5	60	643	708
	割合	0.7%	3.2%	96.1%	100.0%	0.7%	8.5%	90.8%	100.0%
その他のマリンスポーツ	回答数	2	109	1,462	1,573	0	66	642	708
	割合	0.1%	6.9%	92.9%	100.0%	0.0%	9.3%	90.7%	100.0%
スカイスポーツ	回答数	4	82	1,487	1,573	0	81	627	708
	割合	0.3%	5.2%	94.5%	100.0%	0.0%	11.4%	88.6%	100.0%
キャンプ	回答数	64	167	1,342	1,573	34	164	510	708
	割合	4.1%	10.6%	85.3%	100.0%	4.8%	23.2%	72.0%	100.0%
サイクリング	回答数	37	145	1,391	1,573	26	96	586	708
	割合	2.4%	9.2%	88.4%	100.0%	3.7%	13.6%	82.8%	100.0%
登山・ハイキング	回答数	31	152	1,388	1,571	25	97	586	708
	割合	2.0%	9.7%	88.4%	100.0%	3.5%	13.7%	82.8%	100.0%
オリエンテーリング	回答数	0	30	1,543	1,573	3	56	649	708
	割合	0.0%	1.9%	98.1%	100.0%	0.4%	7.9%	91.7%	100.0%
スキー・スノーボード	回答数	118	145	1,308	1,571	90	157	461	708
	割合	7.5%	9.2%	83.3%	100.0%	12.7%	22.2%	65.1%	100.0%
スケート	回答数	4	86	1,483	1,573	8	177	523	708
	割合	0.3%	5.5%	94.3%	100.0%	1.1%	25.0%	73.9%	100.0%
ゴルフ	回答数	79	146	1,348	1,573	7	102	599	708
	割合	5.0%	9.3%	85.7%	100.0%	1.0%	14.4%	84.6%	100.0%
グラススキー	回答数	3	21	1,549	1,573	2	29	677	708
	割合	0.2%	1.3%	98.5%	100.0%	0.3%	4.1%	95.6%	100.0%
ゲートボール	回答数	29	18	1,526	1,573	3	35	670	708
	割合	1.8%	1.1%	97.0%	100.0%	0.4%	4.9%	94.6%	100.0%
ペタンク	回答数	17	26	1,530	1,573	3	24	681	708
	割合	1.1%	1.7%	97.3%	100.0%	0.4%	3.4%	96.2%	100.0%
グラウンド・ゴルフ	回答数	50	52	1,471	1,573	6	48	654	708
	割合	3.2%	3.3%	93.5%	100.0%	0.8%	6.8%	92.4%	100.0%
パークゴルフ	回答数	20	75	1,478	1,573	2	32	674	708
	割合	1.3%	4.8%	94.0%	100.0%	0.3%	4.5%	95.2%	100.0%
ターゲットバードゴルフ	回答数	0	18	1,555	1,573	0	25	683	708
	割合	0.0%	1.1%	98.9%	100.0%	0.0%	3.5%	96.5%	100.0%
スポーツクラブやジムでの運動など	回答数	30	232	1,311	1,573	16	73	619	708
	割合	1.9%	14.7%	83.3%	100.0%	2.3%	10.3%	87.4%	100.0%

まとめと課題

まとめと課題

昨年度に引き続き，今年度も，「生涯スポーツの振興をめざして」を研修テーマに，総合型地域スポーツクラブについて研究を深めることとした。昨年度の研修では，スポーツに関する住民の意識を把握することを目的に，アンケート調査を実施し，その中から，現状や課題を見いだすことができた。一般対象のアンケートでは，回答者の半数が運動やスポーツを「していない」という驚くべき事実が浮き彫りになった。その理由は「時間がない」「機会がない」であり，スポーツをしたくても，仕事や家事等に追われスポーツをする時間や機会がないという状況であった。一方，小中学生対象のアンケートでは，学校の授業や休み時間以外でも，８割以上が運動やスポーツをしていることが分かった。しかし，運動やスポーツで困っていることは「メンバーが足りない」「時間が足りない」「上達しない」「スポーツする場所がない」等，場所，時間，指導者等に不満を感じていた。

また，大河原教育事務所管内での各市町のスポーツの現状と課題では，既存の体育施設を活用しながら様々な団体が多様なスポーツ活動を実施しているが，課題としては，体育施設の老朽化，少子高齢化による団体・会員の減少，指導者や活動場所の不足が上げられた。

今年度は，さらにアンケート調査を詳細に分析するため「一般」「小中学生」の調査結果を「運動・スポーツを『している』『していない』」に分けてそれぞれに課題やニーズを調査した。

また，最も入ってみたいと思うスポーツクラブの形態について調査してみると「やりたいときに気軽に参加できるクラブ」が「一般」及び「小中学生」ともに一番多かった。さらに，今後してみたい種目の「一般」では，ヨガ・ピラティス，ウォーキング・ジョギング，水泳・アクアビクスなどの「個人もしくは少人数でできる種目」が多かった。「小中学生」でも，ボウリング，スケート，バスケットボール，バドミントン，キャンプなどやはり同様の傾向が見られた。

先進地視察研修の七ヶ浜町「アクアゆめクラブ」では，やはり首長のトップダウンと首長と教育長の連携が重要であり，スポーツ振興によるまちづくりという基本方針が必要だと感じた。また，興味関心を持って本気になってやってくれるキーパーソンが必要であり，行政主導でやっても長続きはしないし，体育協会やスポーツ少年団等との連携は必要不可欠であることなどの示唆を受けた。次に，多賀城市「市民スポーツクラブ」では，目的として，市民の健康増進とコミュニティーの促進，豊かな高齢化社会の創造及び青少年の健全育成など明るく豊かで活力に満ちたまちづくりを掲げている。また，体育協会やスポーツ少年団から人的協力をいただいている。課題としては，行政とのコミュニケーション，地域の人材活用や育成，指導者のレベルの向上，地域のＮＰＯなど様々な団体との連携が大切なことなどを感じることができた。

講話及び座談会では，「スポーツコミュニケーション・かくだ」会長草間進様よりご指導を賜り，クラブ設立のきっかけ，行政の役割，体育協会・スポーツ少年団・地域との協力関係，運営・活用・経費，今後の発展・展望・提言について，意見交換の中から，地域のおんちゃんたちが子供たちのために何ができるのか。また，親子スポーツ入門編をメインに小学校のクラブ活動を基本して，いろんなスポーツをいろんな世代で出来れば，それこそが総合型地域スポーツクラブではないのか，などの話をいただいた。

国では，スポーツ立国戦略ースポーツコミュニティ・ニッポンーの中で，国民の誰もが，それぞれの体力や年齢・技術，興味・目的に応じて，いつでも，どこでも，いつまでもスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現をめざしている。

何といっても最大の課題は，角田市以外の管内各市町で，総合型地域スポーツクラブを立ち上げることである。そこで，これまでの２年間の研修から「仙南における総合型地域スポーツクラブ『仙南型総合スポーツクラブ』」の在り方を「仙南プランのススメ」として，提言をまとめることができた。

おわりに

平成２２年度の研修委員会では「総合型地域スポーツクラブ」について，引き続き研修を行うことになりました。しかし，研修委員のほとんど（１１人中７人）が変わってしまい，役員の選出についても苦慮したところであり，村田町の佐藤隆法さんの並々ならぬご推薦を受け，はからずも研修委員長を引き受けてしまいました。研修副委員長には，引き続き大河原町の平林健さんにお願いをし，快くお引き受けいただきました。また，研修委員会では，今年度の研修を進めていく上で，共通理解を図るため，昨年度一年間の研究内容について，改めて，研修を行うこととしました。昨年度は，総合型地域スポーツクラブってなに？といった入門編や「スポーツコミュニケーション・かくだ」の設立から現在の状況，各市町のスポーツの現状と課題，スポーツに関するアンケート調査，先進地視察研修，などについて，現在の各市町の状況を把握しながら研究を深めました。

今年度は，昨年度実施したアンケート調査を詳細に分析する中で，入ってみたいスポーツクラブや今後してみたいスポーツ種目などから，ある程度の方向性を見いだすことができました。先進地研修視察では，「総合型地域スポーツクラブ」について，七ヶ浜町「アクアゆめクラブ」多賀城市「市民スポーツクラブ」の方々に設立までの経緯や運営・活用・予算の状況等について，貴重なお話をいただき大きな収穫となりました。また「講話及び座談会」では，「スポーツコミュニケーション・かくだ」会長の草間進様に，熱意あふれるご指導をいただきました。改めて，皆様に深く感謝申し上げます。

以上のような研修から，「仙南における総合型地域スポーツクラブ『仙南型総合スポーツクラブ』」の在り方を「仙南プランのススメ」として提言することが出来ましたことは，社会教育主事のみならず，各市町の担当者にとって大変有意義なものになったと思います。

最後となりましたが，一年を通じて多忙な通常業務をこなしながら，熱心に研修に取り組んだ各市町の研修委員に敬意を表するとともに，ご協力いただきました多くの方々に心より感謝を申し上げ，おわりの言葉といたします。本当にありがとうございました。

平成２３年３月

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会
研修委員長　白石市社会教育主事　小室　徹彦

【大河原地区社会教育主事研究協議会研究同人】

白石市社会教育主事	◎小室　徹彦	小野　輝彦		
角田市社会教育主事	※大内　克典			
蔵王町社会教育主事	日下　朝男	川井　由美	※玉手　美絵	
七ヶ宿町社会教育主事	※伊藤　貴子			
大河原町社会教育主事	尾形　彰	○平林　健		
村田町社会教育主事	藤原　秀光	※佐藤　隆法	佐藤　裕史	
柴田町社会教育主事	鈴木　照二	石上　幸弘	☆大川原真一	※齋藤　良美
	高橋　秀之	杉本　龍司		
川崎町社会教育主事	村上　透	※我妻　聡美		
丸森町社会教育主事	窪田　高広	齋藤　公男	◇伊藤　博道	※齋藤　洋寿
仙南広域社会教育主事	渡部　勇造	※佐々木洋佑		
大河原教育事務所	山本　玲	※横塚　正己		

☆研究協議会長
◇研究協議会副会長
◎研修委員長
○研修副委員長
※研修委員